

# 武蔵国分寺跡発掘調査概報

38

—昭和54～60年度 僧寺寺院地内等の調査—

2013年3月

国分寺市教育委員会  
国分寺市遺跡調査会



## 序

報告「概報」38は、昭和54～60年度に僧寺の寺院地区内とそこに隣接する周辺地区を対象に実施した、主に個人住宅の建設に伴う緊急調査の報告を収録したものです。

国分寺市は、その市名が奈良時代に聖武天皇によって詔された武蔵国分寺に由来することは周知のことです。市内には武蔵国分寺跡を始め旧石器時代から中世まで各時代の遺跡が数多く残されています。こうした遺跡における調査は国分寺市教育委員会が国・都の補助金を受けて、国分寺市遺跡調査会に委託して実施しています。その成果の一端については、すでに「年報」・「概報」において報告してきました。

本報告書では、縄文時代の竪穴住居跡と、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡等とそこから出土する瓦や土師器・須恵器等の多彩な遺構・遺物が報告されており、国分寺崖線の豊かな緑と豊富な湧水に恵まれているこの地に連続と人々が生活してきたことが明らかにされています。

収録した調査地の面積は、6～140㎡と一様ではなく、比較的小規模な調査ですが、このような調査を積み重ねることで武蔵国分寺の核心に迫ることができるものと考えております。また、こうした発掘調査の成果は研究者のみならず、学校教育の場においても児童・生徒に国分寺市の歴史を良く知ってもらうための一助となることを願います。

本書をまとめることができましたのは、発掘調査にあたり、多大なご協力をいただきました施主様をはじめとする関係諸機関の皆様方、並びに近隣住民の方々のご理解・ご尽力のたまものです。この成果をここに披露し、厚く御礼申し上げます。

平成25年3月

国分寺教育委員会  
教育長 松井 敏夫

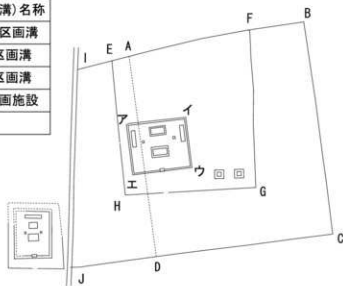




## 例 言

1. 本書は東京都国分寺市西元町・東元町に所在する武蔵国分寺跡において、昭和49年以来実施されている発掘調査の内、昭和54年度から昭和60年度までに行った住宅建設等に伴う記録保存のための緊急調査で、主に僧寺寺院地内の調査成果をまとめたものである。調査に係る費用は国庫補助により負担した。
2. 本書の作成作業は平成24年4月1日から国分寺市遺跡調査会で行い、平成25年3月31日の刊行とした。
3. 本書の執筆は、各調査区の担当調査員の所見を基に上敷領久・依田亮一(第4章2)が行い、中道誠・増井有真・寺前めぐみがこれを助けた。
4. 本書の編集、挿図・表等の作成は増井が行った。本書の作成にはMicrosoft®Word®・Excel®、Adobe®Illustrator®・Photoshop®・Indesign®の各ソフトを用いた。
5. 遺物観察表の作成は上敷領・依田・中道・増井が行った。
6. 遺物の実測作業は上敷領の指示の下、大塚敦子・大羽正子・小野祐子・佐藤令・相馬しのぶ・高橋より子・山口啓子が行った。
7. 本書のトレース・版下作成作業は上敷領の指示の下、主に桂弘美・佐藤令が行った。
8. 本遺跡の出土遺物、調査記録、データは国分寺市教育委員会が保管している。
9. 武蔵国分寺の規模・構造にかかわる名称は、以下のように統一している。

区画範囲	名称	区画施設(溝)名称
ABCD	古寺院地	古寺院地区画溝
IBCJ	寺院地	寺院地区画溝
EFGH	伽藍地	伽藍地区画溝
アイエ	中枢纽	中枢纽区画施設
周辺集落分布域	寺地	



第1図 武蔵国分寺の構造と名称

10. 武蔵国分寺の盛衰については、昭和40年代からの調査事例の累積によって、次のような変遷を辿ることが判明しており、本書においても以下の時期区分を使用する。

【第Ⅰ期】8世紀中葉の創建期を中心とする時期。七重塔を中心とする区画①を取るⅠa期と、区画①の西辺を埋め戻して金堂・講堂を中心とする区画②に変更し、尼寺の造営も開始されるⅠb期、二寺の造営が完了するⅠc期に細分する。

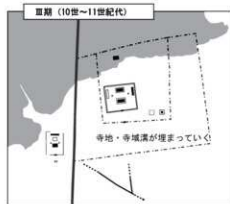
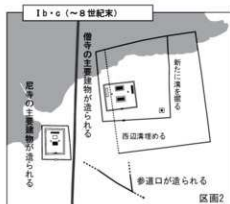
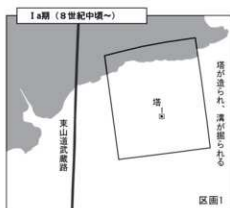
【第Ⅱ期】僧寺寺院地を西へ拡張して東山道武蔵路と接続する区画③を取る時期。承和12年(845)の七重塔再建に伴う寺院の整備・拡充期と捉えられ、おおむね9世紀代に相当する。

【第Ⅲ期】区画変更は行われず、寺院地内に堅穴住居跡が増加する衰退期。10・11世紀代に相当する。

11. 本書に収録した発掘調査の原図には、測量値が不明なものがあり、当時の日誌等をもとにできる限り補正したが、標高値など一部確認できないものについては空欄のまま掲載した。
12. 報告書作成にあたっては下記の方々にご協力、ご教示を賜りました。記して感謝の意を表する次第です(敬称略、五十音順)。

黒尾和久(国立ハンセン病資料館)

中山真治(府中市教育委員会)



第2図 武蔵国分寺変遷図

## 凡 例

1. 遺構は遺跡をとおしてほぼ発見順に連続番号を付し下記の遺構記号を冠して表示し、縄文時代の遺構は末尾にJを付した。

SB 掘立柱建物 SI 竪穴住居 SD 溝 SK 土坑 SS 集石土坑

2. 遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

### — 歴史時代 —

#### 【土器類】

PH 土師器 PK 須恵器 PL 土師質土器 PN 灰釉陶器 PT 中近世陶器

#### 【瓦 埴 類】

KA 鏡瓦 KB 宇瓦 KC 男瓦 KD 女瓦 KG 鬼瓦 KH 埴

#### 【土 製 品】

TH 土錘 TK 羽口

#### 【石 製 品】

GL 砥石

#### 【金属製品】

MM 釘 MZ 不明鉄製品

### — 縄文時代 —









#### 【土器類】

JE 中期前半 JF 中期後半 JG 後期

#### 【石器類】

AG 打製石斧 AL 磨石

3. 遺物の記述については一覧表とした。表は調査次数順にまとめ、原則として図面番号順に列記してある。遺物一覧表の表記方法は次項を参照のこと。
4. 遺構断面図表示の数字は水系レベルで海拔高を示す。ただし、一部原図に示されていないものは空欄とした。
5. 遺構のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

 III b層	 III c層	 IV・V層
 柱穴跡	 硬化面	 カク乱
 カマド粘土	 受熱部分	

6. 遺構図面の縮尺は次のとおり統一し、逐一スケールバーで示した。また、いずれも特記のない限り図面上が座標北である。

遺構配置図 1/200・1/500 遺構個別図 1/30・1/40・1/60・1/80

7. 遺物のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。



8. 遺物図面（遺物図版）中の英数字の示す項目は以下の通りである。

【上段】 枝番号・遺構名・調査回数 - 遺物番号

[例] 1 SI23 45-KA67

（図面（図版）89-10）

【下段】 対応する図面（図版）番号

9. 遺物の縮尺は図面・図版とも次のとおり統一し、図面では逐一スケールバーで示した。

土器類 1/3 瓦埴類 1/4 土製品 1/3 石製品 1/3 金属製品 1/3

石器類 1/3

## 出土遺物一覧表の表記方法

### (1) 各遺物共通

- イ、出土位置の「カマド」はカマド構築土・崩壊土およびカマド覆土、「床直」は床面直上出土を示す。  
ロ、計測値は、cm で表す。記号なしは完数値、( ) は復元数値、( ) は残存数値、- は計測不可を示す。

### (2) 土器類

イ、種別 土：土師器 須A：還元焙焼成須恵器 須B：酸化焙焼成須恵器 土師質：土師質土器 灰：灰陶器 緑：緑釉陶器

### (3) 瓦

#### 甍瓦

- イ、中房の形状
- A 中房が凸型のもの
    - A1 断面方形のもの
    - A2 断面半球形のもの
  - B 中房の輪郭を凸線で表わすもの
    - B1 内部が平坦なもの
    - B2 内部が半球形に盛り上がるもの
- ロ、弁の形状
- S 素弁
    - A 弁の輪郭線(凸線)がなく、全体が盛り上がるもの
    - B 弁が輪郭線(凸線)のみで表わされるもの
    - C 弁の輪郭線(凸線)があり、内部全体が盛り上がるもの
    - D 弁の輪郭線(凸線)があり、内部が盛り上がるものの中房側が凹むもの
  - T 単弁

ハ、外区文様 a=素文、b=珠文、c=その他、などがあり、内外縁の区別がないものは外縁側に記入。

#### 二、製作技法

- A 接着技法
- B さしこみ技法
  - J 一般的なもの
  - II 瓦当部が二段重ねて分厚く作られるもの
- C 一本作り技法
  - I 瓦当裏面の布目にしぼりがあるもの
  - II 瓦当裏面の布目にしぼりが無いもの
- D はめこみ技法
  - I 半載後の男瓦広端側にはめこむもの
  - II 半載前の円筒の広端側にはめこみ、不要部分を切り落とすもの

#### 宇瓦

イ、内区文様 G=重凸文、KK=均整唐草文、HK=偏行唐草文、H=ヘラ書文、K=格子文、J=縄文、M=無文、0=その他  
ロ、上・下区、脇区文様 a=素文、b=珠文、c=長円珠文、d=圏線文、e=鋸歯文、f=凸線文、g=その他

#### ハ、製作技法

- A 接着技法
- B さしこみ技法
- C 折り曲げ技法
- D 貼り付け技法 女瓦凸面に粘土を貼り付け瓦当部を作るもの

#### 二、型の形態

- A 直線型
  - a 瓦当凸面を調整するもの
  - b 瓦当部と女瓦部の境部分のみ調整するもの
  - c 不調整のもの
- B 段型
  - B1 瓦当凸面と凹面が平行するもの
    - a 瓦当凸面および瓦当裏面を調整するもの
    - b 瓦当凸面のみ調整するもの
  - B2 B1・B3以外のもの
    - c 瓦当裏面のみ調整するもの
    - d 不調整のもの
  - B3 瓦当凸面が円みを持つもの
- C 曲線型
  - C1 一般的なもの
    - a 瓦当凸面を調整するもの
    - b 瓦当部と女瓦部の境部分を調整するもの
    - c 瓦当凸面および女瓦部の境部分を調整するもの
    - d 不調整のもの
  - C2 やや直線的なもの

#### 男瓦・女瓦

#### イ、製作技法

- |   |  |
|---|--|
| 男瓦 <ul style="list-style-type: none"> <li>I-1-A1技法 有段粘土組桶巻き作り</li> <li>I-1-B技法 有段粘土板桶巻き作り</li> <li>I-2-A1技法 無段隅落し粘土組桶巻き作り</li> <li>I-3-A1技法 無段粘土組桶巻き作り</li> <li>I-3-B技法 無段粘土板桶巻き作り</li> </ul> | 女瓦 <ul style="list-style-type: none"> <li>I-A1技法 粘土組桶巻き作り</li> <li>I-B技法 粘土板桶巻き作り</li> <li>II-1-A1技法 凸面型粘土横紐一枚作り</li> <li>II-1-A2技法 凸面型粘土縦紐一枚作り</li> <li>II-1-B技法 凸面型粘土一枚作り</li> <li>II-2-B技法 凹面型粘土一枚作り</li> </ul> |
|---|--|

#### ロ、布目本数

3cm四方内での側端縁に並行する糸数と狭・広端縁に並行する糸数を表す

#### ハ、縄叩き本数

3cm四方内での縄数を表す

#### 二、糸の捻り

- L 縄圧痕が右上がり左下がりの傾斜をなすもの
- R 縄圧痕が左上がり右下がりの傾斜をなすもの

#### ホ、粘土板合せ目

佐原分類のS・Zによる(佐原1972)

#### ヘ、布合せ目

亦に準ずる

#### ト、叩き締めの円弧

- A 叩き締めの円弧が一方
- B 叩き締めの円弧が「ハ」字状をなすもの

## 国分寺市遺跡調査会組織

平成 24 年度

### 役員および監事

会 長	坂詰 秀一	国分寺市文化財保護審議会会長
副 会 長	星野 亮雅	国分寺市文化財保護審議会副会長
理 事	星野 信夫	国分寺市長
理 事	富山 謙一	国分寺市教育委員会委員長
理 事	松井 敏夫	国分寺市教育委員会教育長
理 事	北原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	遠藤 慈郎	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	福嶋 司	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	安部 典子	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
専務理事	小山 則夫	国分寺市教育委員会教育部教育次長兼教育部長
監 事	榎戸 潔	元国分寺市社会教育委員
監 事	岡崎 完樹	東京都教育庁地域教育支援部管理課埋蔵文化財係学芸員
監 事	峯岸 桂一	元国分寺市職員

### 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会

委 員 長	坂詰 秀一	(考古学) 立正大学名誉教授
委 員	藤井 恵介	(建築史学) 東京大学大学院工学系研究科教授
委 員	佐藤 信	(古代史学) 東京大学大学院人文社会系研究科教授
委 員	酒井 清治	(考古学) 駒澤大学文学部教授
委 員	松井 敏也	(保存科学) 筑波大学人間総合科学研究科准教授

### 事務局

事務局 局長	島崎 進一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局 局員	勝山 俊也	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局 局員	井田 美紀	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託
事務局 局員	佐々木徳明	国分寺市遺跡調査会

### 調査団

団 長	坂詰 秀一	立正大学名誉教授
主任調査員	依田 亮一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調査員	上敷領 久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係主任
調査員	中道 誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係 (7.1~)
調査員	寺前めぐみ	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託
調査員	中元 幸二	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託 (10.1~)
調査員	増井 有真	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託
調査員	坂上 恵梨	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託 (~9.30)

# 目 次

## 本文目次

序 .....	i
例言 .....	iii
凡例 .....	v
国分寺市遺跡調査会組織 .....	vii
第1章 調査区の概観 .....	1
1. 調査区の位置・立地	
2. 層序	
第2章 発掘および整理の経過 .....	5
1. 調査の目的	
2. 調査基準点について	
3. 整理作業に至る経緯	
第3章 調査の概要 .....	8
第4章 小結 .....	27
1. 縄文時代の遺構と遺物	
2. 歴史時代の遺構と遺物	
第5章 総括 .....	32
参考文献 .....	34
出土遺物一覧表 .....	37
報告書抄録 .....	150

## 挿図・表目次

第1図 武蔵国分寺の構造と名称 .....	iii
第2図 武蔵国分寺変遷図 .....	iv
第3図 国分寺市の地理的環境 .....	1
第4図 基本土層図 .....	2
第5図 遺跡の位置 .....	3
第6図 調査区の位置 .....	4

第7図	調査基準点の設定	5
第1表	調査回数一覧	7

## 図面目次

図面		55～107
図面1	第100・113・132・138・142・146次調査	遺構配置図
図面2	第148・151・153・156・157次調査	遺構配置図
図面3	第161・167・169・177・179次調査	遺構配置図
図面4	第181・183・188・192・196次調査	遺構配置図
図面5	第197・198・199・203・204・209次調査	遺構配置図
図面6	第212・214・215・216次調査	遺構配置図
図面7	第224・225・227・228・229次調査	遺構配置図
図面8	第233・234・236・240・243次調査	遺構配置図
図面9	第100次調査 SD114溝・SK490・491土坑 第113次調査 SD131溝 第132次調査 SD131溝実測図	
図面10	第138次調査 SD144溝 SK635土坑 第142次調査 SI285竪穴住居 第146次調査 SK663土坑 第148次調査 SI292竪穴住居実測図	
図面11	第151次調査 SD152溝 第156次調査 SD152溝実測図	
図面12	第157次調査 SI298A竪穴住居 SK705A・B土坑実測図	
図面13	第157次調査 SI298B竪穴住居実測図	
図面14	第167次調査 SD153・154・157・165・166溝 SK736土坑 第177次調査 SS26A・B集石土坑実測図	
図面15	第179次調査 不明落ち込み 第181次調査 SI312J竪穴住居 SK765J土坑 第183次調査 SK722土坑実測図	
図面16	第188次調査 SI314・315・316竪穴住居実測図	
図面17	第188次調査 SI316竪穴住居カマド SI245J・246J竪穴住居実測図	
図面18	第188次調査 SI317J・318J竪穴住居 第192次調査 SK795・796・799実測図	
図面19	第192次調査 SB74掘立柱建物 第198次調査 SI322A・B竪穴住居実測図	
図面20	第198次調査 SK777土坑 第204次調査 SB77掘立柱建物 第215次調査 SD190 SK859土坑 SS30集石土坑実測図	
図面21	第216次調査 SI331竪穴住居 SK861(SI331構築土)SK866土坑実測図	



- 図面22 第216次調査 SB84 掘立柱建物 SI333・334 竪穴住居 SD193 溝実測図
- 図面23 第224次調査 SD195 溝 SK869・870・871 土坑 第225次調査 SK868 土坑  
第228次調査 SK872 土坑実測図
- 図面24 第229次調査 SD196 溝 第233次調査 SD198 溝実測図
- 図面25 第236次調査 SI339・340 竪穴住居  
第243次調査 SB88 掘立柱建物 SK875J 土坑実測図
- 図面26 第156・161次調査出土遺物
- 図面27 第167次調査出土遺物 (1)
- 図面28 第167次調査出土遺物 (2)
- 図面29 第167次調査出土遺物 (3)
- 図面30 第167次調査出土遺物 (4)
- 図面31 第181次調査出土遺物
- 図面32 第188次調査出土遺物 (1)
- 図面33 第188次調査出土遺物 (2)
- 図面34 第188次調査出土遺物 (3)
- 図面35 第188次調査出土遺物 (4)
- 図面36 第188次調査出土遺物 (5)
- 図面37 第188次調査出土遺物 (6)
- 図面38 第198次調査出土遺物
- 図面39 第204次調査出土遺物 (1)
- 図面40 第204次調査出土遺物 (2)
- 図面41 第204次調査出土遺物 (3)
- 図面42 第216次調査出土遺物 (1)
- 図面43 第216次調査出土遺物 (2)
- 図面44 第216次調査出土遺物 (3)
- 図面45 第216次調査出土遺物 (4)
- 図面46 第216次調査出土遺物 (5)
- 図面47 第216次調査出土遺物 (6)
- 図面48 第216次調査出土遺物 (7)
- 図面49 第216次調査出土遺物 (8)
- 図面50 第216次調査出土遺物 (9)
- 図面51 第227次調査出土遺物

## 図版目次

図版	.....	109 ~ 149
図版 1	第 100・113・132・138 次調査	
図版 2	第 142・146・148・151・153・156・157 次調査	
図版 3	第 157・161・167 次調査	
図版 4	第 169・177・179・181・183・188 次調査	
図版 5	第 188・192 次調査	
図版 6	第 192・196・197・198・199 次調査	
図版 7	第 203・204・209・212・214・215 次調査	
図版 8	第 216 次調査	
図版 9	第 216・224・225・227・228・229・233 次調査	
図版10	第 234・236・240・243 次調査	
図版11	第 156・161 次調査出土遺物	
図版12	第 167 次調査出土遺物 (1)	
図版13	第 167 次調査出土遺物 (2)	
図版14	第 167 次調査出土遺物 (3)	
図版15	第 167 次調査出土遺物 (4)	
図版16	第 181 次調査出土遺物	
図版17	第 188 次調査出土遺物 (1)	
図版18	第 188 次調査出土遺物 (2)	
図版19	第 188 次調査出土遺物 (3)	
図版20	第 188 次調査出土遺物 (4)	
図版21	第 188 次調査出土遺物 (5)	
図版22	第 188 次調査出土遺物 (6)	
図版23	第 198 次調査出土遺物	
図版24	第 204 次調査出土遺物 (1)	
図版25	第 204 次調査出土遺物 (2)	
図版26	第 204 次調査出土遺物 (3)	
図版27	第 216 次調査出土遺物 (1)	
図版28	第 216 次調査出土遺物 (2)	
図版29	第 216 次調査出土遺物 (3)	

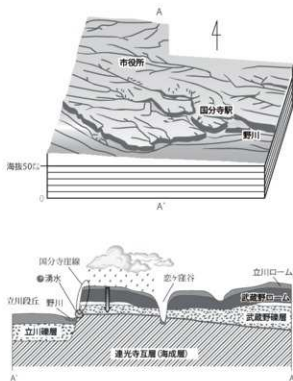
- 図版30 第216次調査出土遺物 (4)  
図版31 第216次調査出土遺物 (5)  
図版32 第216次調査出土遺物 (6)  
図版33 第216次調査出土遺物 (7)  
図版34 第216次調査出土遺物 (8)  
図版35 第216次調査出土遺物 (9)  
図版36 第227次調査出土遺物  
図版37 文字・記号集成 (1)  
図版38 文字・記号集成 (2)  
図版39 文字・記号集成 (3)



# 第1章 調査区の概観

## 1. 調査区の位置・立地

国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境に南北に分けられる。国分寺崖線は武蔵野台地を古多摩川が浸食することで形成された崖で、崖上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼称する。現在、国分寺崖線沿いには、付近の湧水を集めた野川が東流しているが、段丘面形成期には武蔵野段丘側からこれに注ぐ複数の流れがあり、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷などのいくつもの開削谷を残している。武蔵野台地はこれらの谷によって本多面・恋ヶ窪面・内藤面に分けられる。こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、国分寺市内には旧石器・縄文時代の生活痕跡が多数残されている。しかし、弥生時代以降、武蔵国分寺造営までの間、市域での土地利用痕跡は希薄となる。



第3図 国分寺市の地理的環境

武蔵国分寺跡は、国分寺市西元町一〜四丁目を中心に東西2km・南北1.5kmの範囲に広がる。僧寺・尼寺とも伽藍の主要部分は立川段丘上にあるが、僧寺寺域を区画する溝は武蔵野段丘面まで伸びている。また、僧寺と尼寺の間には、上野国新田郡で東山道の本道から分岐して武蔵国に至る『続日本紀』宝亀二年十月己卯)東山道武蔵路が南北に通過している。

今回報告する調査は、第142・157・181・188・192・203・209・227・228・236・240次調査区が武蔵野段丘面上に立地する。特に157・181・188・203・227・240次調査区は縄文時代の多喜窪遺跡A地点に当たる。それ以外は立川段丘面上に立地する。また、僧寺寺院地との関係においては、武蔵野段丘面上の上記11地区と第138・161・199・229・233・243次調査区を除き寺院地内にあり、特に第148・179・198・212次調査区は伽藍中核部に位置する(第6図)。また、第196次調査区は尼寺伽藍地に位置する。

## 2. 層序

国分寺市遺跡調査会で用いる層位区分は、表土（Ⅰ層）下の黒色土を2枚に細分し、これをⅡ層・Ⅲ層と呼称している。そのため、黒色土をⅡ層とし、Ⅲ層以下をローム層にあてる一般的な立川ローム層の区分とは呼称にズレが生じている。

今回報告する調査区は武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土は下記の通りほぼ共通した層序を示す。

Ⅰ層 …… 表土および耕作土。

Ⅱ層 …… 黒褐色土。粒子が粗い。しまりやや弱い。粘性弱い。

歴史時代の遺構内の堆積土に似る。

Ⅲ a 層 …… 暗褐色土。粒子はやや粗い。粘性やや弱い。Ⅱ層・Ⅲ b 層との境は漸移的。

Ⅲ b 層 …… 暗褐色土。Ⅲ a 層より明度高い。

本層の上面で歴史時代の遺構が検出しやすくなる。

縄文時代の遺物を包含する。

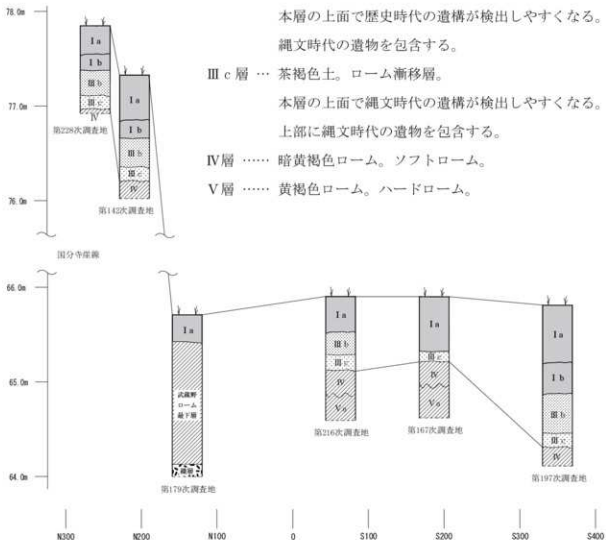
Ⅲ c 層 …… 茶褐色土。ローム漸移層。

本層の上面で縄文時代の遺構が検出しやすくなる。

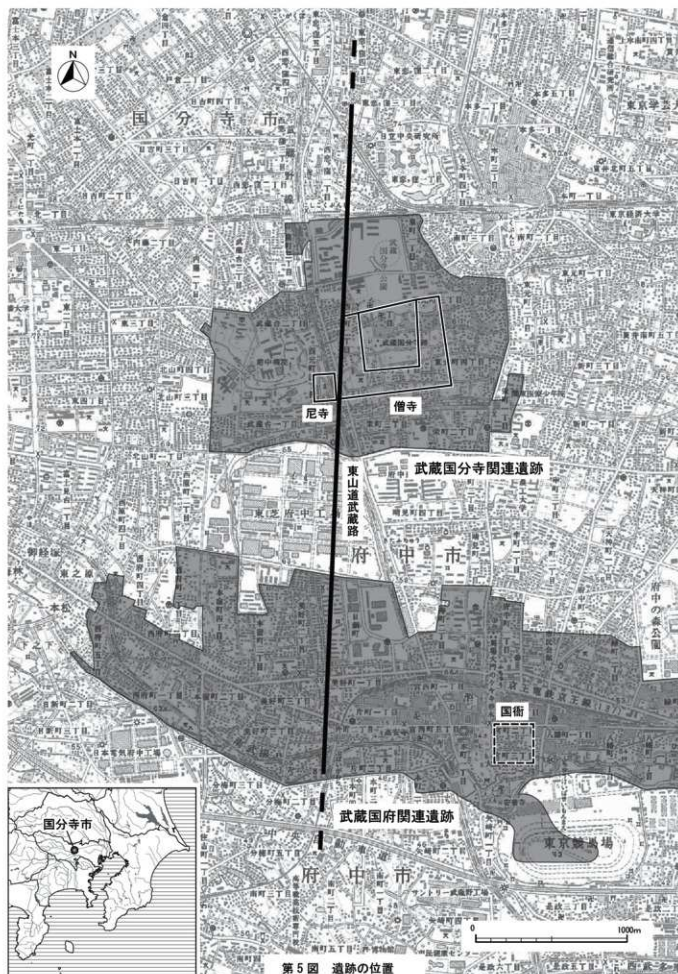
上部に縄文時代の遺物を包含する。

Ⅳ層 …… 暗黄褐色ローム。ソフトローム。

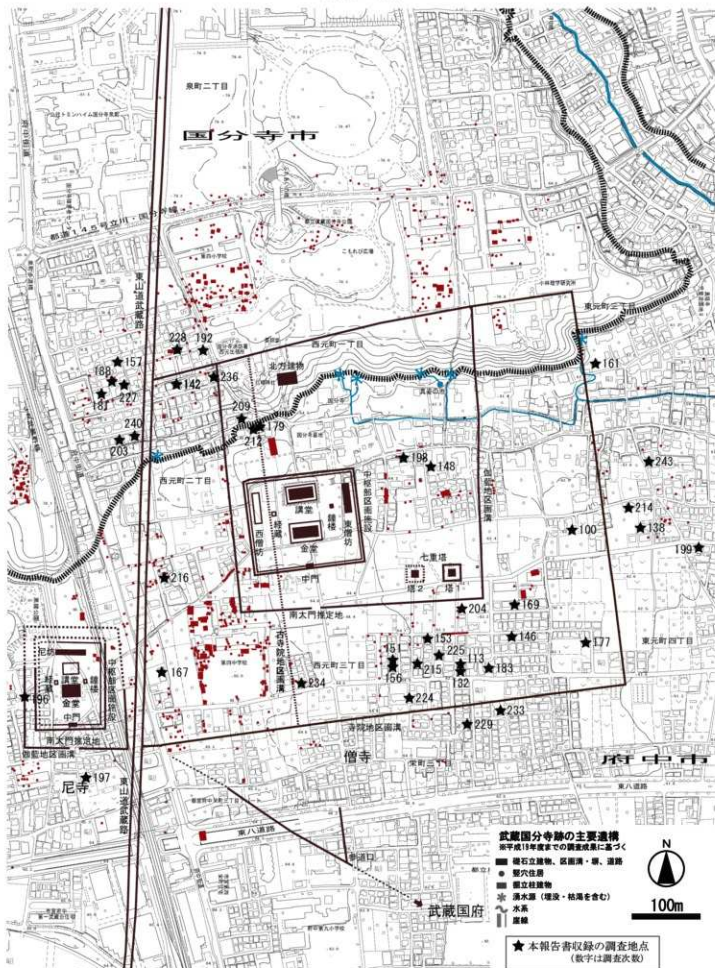
Ⅴ層 …… 黄褐色ローム。ハードローム。



第4図 基本土層図



調査区の概観



第6図 調査区的位置



## 第2章 発掘および整理の経過

### 1. 調査の目的

武蔵国分寺遺跡調査会は、昭和49年に市立第四小学校建設問題を契機として、武蔵国分寺跡の恒常的調査機関として発足した。以後、昭和60年までの12年間で武蔵国分寺の寺院地・伽藍地を確定するための確認調査を32地区において実施してきた（第1期調査）。昭和61年に恋ヶ窪遺跡調査会と一本化し、国分寺市遺跡調査会に改組して以降は、武蔵国分寺跡の史跡整備に先行する第2期調査を継続している。

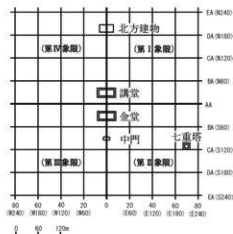
また、上記の学術目的の発掘調査と平行して、開発等によりやむを得ず破壊を受ける遺跡の記録保存のための緊急調査も行っている。これらを合わせた発掘調査件数は平成24年度末までに690件を超え、第1図および第2図に示したような寺院地の規模や変遷を明らかにするに至っている。

今回の報告は、昭和54年度から昭和60年度までに行った住宅建設等に伴う記録保存のための緊急調査のうち、主に僧寺寺院地内の調査成果をまとめたものである。なお、該年度の調査のうち、僧寺寺院地および伽藍地区画溝内の調査成果はすでに『武蔵国分寺跡発掘調査概報25』に収録している。

### 2. 調査基準点について

武蔵国分寺跡では、僧尼寺の広大な範囲を統一して調査するため、僧寺の伽藍中心軸線を基準に、金堂心の北26.276mの中軸線上の点（コンクリート埋設）を座標原点とする局地座標系を用いている。僧寺中軸線は、真北から $7^{\circ} 07' 01''$ 、磁北から $0^{\circ} 37' 01''$ それぞれ西偏する。

本文中および遺構配置図表示（グリッド）の数字は、発掘基準線中心点からの距離を表す。最小の発掘区は $3 \times 3$ mとし、その南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット2文字で表す。1文字目は原点をAとして60m毎に以下B・C・D・…とふり、2文字目はその内を3m毎に20区に分けA～Tまでふる。南北基準線は数字で表す。原点を0とし、以下東西とも3m毎



第7図 調査基準線の設定

に1・2・3・・・とふる。このようにして発掘区を呼称すると、中軸線 AA と 0 に接する区を除き、4つの象現に同一名称があることになるので、調査地区の記号に象現を入れ MK（武蔵国分寺跡の略）Ⅰ～Ⅳと呼んで区別する。本報告では中心点からの距離を N・S・W・E で表し、併用する。

### 3. 整理作業に至る経緯

今回報告するいずれの調査区においても、現地発掘終了後ただちに整理作業に入り、基礎的な整理を終えていた。しかし、急増する開発や下水道敷設に伴う緊急調査を優先せざるを得ない状況が続いたため、報告書の刊行が遅れていた。

国分寺市教育委員会では、こうした未報告の過年度発掘調査について、国および東京都の補助を受けて平成 18 年度より報告書の刊行を行っている。報告書刊行のための整理作業は、国分寺市教育委員会から委託を受けた国分寺市遺跡調査会が行った。

整理作業は、平成 24 年 4 月 1 日から概ね 12 月までを遺構図面のトレース、遺物の実測・トレース、図版の選別等の作業に充て、その後、編集作業を経て平成 25 年 3 月 31 日の報告書刊行とした。

## 発掘および整理の経過

	調査年度	調査回数	調査地番	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	遺物箱数	担当調査員	
	1	S54	100	東元町四丁目 10-18	9.20 ~ 10.17	99.00	溝1条、土坑2基、小穴10基	1	上村
	2		113	西元町三丁目 15-14	5.14 ~ 5.25	32.96	溝1条	1	平田
	3	S56	132	西元町三丁目 2069-2,5	10.2 ~ 10.19	14.20	溝1条	1	平田
	4		138	東元町四丁目 180	4.2 ~ 4.14	39.18	溝1条、土坑1基	1	上村
	5		142	西元町二丁目 2546-7	5.17 ~ 6.16	44.36	竪穴住居1軒、小穴4基	1	上村
	6		146	西元町三丁目 1927-15	6.29 ~ 7.9	31.75	土坑1基	0	上村
	7		148	西元町三丁目 1524-23	8.10 ~ 9.1	30.12	竪穴住居1軒、小穴4基	1	上村
	8		151	西元町三丁目 2058-13	9.6 ~ 9.27	33.00	溝1条	1	上村
	9	S57	153	西元町三丁目 2056-6	10.4 ~ 10.13	30.00	なし	1	上村
	10		156	西元町三丁目 2058-14	10.20 ~ 10.26	28.50	溝1条	1	上村
	11		157	西元町二丁目 2250-12	10.22 ~ 11.19	28.60	竪穴住居1軒、土坑1基	2	上村
	12		161	東元町三丁目 1466-5	11.22 ~ 12.10	29.82	なし	1	上村
	13		167	西元町三丁目 2231, 2232-1	1.5 ~ 2.3	30.20	溝5条、土坑1基、小穴4基	5	上村
	14		169	西元町三丁目 1954-14	2.14 ~ 2.28	18.10	なし	1	上村
	15		177	東元町四丁目 1937-7	6.3 ~ 7.15	31.60	縄文集石1基	10	上村
	16		179	西元町二丁目 1637-3	7.19 ~ 7.28	15.20	不明落ち込み	2	上村
	17	S58	181	西元町二丁目 2550-1	8.10 ~ 9.2	13.60	縄文竪穴住居1軒、土坑1基	3	上村
	18		183	西元町三丁目 1923-2	9.29 ~ 10.7	20.30	土坑1基	0	上村
	19		188	西元町二丁目 2550-6, 9, 35	12.12 ~ 1.24	18.50	竪穴住居3軒、縄文竪穴住居4軒	6	上村
	20		192	西元町二丁目 2545-3	3.26 ~ 4.20	48.20	堀立柱建物1軒、土坑3基	2	上村
	21		196	西元町四丁目 2300-18	4.17 ~ 4.24	7.08	なし	1	上村
	22		197	西元町四丁目 2290-3, 2291-7	4.17 ~ 4.26	22.00	なし	1	上村
	23		198	西元町三丁目 1580-2	5.22 ~ 6.6	52.75	竪穴住居1軒、土坑1基、小穴9基	2	上村
	24		199	東元町四丁目 1792-2, 1793-2	6.18 ~ 6.22	19.00	なし	1	上村
	25		203	西元町二丁目 2548-36	7.9 ~ 7.17	32.60	なし	1	上村
	26		204	西元町三丁目 2004-11	7.29 ~ 8.20	139.50	堀立柱建物1軒	51	上村
	27	S59	209	西元町二丁目 2546-33	8.31 ~ 9.27	31.00	なし	1	上村
	28		212	西元町二丁目 1637-2	10.1 ~ 10.5	30.60	なし	1	上村
	29		214	東元町四丁目 1800-2	11.2 ~ 11.9	18.00	なし	1	上村
	30		215	西元町三丁目 2056-13	11.19 ~ 12.12	44.10	溝1条、土坑1基、縄文集石1基	3	上村
	31		216	西元町二丁目 2249-4	11.14 ~ 3.20	89.50	堀立柱建物1軒、竪穴住居3軒、溝1条、土坑2基、小穴3基	10	上村
	32		224	西元町三丁目 2058-23, 24	3.4 ~ 3.27	64.75	溝1条、土坑3基	1	有吉
	33		225	西元町三丁目 2056-9	3.4 ~ 3.24	32.50	土坑1基	1	有吉
	34		227	西元町二丁目 2550-7, 8	4.1 ~ 4.17	22.50	小穴2基	1	上村
	35		228	西元町二丁目 2545-33	4.9 ~ 4.15	13.75	土坑1基、小穴2基	1	上村
	36		229	西元町三丁目 1897-6	5.8 ~ 5.20	14.01	溝1条	1	上村
	37	S60	233	西元町三丁目 1902-9	7.12 ~ 7.19	11.50	溝1条	1	上村
	38		234	西元町三丁目 2159-4, 2160-6	7.15 ~ 7.19	6.00	小穴1基	1	上村
	39		236	西元町二丁目 2546, 2113	8.5 ~ 8.15	15.75	竪穴住居2軒	1	上村
	40		240	西元町二丁目 2548-68	10.4 ~ 10.9	11.20	なし	1	上村
	41		243	東元町四丁目 1474-2	11.14 ~ 11.27	28.80	堀立柱建物1軒、縄文土坑1基	1	上村

第1表 調査回数一覧

## 第3章 調査の概要

### 第100次調査 (図面1・9 図版1)

【所在地】 東元町四丁目10-18

【調査面積】 99.00 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1979.9.20～10.17 (実働14日間)

【検出遺構】 溝1条 (SD114)、土坑2基 (SK490・491)、小穴10基

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

#### SD114 溝 (図面1・9 図版1)

BC～BE・127～130区に所在し、僧寺中心点の南64.4～69.6m、東382.7～390.6mに位置する。上面幅0.38～0.62m、底面幅0.14～0.41m、確認面からの深度は23cmを測る。検出した長さは8.94mで北・西は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し57°東偏する。

#### SK490 土坑 (図面1・9 図版1)

BC・130～131区に所在し、僧寺中心点の南64.4～65.8m、東392.8～394.2mに位置する。平面形は不整形で、規模は長軸1.62m、短軸1.12m、確認面からの深度は20cmである。

#### SK491 土坑 (図面1・9 図版1)

BE・130～131区に所在し、僧寺中心点の南69.5～71.1m、東392.5～393.7mに位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は手鏡形で、規模は長軸1.49m以上、短軸1.12m、確認面からの深度は15cmである。

### 第113次調査 (図面1・9 図版1)

【所在地】 西元町三丁目15-4

【調査面積】 32.96 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1981.5.14～5.25 (実働7日間)

【検出遺構】 溝1条 (SD131)

【遺物箱数】 1

【調査担当】 平田貴正

#### SD131 溝 (図面1・9 図版1)

EC～EE-67区に所在し、僧寺中心点の南243.5～251.9m、東202.2～203.4mに位置する。上面幅0.60～0.92m、底面幅0.19～0.47m、確認面からの深度は25cmを測る。検出した

長さは 8.38 m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 3° 東偏する。

#### 第 132 次調査 (図面 1・9 図版 1)

- 【所在地】 西元町三丁目 2069-2, 5  
 【調査面積】 14.20 m<sup>2</sup>  
 【調査期間】 1981.10.2 ~ 10.19 (実働 10 日間)  
 【検出遺構】 溝 1 条 (SD131)  
 【遺物箱数】 1  
 【調査担当】 平田貴正

##### SD131 溝 (図面 1・9 図版 1)

EF ~ EI-67 区に所在し、僧寺中心点の南 253.9 ~ 262.3 m、東 202.1 ~ 202.9 m に位置する。上面幅 0.45 ~ 0.76 m、底面幅 0.25 ~ 0.51 m、確認面からの深度は 19cm を測る。検出した長さは 8.26 m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 1° 西偏する。

#### 第 138 次調査 (図面 1・10 図版 1)

- 【所在地】 東元町四丁目 180  
 【調査面積】 39.18 m<sup>2</sup>  
 【調査期間】 1982.4.2 ~ 4.14 (実働 8 日間)  
 【検出遺構】 溝 1 条 (SD144)、土坑 1 基 (SK635)  
 【遺物箱数】 1  
 【調査担当】 上村昌男

##### SD144 溝 (図面 1・10 図版 1)

BF ~ BJ-160 区に所在し、僧寺中心点の南 81.6 ~ 77.0 m、東 481.7 ~ 482.6 m に位置する。上面幅 0.65 ~ 0.87 m、底面幅 0.53 ~ 0.72 m、確認面からの深度は 65cm を測る。検出した長さは 13.46 m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 1° 東偏する。

##### SK635 土坑 (図面 1・10 図版 1)

BJ・161 区に所在し、僧寺中心点の南 85.3 ~ 86.4 m、東 484.6 ~ 486.0 m に位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は不整形円形で、規模は長軸 1.39 m、短軸 1.09 m 以上、確認面からの深度は 30cm である。

#### 第 142 次調査 (図面 1・10 図版 2)

- 【所在地】 西元町二丁目 2546-7

- 【調査面積】 44.36 m<sup>2</sup>  
【調査期間】 1982.5.17～6.16 (実働16日間)  
【検出遺構】 竪穴住居1軒 (SI285)、小穴4基  
【遺物箱数】 1  
【調査担当】 上村昌男

SI285 竪穴住居 (図面1・10 図版2)

DJ-53・54区に所在し、僧寺中心点の北207.4～209.1m、西157.5～159.3mに位置する。西・北側は調査区外へ続く。平面形は東西1.89m以上、南北1.53m以上の長方形で、確認面からの深度は40cmである。主軸は僧寺中軸線に対し3°東偏する。カマドは北壁に存在すると思われる。

第146次調査 (図面1・10 図版2)

- 【所在地】 西元町三丁目1927-15  
【調査面積】 31.75 m<sup>2</sup>  
【調査期間】 1982.6.29～7.9 (実働8日間)  
【検出遺構】 土坑1基 (SK663)  
【遺物箱数】 0  
【調査担当】 上村昌男

SK663 土坑 (図面1・10 図版2)

DN-92区に所在し、僧寺中心点の南216.5～218.5m、東276.4～277.5mに位置する。北・西・南側は調査区外へ続く。平面形の規模は長軸1.84m以上、短軸0.96m以上、確認面からの深度は52cmである。

第148次調査 (図面2・10 図版2)

- 【所在地】 西元町三丁目1524-23  
【調査面積】 30.12 m<sup>2</sup>  
【調査期間】 1982.8.10～9.1 (実働13日間)  
【検出遺構】 竪穴住居1軒 (SI292)、小穴4基  
【遺物箱数】 1  
【調査担当】 上村昌男

SI292 竪穴住居 (図面2・10 図版2)

AQ-64・65区に所在し、僧寺中心点の北49.9～50.7m、東193.8～196.0mに位置する。

北側は調査区外へ続く。平面形は東西 2.12 m 以上、南北 0.75 m 以上の長方形で、東側は攪乱されている。確認面からの深度は 35cm である。主軸は僧寺中軸線に対し 7° 東偏する。カマドは東壁か北壁に存在すると思われる。

第 151 次調査 (図面 2・11 図版 2)

【所在地】 西元町三丁目 2058-13

【調査面積】 33.00 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1982.9.6～9.27 (実働 10 日間)

【検出遺構】 溝 1 条 (SD152)

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

SD152 溝 (図面 2・12 図版 2)

DP～DS-32～34区に所在し、僧寺中心点の南 223.2～232.3 m、東 98.5～103.2 m に位置する。上面幅 3.32～3.88 m、底面幅 0.31～0.46 m、確認面からの深度は 82cm を測る。検出した長さは 8.78 m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 5° 東偏する。

第 153 次調査 (図面 2 図版 2)

【所在地】 西元町三丁目 2056-6

【調査面積】 30.00 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1982.10.4～10.13 (実働 5 日間)

【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

第 156 次調査 (図面 2・11 図版 2)

【所在地】 西元町三丁目 2058-14

【調査面積】 28.50 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1982.10.20～10.26 (実働 5 日間)

【検出遺構】 溝 1 条 (SD152)

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

SD152 溝 (図面 2・11 図版 2)

DR～EB-32・33区に所在し、僧寺中心点の南233.6～242.8m、東96.7～102.0mに位置する。上面幅3.10～3.82m、底面幅0.07～0.41m、確認面からの深度は79cmを測る。検出した長さは8.88mで南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し6°東偏する。

#### 第157次調査(図面2・12・13 図版2・3)

【所在地】 西元町二丁目2250-12

【調査面積】 28.60㎡

【調査期間】 1982.10.22～11.19(実働16日間)

【検出遺構】 竪穴住居1軒(SI298A・B)、土坑1基(SK705A・B)

【遺物箱数】 2

【調査担当】 上村昌男

##### SI298A 竪穴住居(図面2・12 図版2・3)

EQ・ER-81・82区に所在し、僧寺中心点の北265.5～267.3m、西241.4～245.4mに位置する。南・北側は調査区外へ続く。平面形は東西3.17m、南北1.53m以上の長方形で、確認面からの深度は40cmである。主軸は僧寺中軸線に対し95°東偏する。東壁にカマドを設ける。

##### SI298B 竪穴住居(図面2・13 図版3)

EQ-81・82区に所在し、僧寺中心点の北265.5～267.0m、西242.4～245.1mに位置する。南・北側は調査区外へ続く。平面形は東西2.65m以上、南北0.89m以上の方形で、確認面からの深度は25cmである。主軸は僧寺中軸線に対し12°東偏する。北壁にカマドを設ける。

##### SK705A 土坑(図面2・12 図版3)

EQ-82・83区に所在し、僧寺中心点の北266.1～266.9m、西245.2～246.8mに位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸1.60m、短軸0.76m以上、確認面からの深度は50cmである。

##### SK705B 土坑(図面2・12)

EP・EQ-83区に所在し、僧寺中心点の北263.6～265.3m、西246.6～247.0mに位置する。東側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸1.64m以上、短軸0.42m以上、確認面からの深度は47cmである。

#### 第161次調査(図面3 図版3)

【所在地】 東元町三丁目1466-5

【調査面積】 29.82㎡

【調査期間】 1982.11.22～12.10(実働14日間)



【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

第 167 次調査 (図面 3・14 図版 3)

【所在地】 西元町三丁目 2231, 2232-1

【調査面積】 30.20 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1983.1.5～2.3 (実働 14 日間)

【検出遺構】 溝 5 条 (SD153・154・157・165・166)、土坑 1 基 (SK736)、小穴 4 基

【遺物箱数】 5

【調査担当】 上村昌男

**SD153 溝** (図面 3・14 図版 3)

DF・DG-77・78 区に所在し、僧寺中心点の南 192.2～197.7 m、西 229.4～231.6 m に位置する。上面幅 0.56 m 以上、確認面からの深度は 40cm を測る。検出した長さは 5.78 m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 12° 西偏する。

**SD154 溝** (図面 3・14 図版 3)

DF・DG-77 区に所在し、僧寺中心点の南 192.3～197.2 m、西 229.4～231.0 m に位置する。上面幅 0.83～1.09 m、底面幅 0.46～0.54 m、確認面からの深度は 43cm を測る。検出した長さは 5.24 m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 12° 西偏する。SD153 より新しい。

**SD157 溝** (図面 3・14 図版 3)

DF・DN-77～79 区に所在し、僧寺中心点の南 192.3～217.5 m、西 229.1～236.2 m に位置する。上面幅 1.08 m 以上、確認面からの深度は 52cm を測る。検出した長さは 25.98 m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 13° 西偏する。SD165・SK736 より古い。

**SD165 溝** (図面 3・14 図版 3)

DF-79 区に所在し、僧寺中心点の南 192.3～192.4 m、西 236.0～237.0 m に位置する。上面幅 0.95 m、底面幅 0.28 m、確認面からの深度は 78cm を測る。検出した長さは北壁断面のみで南北は調査区外へ続く。SD157 より新しく SD166・SK736 より古い。

**SD166 溝** (図面 3・14 図版 3)

DF-78・79 区に所在し、僧寺中心点の南 192.3～192.4 m、西 236.4～237.1 m に位置する。上面幅 0.67 m、底面幅 0.15 m、確認面からの深度は 28cm を測る。検出した長さは北壁断面のみで南北は調査区外へ続く。SD165 より新しく SK736 より古い。

## SK736 土坑 (図面 3・14)

DF-79・80 区に所在し、僧寺中心点の南 192.3～193.3 m、西 235.8～237.1 m に位置する。西・南側は調査区外へ続く。平面形は円形で、規模は長軸 1.17 m 以上、短軸 1.05 m 以上、確認面からの深度は 65cm である。

## 第 169 次調査 (図面 3 図版 4)

- 【所在地】 西元町三丁目 1954-14  
 【調査面積】 18.10 m<sup>2</sup>  
 【調査期間】 1983.2.14～2.28 (実働 8 日間)  
 【検出遺構】 なし  
 【遺物箱数】 1  
 【調査担当】 上村昌男

## 第 177 次調査 (図面 3・14 図版 4)

- 【所在地】 東元町四丁目 1937-7  
 【調査面積】 31.60 m<sup>2</sup>  
 【調査期間】 1983.6.3～7.15 (実働 27 日間)  
 【検出遺構】 縄文時代集石 1 基 (SS26A・B)  
 【遺物箱数】 10  
 【調査担当】 上村昌男

## SS26A・B 集石土坑 (図面 3・14 図版 4)

EC～ED-127～130 区に所在し、僧寺中心点の南 244.7～246.8 m、東 383.8～392.8 m に位置する。遺物 (礫) は広範囲に分布し調査区外へ続く。トレンチ西側 2 箇所に (SS26A 南 244.7～245.9 m 東 383.8～385.0 m) (SS26B 南 244.8～246.5 m 東 386.8～388.6 m) 掘り込みが認められた。SS26A の平面形は隅丸方形で、長軸 1.17 m 以上、短軸 1.01 m、確認面からの深さは 42cm である。SS26B の平面形は楕円形で、長軸 2.04 m 以上、短軸 1.15 m、確認面からの深度は 40cm で 10～30cm の炭化物を含む。出土した礫は 4004 点である。

## 第 179 次調査 (図面 3・15 図版 4)

- 【所在地】 西元町二丁目 1637-3  
 【調査面積】 15.20 m<sup>2</sup>  
 【調査期間】 1983.7.19～7.28 (実働 6 日間)

【検出遺構】 不明落ち込み 1 基

【遺物箱数】 2

【調査担当】 上村昌男

不明落ち込み (図面 3・15 図版 4)

CG・CH-16・17 区に所在し、僧寺中心点の北 139.5 ～ 142.2 m、西 47.4 ～ 49.3 m に位置する。上面幅 2.68 m 以上、底面幅 1.52 m 以上、確認面からの深度は 1 m 68cm を測る。東・南側は調査区外へ続く。

#### 第 181 次調査 (図面 4・15 図版 4)

【所在地】 西元町二丁目 2550-1

【調査面積】 13.60 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1983.8.10 ～ 9.2 (実働 15 日間)

【検出遺構】 縄文時代竪穴住居 1 軒 (S1312J)、縄文時代土坑 1 基 (SK765J)

【遺物箱数】 3

【調査担当】 上村昌男

S1312J 竪穴住居 (図面 4・15 図版 4)

DJ・DK-91・92 区に所在し、僧寺中心点の北 208.5 ～ 211.7 m、西 272.5 ～ 274.4 m に位置する。東・西・南側は調査区外へ続く。平面形は東西 1.85 m 以上、南北 3.14 m 以上で、確認面からの深度は 40cm である。

SK765J 土坑 (図面 4・15 図版 4)

DL-92・93 区に所在し、僧寺中心点の南 215.3 ～ 215.8 m、東 273.6 ～ 276.4 m に位置する。東・南側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 1.81 m 以上、短軸 0.45 m 以上、確認面からの深度は 25cm である。

#### 第 183 次調査 (図面 4・15 図版 4)

【所在地】 西元町三丁目 1923-2

【調査面積】 20.30 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1983.9.29 ～ 10.7 (実働 7 日間)

【検出遺構】 土坑 1 基 (SK772)

【遺物箱数】 0

【調査担当】 上村昌男

SK772 土坑 (図面 4・15 図版 4)

ED・79区に所在し、僧寺中心点の南246.9～247.4m、東237.9～239.2mに位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は円形で、規模は長軸1.23m以上、短軸0.58m以上、確認面からの深度は58cmである。

#### 第188次調査（図面4・16・17・18 図版4・5）

【所在地】 西元町二丁目2550-6,9,35

【調査面積】 18.50㎡

【調査期間】 1983.12.12～1984.1.24（実働23日間）

【検出遺構】 竪穴住居3軒（SI314・315・316）、  
縄文時代竪穴住居4軒（SI245J・246J・317J・318J）

【遺物箱数】 6

【調査担当】 上村昌男

##### SI314 竪穴住居（図面4・16 図版5）

DR・DS-86・87区に所在し、僧寺中心点の北233.8～235.5m、西255.5～260.2mに位置する。南・北側は調査区外へ続く。平面形は東西4.45m、南北2.59m以上の長方形で、確認面からの深度は28cmである。主軸は僧寺中軸線に対し14°東偏する。カマドは東壁か北壁に存在すると思われる。

##### SI315 竪穴住居（図面4・16 図版5）

DQ・DR-84・85区に所在し、僧寺中心点の北228.2～231.4m、西251.6～252.3mに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は東西0.56m以上、南北2.62m以上の不整形で、確認面からの深度は25cmである。主軸は僧寺中軸線に対し15°東偏する。カマドは北壁に存在すると思われる。

##### SI316 竪穴住居（図面4・16・17 図版5）

DQ・DR-84・85区に所在し、僧寺中心点の北229.4～232.5m、西251.4～252.5mに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は東西2.04m以上、南北0.99m以上の隅丸方形で、確認面からの深度は60cmである。主軸は僧寺中軸線に対し95°東偏する。東壁にカマドを設ける。

##### SI245J 竪穴住居（図面17）

DP・DQ-87区に所在し、僧寺中心点の北227.5～228.6m、西259.5～260.4mに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は東西0.74m以上、南北1.12m以上の円形で、確認面からの深度は50cmである。

##### SI246J 竪穴住居（図面4・17 図版4）

DR・DS-87区に所在し、僧寺中心点の北232.3～234.8m、西259.5～261.2mに位置する。

西・北側は調査区外へ続く。平面形は東西 1.74 m 以上、南北 2.46 m 以上の円形で、確認面からの深度は 40cm である。

**SI171J 竪穴住居** (図面 4・18 図版 4)

DS-86・87 区に所在し、僧寺中心点の北 233.9 ~ 235.6 m、西 255.0 ~ 259.4 m に位置する。西・北側は調査区外へ続く。平面形は東西 4.45 m、南北 1.47 m 以上の円形で、確認面からの深度は 35cm である。

**SI181J 竪穴住居** (図面 4・18 図版 5)

DS-85 区に所在し、僧寺中心点の北 234.8 ~ 236.3 m、西 252.7 ~ 253.5 m に位置する。西・北側は調査区外へ続く。平面形は東西 0.78 m 以上、南北 1.38 m 以上の円形で、確認面からの深度は 30cm である。

第 192 次調査 (図面 4・18・19 図版 5・6)

【所在地】 西元町二丁目 2545-3

【調査面積】 48.20 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984.3.26 ~ 4.20 (実働 18 日間)

【検出遺構】 堀立柱建物 1 軒 (SB74)、土坑 3 基 (SK795・796・799)

【遺物箱数】 2

【調査担当】 上村昌男

**SB74 堀立柱建物** (図面 4・19 図版 5)

EF ~ EH-38 ~ 40 区に所在し、僧寺中心点の北 256.3 ~ 261.5 m、西 115.6 ~ 121.8 m に位置する。桁行 3 間 × 梁行 2 間の東西棟で、柱穴 4-2 は SK795 に重複し切られている。桁行方向は僧寺中軸線に対し 88° 西偏する。柱穴は直径 0.45 ~ 0.81 m の円形または楕円形を呈し、確認面からの深度は 46 ~ 72cm を測る。柱は抜き取られていない。桁行総長は南側北側とも 5.40 m で、柱間寸法は 1.80 m の等間である。梁行総長は西側東側とも 4.50 m で、柱間寸法は 2.25 m の等間だと思われる。

**SK795 土坑** (図面 4・18 図版 5)

EF・EG-39 区に所在し、僧寺中心点の北 256.8 ~ 259.2 m、西 115.0 ~ 117.0 m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 2.13 m 以上、短軸 1.84 m、確認面からの深度は 72cm である。

**SK796 土坑** (図面 4・18 図版 6)

EG-38・39 区に所在し、僧寺中心点の北 258.6 ~ 259.6 m、西 113.5 ~ 114.7 m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は楕円形で、規模は長軸 1.19 m 以上、短軸 0.85 m、確認面か

らの深度は70cmである。

**SK799 土坑** (図面4・18 図版5)

EG・EH-41区に所在し、僧寺中心点の北260.7～261.6m、西120.5～121.4mに位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は楕円形で、規模は長軸0.86m、短軸0.76m、確認面からの深度は12cmである。SB74柱穴1-3より新しい。

第196次調査 (図面4 図版6)

【所在地】 西元町四丁目2300-18

【調査面積】 7.08 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984.4.17～4.24 (実働4日間)

【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

第197次調査 (図面5 図版6)

【所在地】 西元町四丁目2290-3, 2291-7

【調査面積】 22.00 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984.4.17～4.26 (実働7日間)

【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

第198次調査 (図面5・19・20 図版6)

【所在地】 西元町三丁目1580-2

【調査面積】 52.75 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984.5.22～6.6 (実働10日間)

【検出遺構】 竪穴住居1軒 (SI322A・B)、土坑1基 (SK777)、小穴9基

【遺物箱数】 2

【調査担当】 上村昌男

**SI322A 竪穴住居** (図面5・19 図版6)

BC・BD-52・53区に所在し、僧寺中心点の北66.2～69.3m、東157.8～159.5mに位置する。西・南側は調査区外へ続く。平面形は東西1.73m以上、南北3.17m以上の隅丸方形で、確認

面からの深度は12cmである。主軸は僧寺中軸線に対し92°東偏する。東壁にカマドを設ける。SI322B 竪穴住居より新しい。

**SI322B 竪穴住居** (図面5・19 図版6)

BC-52・53区に所在し、僧寺中心点の北66.3～68.6m、東157.8～159.3mに位置する。西・南側は調査区外へ続く。平面形は東西1.49m以上、南北2.39m以上の方形で、確認面からの深度は13cmである。主軸は僧寺中軸線に対し76°東偏する。東壁にカマドを設ける。

**SK777 土坑** (図面5・20 図版6)

BC-53・54区に所在し、僧寺中心点の北66.3～67.3m、東161.2～163.2mに位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は楕円形で、規模は長軸1.88m以上、短軸0.88m、確認面からの深度は30cmである。

第199次調査 (図面5 図版6)

- 【所在地】 東元町四丁目 1792-2, 1793-2
- 【調査面積】 19.00 m<sup>2</sup>
- 【調査期間】 1984.6.18～6.22 (実働5日間)
- 【検出遺構】 なし
- 【遺物箱数】 1
- 【調査担当】 上村昌男

第203次調査 (図面5 図版7)

- 【所在地】 西元町二丁目 2548-36
- 【調査面積】 32.60 m<sup>2</sup>
- 【調査期間】 1984.7.9～7.17 (実働7日間)
- 【検出遺構】 なし
- 【遺物箱数】 1
- 【調査担当】 上村昌男

第204次調査 (図面5・20 図版7)

- 【所在地】 西元町三丁目 2004-11
- 【調査面積】 139.50 m<sup>2</sup>
- 【調査期間】 1984.7.29～8.20 (実働23日間)
- 【検出遺構】 堀立柱建物1軒 (SB77)

【遺物箱数】 51

【調査担当】 上村昌男

**SB77 掘立柱建物** (図面 5・20 図版 7)

CR・CS-69・70 区に所在し、僧寺中心点の南 168.5 ～ 171.8 m、東 208.6 ～ 213.0 m に位置する。桁行 2 間 × 梁行 2 間の東西棟であるが、西側が調査区外に延びる可能性がある。桁行方向は僧寺中軸線に対し 90° である。柱穴は直径 0.23 ～ 0.54 m の円形または楕円形を呈し、確認面からの深度は 26 ～ 42cm を測る。桁行総長は南側北側とも 3.8 m で、柱間寸法は南側が西から 1.8 m + 2.0 m で、北側が西から 2.3 m + 1.5 m である。梁行総長は南北とも 3.0 m で、柱間寸法は 1.5 m の等間である。

**第 209 次調査** (図面 5 図版 7)

【所在地】 西元町二丁目 2546-33

【調査面積】 31.00 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984. 8. 31 ～ 9. 27 (実働 10 日間)

【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

**第 212 次調査** (図面 6 図版 7)

【所在地】 西元町二丁目 1637-2

【調査面積】 30.60 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984. 10. 1 ～ 10. 5 (実働 5 日間)

【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

**第 214 次調査** (図面 6 図版 7)

【所在地】 東元町四丁目 1800-2

【調査面積】 18.00 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984. 11. 2 ～ 11. 9 (実働 6 日間)

【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1



【調査担当】 上村昌男

第 215 次調査 (図面 6・20 図版 7)

【所在地】 西元町三丁目 2056-13

【調査面積】 44.10 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984.11.19～12.12 (実働 15 日間)

【検出遺構】 溝 1 条 (SD190)、土坑 1 基 (SK859)、縄文集石 1 基 (SS30)

【遺物箱数】 3

【調査担当】 上村昌男

SD190 溝 (図面 6・20 図版 7)

DS・DT-45・46 区に所在し、僧寺中心点の南 232.7～236.3 m、東 135.6～140.3 m に位置する。上面幅 1.91～2.12 m、底面幅 0.24～0.38 m、確認面からの深度は 58cm を測る。検出した長さは 4.61 m で東西は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し 83° 西偏する。

SK859 土坑 (図面 6・20 図版 7)

DS-47・48 区に所在し、僧寺中心点の南 234.2～234.7 m、東 142.9～144.2 m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 1.21 m、短軸 0.42 m 以上、確認面からの深度は 20cm である。

SS30 集石土坑 (図面 6・20 図版 7)

EA・EB-45・46 区に所在し、僧寺中心点の南 239.4～240.6 m、東 137.5～138.7 m に位置する。平面形は円形で、長軸 1.19 m、短軸 1.15 m、確認面からの深さは 60cm である。挿鉢状の掘り込みで、礫は中層から上層にかけて多く認められる。

第 216 次調査 (図面 6・21・22 図版 8・9)

【所在地】 西元町二丁目 2249-4

【調査面積】 89.50 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1984.11.14～1985.3.20 (実働 64 日間)

【検出遺構】 掘立柱建物 1 軒 (SB84)、竪穴住居 3 軒 (SI331・333・334)、溝 1 条 (SD193)、土坑 2 基 (SK861・866)、小穴 3 基

【遺物箱数】 10

【調査担当】 上村昌男

SB84 掘立柱建物 (図面 6・22 図版 8)

BB-70～72 区に所在し、僧寺中心点の南 61.4～62.7 m、東 209.7～213.8 m に位置する。

東西に3個並んでいるが、柱穴の特徴から北側が調査区外に延びる掘立建物とした。東西方向は僧寺中軸線に対し75°東偏する。柱穴は直径0.45～0.62mの円形または楕円形を呈し、確認面からの深度は約68cmを測る。桁行総長は3.7mで、柱間寸法は西から1.7m+2.0mである。

#### SI331 竪穴住居 (図面6・21 図版8)

BB～BD-73～75区に所在し、僧寺中心点の南61.7～66.2m、西218.8～224.4mに位置する。平面形は東西5.54m、南北4.41mの長方形で、確認面からの深度は72cmである。主軸は僧寺中軸線に対し5°西偏する。西側中央部に炉を設ける。

#### SI333 竪穴住居 (図面6・22 図版8)

BC・BD-75・76区に所在し、僧寺中心点の南63.3～66.5m、西223.1～225.9mに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は東西2.40m以上、南北3.16mの方形で、確認面からの深度は13cmである。主軸は僧寺中軸線に対し93°東偏する。東壁にカマドを設ける。

#### SI334 竪穴住居 (図面6・22 図版8)

BB・BC-75・76区に所在し、僧寺中心点の南61.2～64.0m、西222.3～226.3mに位置する。西・北側は調査区外へ続く。平面形は東西3.67m以上、南北2.53m以上の長方形で、確認面からの深度は32cmである。主軸は僧寺中軸線に対し6°東偏する。カマドは北壁に存在すると思われる。

#### SD193 溝 (図面6・22 図版9)

BB-75・76区に所在し、僧寺中心点の南61.8～62.8m、西223.7～226.3mに位置する。上面幅0.47m、底面幅0.31m、確認面からの深度は14cmを測る。検出した長さは1.82mで西は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し78°西偏する。SI334より古くSI331より新しい。

#### SK861 土坑 (SI331 構築土) (図面6・21)

BB・BC-74・75区に所在し、僧寺中心点の南61.7～65.5m、西219.2～224.2mに位置する。平面形は不整形で、規模は長軸4.88m、短軸3.52m、確認面からの深度は64cmである。

#### SK866 土坑 (図面6・21)

BB・BC-76区に所在し、僧寺中心点の南62.3～63.2m、西225.6～226.0mに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は隅丸方形で、規模は長軸0.82m、短軸0.44m以上、確認面からの深度は10cmである。

### 第224次調査 (図面7・23 図版9)

【所在地】 西元町三丁目2058-23,24

【調査面積】 64.75㎡

【調査期間】 1985.3.4～3.27（実働8日間）

【検出遺構】 溝1条（SD195）、土坑3基（SK869・870・871）

【遺物箱数】 1

【調査担当】 有吉重蔵

**SD195 溝**（図面7・23 図版9）

EP・EQ-41区に所在し、僧寺中心点の南284.8～285.9m、東124.5～126.0mに位置する。上面幅約1.38m、底面幅約0.39m、確認面からの深度は52cmを測る。検出した長さは0.95mで南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し4°東偏する。

**SK869 土坑**（図面7・23 図版9）

EO・40区に所在し、僧寺中心点の南279.7～280.6m、東120.6～121.3mに位置する。平面形は円形で、規模は長軸0.89m、短軸0.76m、確認面からの深度は7cmである。

**SK870 土坑**（図面7・23 図版9）

EM・EN-40区に所在し、僧寺中心点の南275.7～276.6m、東120.4～121.2mに位置する。平面形は円形で、規模は長軸0.83m、短軸0.77m、確認面からの深度は10cmである。

**SK871 土坑**（図面7・23 図版9）

EL・EM-39・40区に所在し、僧寺中心点の南272.8～273.8m、東119.9～120.9mに位置する。平面形は円形で、規模は長軸1.01m、短軸0.97m、確認面からの深度は7cmである。

第225次調査（図面7・23 図版9）

【所在地】 西元町三丁目2056-9

【調査面積】 32.50 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1985.3.4～3.24（実働10日間）

【検出遺構】 土坑1基（SK868）

【遺物箱数】 1

【調査担当】 有吉重蔵

**SK868 土坑**（図面7・23 図版9）

DP-56区に所在し、僧寺中心点の南223.3～223.8m、東168.8～170.3mに位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は隅丸方形で、規模は長軸1.52m以上、短軸0.56m以上、確認面からの深度は25cmである。

第227次調査（図面7 図版9）

【所在地】 西元町二丁目2550-7,8

- 【調査面積】 22.50 m<sup>2</sup>  
【調査期間】 1985.4.1～4.17（実働10日間）  
【検出遺構】 小穴2基  
【遺物箱数】 1  
【調査担当】 上村昌男

第228次調査（図面7・23 図版9）

- 【所在地】 西元町二丁目2545-33  
【調査面積】 13.75 m<sup>2</sup>  
【調査期間】 1985.4.9～4.15（実働4日間）  
【検出遺構】 土坑1基（SK872）、小穴2基  
【遺物箱数】 1  
【調査担当】 上村昌男

SK872土坑（図面7・23 図版9）

EH-51・52区に所在し、僧寺中心点の北261.2～262.3m、西152.4～153.7mに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸1.24m、短軸0.93m、確認面からの深度は15cmである。

第229次調査（図面7・24 図版9）

- 【所在地】 西元町三丁目1897-6  
【調査面積】 14.01 m<sup>2</sup>  
【調査期間】 1985.5.8～5.20（実働8日間）  
【検出遺構】 溝1条（SD196）  
【遺物箱数】 1  
【調査担当】 上村昌男

SD196溝（図面7・24 図版9）

FK～F0-65・66区に所在し、僧寺中心点の南329.2～340.3m、東195.4～199.7mに位置する。上面幅約3.86m、確認面からの深度は52cmを測る。検出した長さは10.81mで南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し4°西偏する。

第233次調査（図面8・24 図版9）

- 【所在地】 西元町三丁目1902-9  
【調査面積】 11.50 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1985.7.12～7.19（実働6日間）

【検出遺構】 溝1条（SD198）

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

SD198 溝（図面8・24 図版9）

FG～FI-84区に所在し、僧寺中心点の南316.4～325.3m、東252.4～254.6mに位置する。上面幅2.01～2.26m、底面幅0.38～0.52m、確認面からの深度は75cmを測る。検出した長さは8.72mで南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対し1°東偏する。

#### 第234次調査（図面8 図版10）

【所在地】 西元町三丁目2159-4,2160-6

【調査面積】 6.00㎡

【調査期間】 1985.7.15～7.19（実働5日間）

【検出遺構】 小穴1基

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

#### 第236次調査（図面8・25 図版10）

【所在地】 西元町二丁目2546,2113

【調査面積】 15.75㎡

【調査期間】 1985.8.5～8.15（実働8日間）

【検出遺構】 竪穴住居2軒（SI339・340）

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

SI339 竪穴住居（図面8・25 図版10）

DM・D0-39・40区に所在し、僧寺中心点の北221.4～223.9m、西116.9～118.8mに位置する。西・南側は調査区外へ続く。平面形は東西1.46m以上、南北2.28m以上の隅丸方形で、確認面からの深度は60cmである。主軸は僧寺中軸線に対し92°東偏する。東壁南部にカマドを設ける。

SI340 竪穴住居（図面8・25 図版10）

DM・D0-38・39区に所在し、僧寺中心点の北221.7～224.0m、西112.2～115.7mに位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は東西3.66m、南北1.59m以上の長方形で、確認面からの深

度は22cmである。主軸は僧寺中軸線に対し10°西偏する。竪穴住居中央に炉を設ける。

#### 第240次調査(図面8 図版10)

【所在地】 西元町二丁目2548-68

【調査面積】 11.20 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1985.10.4～10.9(実働4日間)

【検出遺構】 なし

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

#### 第243次調査(図面8・25 図版10)

【所在地】 東元町四丁目1474-2

【調査面積】 28.80 m<sup>2</sup>

【調査期間】 1985.11.14～11.27(実働10日間)

【検出遺構】 掘立柱建物1軒(SB88)、縄文土坑1基(SK875J)

【遺物箱数】 1

【調査担当】 上村昌男

##### SB88 掘立柱建物(図面8・25 図版10)

AF・AG-169・170区に所在し、僧寺中心点の北16.5～20.2m、東507.7～510.3mに位置する。柱穴2-2の西側が攪乱されている。桁行1間以上×梁行1間以上の掘立柱建物である。柱間から南北棟建物と考えられるが、北側と東側が調査区外に延びる可能性がある。桁行方向は僧寺中軸線に対し約75°東偏する。柱穴は直径0.45～0.68mの円形または不整形を呈し、確認面からの深度は40～67cmを測る。柱間寸法は桁行2.4mで、梁行1.9mである。

##### SK875J 土坑(図面8・25 図版10)

AF・AG-168・169区に所在し、僧寺中心点の北16.4～19.2m、東506.7～509.4mに位置する。西・南側は調査区外へ続く。平面形は円形で、規模は長軸2.67m以上、短軸2.26m以上、確認面からの深度は65cmである。倒木痕と思われる。

## 第4章 小結

### 1. 縄文時代の遺構と遺物

今回報告の調査で縄文時代の遺構・遺物を検出した調査地点は8地点である。この内遺構が検出されたのは5地点で検出遺構は堅穴住居5軒・土坑2基・集石2基である。また土器片のみが出土したのは2地点、石器のみが出土したのは1地点である。本節ではこれらの遺構群および遺物出土地点を概観しながら立川段丘面と武蔵野段丘面における縄文時代遺構の分布について述べる。

#### 〈立川段丘面〉

**第161次調査地点** 当該調査地点は立川段丘面に位置し、国分寺崖線の際で湧水点が近くにある。遺構は検出されなかったが、堀之内Ⅱ式の土器片が出土した。当該調査地点に近接する遺跡として八幡前遺跡がある。八幡前遺跡は黒鐘谷と野川本流とに挟まれた立川面より1～2m低い平安面と呼ばれる立川段丘面に立地する。吉田格らによって昭和24年に調査され、石器製作跡と思われる遺構と、後期堀之内Ⅱ式から加曽利BⅠ式土器や石錘、軽石製浮子などが出土している。また昭和55年の宅地造成に伴う調査において堀之内式の注口土器や鉢型土器をはじめ加曽利B式の土器片、磨石などの石器が少量出土している。さらに、周辺では国分寺市文化財保護審議委員であった佐藤敏也により後期堀之内Ⅱ式から加曽利BⅠ式土器片が採集されている。こうした従来の調査と第161次調査の成果から立川段丘面の特に野川や湧水点を背景とした地域に縄文時代後期の遺跡が点在する可能性が指摘される。

**第177・215次調査地点** いずれも立川段丘面に位置する。小規模ながら集石遺構が検出された。土器を伴わないため時期は不明であるが覆土の状況から縄文時代の所産と判断している。生活用水となる湧水点や野川からも比較的離れており従来から縄文時代遺構そのものの検出例が少ない地域である。しかしながら、第177次調査地点では集石はA・B二箇所に分離されておりそれぞれに掘り込み持つ。石は良く焼けており、覆土中には炭化物を多く含む。第215次調査地点も比較的深い掘り込みを持つ。石は良く焼けており、覆土中には炭化物を多く含む。こうした状況は縄文時代人の生活痕跡を色濃く残している。

**第156次調査地点** 立川段丘面に位置し、歴史時代の溝覆土から打製石斧が出土した。流れ込みの可能性が高いが、近接した地域での縄文時代人の活動の痕跡が推測される。

**第243次調査地点** 立川段丘面に位置し、確認面の状況は縄文時代の所産と判断している。完

掘られていなので規模や機能は不明だが、比較的深い掘り込みを持つ。

以上立川段丘面での調査地点を概観したが、第 161 次調査地点から八幡前遺跡において比較的活発な人類活動の痕跡が認められる。また従来遺構の存在が乏しいと判断されてきた崖線から離れた地点においても、集石や土坑が点在することが明らかになった。

#### 〈武蔵野段丘面〉

**第 181・188 次調査地点** 2 地点いずれも武蔵野段丘面で国分寺崖線より約 100 m 台地上に入ったところに位置し、多喜窪遺跡 A 地点に当たる。

第 181 次調査地点では堅穴住居跡 1 軒が検出された。出土した土器は勝坂期、連弧文土器、加曾利 E2 式の土器が出土している。第 188 次調査地点では堅穴住居跡が 4 軒検出されたが、いずれも住居の部分的な調査にとどまっております本体は調査区外に広がっている。そのため、時期を判別する土器は出土しておらず、近接する包含層中からは勝坂期の土器が出土している。

**第 227 次調査地点** 第 181・188 次調査地点と同様に武蔵野段丘面の多喜窪遺跡 A 地点に当たる。遺構は検出されていないが勝坂期、藤内 I 式、加曾利 E4 式の土器が出土している。

多喜窪遺跡 A 地点は、西元町二・四丁目に所在する。現在は宅地化が進んでいるために当時の地形を想起することは困難だが国分寺崖線上の武蔵野段丘面に広がっており、崖線下は野川源流域に当たる黒鐘谷に面し豊富な湧水に恵まれている。今回報告した三地点のほかにも代表的な調査としては昭和 24 年の多喜窪遺跡第 1 号住居の調査がある。当該住居から出土した中期中葉の一括土器群は勝坂Ⅲ式土器の「多喜窪タイプ」を含め昭和 50 年に国指定重要文化財に指定されている。また比較的大規模な調査事例としては、第 181・188 次調査地点の西側に隣接する宅地開発事業において第 140・251・252 次調査があり、『国分寺市史 上巻』および『武蔵国分寺跡発掘調査概報 28』に報告されており勝坂期の堅穴住居跡と土坑群が検出されている。

以上武蔵野段丘面での調査地点を概観したが、調査成果から多喜窪遺跡 A 地点は縄文時代中期を中心とした集落遺跡と考えられている。

こうした遺構分布から観ると、特に野川源流域における縄文時代の生活痕跡は中期前半～末葉までは武蔵野段丘面の崖線際に集落が集中するが、後期に入ると立川段丘面崖線下の湧水点付近に生活の舞台を移していくことがわかる。八幡前遺跡で土鍾と軽石製浮子が出土していることから、小規模ながら野川での漁撈活動が行われた可能性が指摘される。

国分寺市内における武蔵野段丘面から立川段丘面への遺跡の変遷は、縄文時代後期の遺跡が多摩川等の河川流域に増加していくことから、内陸型の狩猟採集から内水面漁撈へと生業形態の変化を反映しているといえよう。



## 2. 歴史時代の遺構と遺物

本書記載の調査地点は、例言9で触れた武蔵国分寺の構造図に照らすと、僧寺伽藍地内が5地点、寺院地内が19地点、寺院地外北方で2地点、寺院地外南方で2地点、寺院地外東方で5地点、寺院地外西方（東山道武蔵路以西）で6地点、尼寺伽藍地内1地点、尼寺伽藍地外南方で1地点の、計41箇所となる。このうち、前章までに報告した古代以降の遺構は、竪穴住居12軒、掘立柱建物4棟、溝状遺構16条、土坑19基、小穴等にのぼる。本節では、これらの遺構および出土遺物のうち、特筆すべき事項を中心に調査の成果を概観してみたい。

### 〈僧寺伽藍地内の調査〉

第148・179・198・209・212次調査地点が該当し、第209次地点が国分寺崖線上、それ以外は崖線下に立地する。このうち竪穴住居が発見された第148・198次調査区は、伽藍中枢部の東方約100mの至近地内で、大衆院・政所院の存在が予測される一帯にあたる。極めて部分的な調査ではあったが、第198次調査では2軒の住居の重複状況が確認され、うち新しい住居SI322Aは、出土する土器組成に須恵器を含まず、足高高台の土師質土器を主体とすることから10世紀後半以降の廃絶年代が想定される。カマドには女瓦を補強材として使用し、住居覆土内からは埴や複数の砥石、「荏原（荏原郡）」の押型がある198-KD03女瓦（図面38-10）が出土している。

### 〈僧寺寺院地内の調査〉

第100・113・132・142・146・151・153・156・167・169・177・183・204・215・216・224・225・234・236次調査地点が該当し、第142・236次地点が北方の崖線上、それ以外は崖線下に立地している。おおよそ第167・216次は寺院地南西、第234次が南門の南、第100次が寺院地東辺、その他が南東域に点在するという調査区の分布状況である。

このうち、竪穴住居は第142・216・236次調査の3地点で発見されている。残念ながら第142次のSI285、第236次のSI339・340は出土遺物に恵まれず、時期等の詳細は掴めなかったが、SI340は住居床面中央に炉を構える構造で、北および東西両壁の検出した範囲からはカマドの足跡は認められないため、何らかの工房的な性格を持っていた可能性がある。第216次調査のSI331・333・334はいずれも重複関係にあり、出土遺物からSI331が8世紀中～後半、SI334が9世紀後半、SI333が9世紀末～10世紀初頭頃の時期様相である。このうち、SI331は東西に長い長方形の平面プランで、北東・南西・南東壁の隅には柱穴を伴い、床面中央や西寄りの位置に炉を構築する特異な構造である。出土遺物には、前内出1号窯の216-PK11

須恵器坏(図面 42-7)を始め、国府系 A 群の有段男瓦や、偏行唐草文の宇瓦、押型「大(埼玉郡大田郷)」(図面 46-2, 3・47-1)、押型「父(秩父郡)」(図面 47-2)、模骨文字「多(多磨郡)」(図面 47-3)の文字を伴う各女瓦など、創建期特有の遺物組成を持つことも特徴的であり、周辺の既往の調査で発見されている堅穴住居群の中でも、ひととき古手の様相といえる。

また、9 世紀後半の SI334 覆土からは、八坂前Ⅲ-1 類に分類される 216-KA01 素弁七葉鏡瓦(図面 50-5)の完形品が、9 世紀末以降の SI333 からは、断片的な資料ではあるが 216-TK01 輪の羽口片(図面 49-8)が 1 点出土し、第 1 次調査地点(市立第四中学校内)でも検出された鍛冶工房群に関連した遺物といえる。

その他、やや延長規模の長い溝状の遺構が 3 箇所 5 地点で発見されている。このうち 4 地点は、七重塔の南方約 150 m 程の距離を隔てた調査区で、第 151・156 次(SD152)が塔跡 2 の南西、第 113・132 次調査(SD131)が塔跡 1 の南側にあたる。SD152 は上面幅 3.3 ~ 3.8 m、溝底幅 0.3 ~ 0.5 m、確認面からの深さは 80cm 程を測り、僧寺中軸線より 6° 東に振れて直線状に走行する。2 つの地点で約 19 m 程の延長が確認された。溝底の形状や覆土の堆積状況から、幾度かの掘り返しが行われ、長期に亘って維持された形跡が認められる。また、溝 SD131 は約 18 m の延長を検出し、溝幅 0.4 ~ 0.8 m、深さが 0.2 m を測り、SD152 よりは小ぶりの溝であった。両溝とも遺物は出土せず、時期等の詳細は不明である。

一方、寺院地南西側に所在する第 167 次調査地点では、僧寺中軸線より 12 ~ 13° 西に振れる溝 5 条(SD153・154・157・166・167)が検出され、SD157 は調査区内で約 25 m 程の延長を確認している。部分的な調査のため詳細は掴めていないものの、覆土の堆積状況からは SD157 → SD165 → SD166、および SD153 → SD154 それぞれの新旧関係を判断しており、先の SD152 とは若干様相を異にするものの、幾筋もの主軸方向を踏襲した溝を、至近範囲の中で繰り返し掘り直しているとみて良いだろう。

このうち、SD165・166 及びそれらと重複する土坑 SK736 とその周辺からは、瓦を中心とした遺物が多数出土している。特徴的なものとして、獣面文の 167-KG01 鬼瓦(図面 30-11)をはじめ、素弁八葉の鏡瓦、均整唐草文・偏行唐草文・渦巻状文・三重弧文・特異文等、多種多彩な宇瓦類がある。

出土した瓦に刻まれた文字資料としては、第 167 次調査では凸面に「豊(豊島郡)」の押印のある男瓦に「運部直猪口」とヘラ書された 167-KC01(図面 27-5・図版 37-1, 2)と、男瓦に「運部面」のヘラ書がある 167-KC02(図面 30-1・図版 37-3)の 2 点の人名瓦が出土している。また、郡名や郷名を示すと考えられる文字では「多(多磨郡)」・「播中(播羅郡那珂郷)」・「比(比企郡)」・「草瓦(埼玉郡草原郷)」・「前(埼玉郡)」の押印、「荏原(荏原郡)」の押型、「木田面(荏原郡木田郷か)」・「珂(那珂郡もしくは播羅郡那珂郷か)」のヘラ書などの各字が確認される。

第204次調査では、204-KD01（図面40-1・図版38-7）「□部木□」や204-KD06（図面40-6・図版38-10）「荒墓郷若□」の人名のほか、大きく「家（人間郡大家郷か）」とヘラ書された女瓦204-KD05（図面40-5・図版38-9）が認められる。

#### 〈僧寺寺院地外・尼寺伽藍地周辺の調査〉

僧寺寺院地外では、北方崖上で第192・228次調査、南方で第229・233次調査、東方で第138・161・199・214・243次調査、西方で第157・181・188・203・227・240次調査を、尼寺伽藍地周辺では第196・197次調査をそれぞれ実施しているが、尼寺伽藍地周辺の2地点では、遺構・遺物ともに発見されていない。このうち、寺院地南方の第229・233次調査では、先のSD152と同様、規模の大きな南北溝がそれぞれ検出されている。まず、第229次調査のSD196は、上面幅約3.9m、確認面からの深さ0.5m、検出した総延長は約11mに及び、僧寺中軸線より4°西に傾く。一方の第233次調査のSD198も上面幅2.2m、深さ0.8m、検出した延長は8.8mで、中軸線より1°東に傾いている。遺物が出土していないため時期等の詳細は掴めていないが、寺院地の内外にこうした幅2m前後に及ぶ大型の溝が各所に巡っていることが改めて判明し、具体的な区画のあり方については、調査実績を積み重ねつつ検討を加えていく必要があるだろう。なお特徴的な瓦としては、第188次調査において188-KD05模骨文字「七」（図面36-1）、188-KD07・KD09押型「荏（荏原郡）」（図面37-1・32-4）を伴う文字瓦が出土している。

## 第5章 総括

「概報」38は、昭和54年～60年度に実施した第100次～243次調査に係る概要報告である。即ち、昭和54年—第100次、56年—第113・132次、57年—第138・142・146・148・151・153・156・157・161・167・169次、58年—第177・179・181・183・188・192次、59年—第196・197・198・199・203・204・209・212・214・215・216・224・225次、60年—第227・228・229・233・234・236・240・243次として実施された41箇所であり、発掘地点を概括すると、僧寺伽藍地内・寺地内外、尼寺伽藍地内外にわたっている。行政地番は、東元町三・四丁目、西元町二・三丁目地内、いずれも個人住宅の建設に伴う事前発掘で、国・東京都よりの補助金によって施行された。したがって、発掘対象面積は、6～140㎡と限定された調査であった。

調査の結果、武蔵国分寺跡の空間と消長を考えると等閑視することの出来ない遺構の検出とその意義は次の通りである。

(1) 第216次調査で検出された重複関係にある3軒の堅穴住居跡(SI331・333・334)は、8世紀中～後半(SI331)→9世紀後半(SI334)→9世紀末～10世紀初頭(SI333)と把握されたが、とくに8世紀代のSI331は、東西に主軸を有する長方形(5.54m×4.41m)プランの遺構で、中央西寄りに炉状施設を具備し、創建期に近い時期の須恵器・瓦が出土した。東山道武蔵路に沿って認められている形状の堅穴遺構として注意される。

(2) SI331及びSI334(9世紀後半)の覆土中から9世紀後半代の瓦(秦弁七葉鏡瓦・男瓦・女瓦片)が多数出土した。付近には掘立柱建物(SB84)の存在が確認されており、8世紀後半～9世紀後半にかけて第216次調査区域は国分寺の創建・再建にかけて、特定の空間域であった可能性が示された。

(3) 塔の南と南西、寺院地の南西において溝状遺構の存在が確認されたが、いずれも走向は知られたものの、掘削時期については明確でない。ただ、第167次調査で発掘され、それぞれ重複関係が確認されたSD153→SD154及びSD157→SD165→SD166は注意される。とくにSD165・166と切り合っている土坑SK736とその周辺からは、多量の瓦(鏡・宇・男・女・鬼)が出土した。なかに郡、郷名瓦(多・荏原・珂・比・豊・播中・木田)、人名(運部直猪口)を含んでいる。土坑の時期はSD165・166より新しく埋没時期を特定することは難事である。僧寺伽藍地と寺院地の中間には多くの溝状遺構の存在が知られているが、時期の列定については定かではなく、今後の調査に委ねたい。

(4) 僧寺の寺院地外の調査として、北方台地上、伽藍地の東・西・南方で発掘が行われたが、とくに南方で実施された第229次検出のSD196では上幅3.9m(深さ0.5m以上)延長11m、

第 233 次調査の SD198 は上幅 2.2 m (深さ 0.8 m) 延長 8.8 m が確認されたことが記録化されたことは有用であった。

(5) 第 148 次調査で発掘された堅穴 (SI285)、第 198 次調査の堅穴 (SI322A・322B) の存在は、寺院地における土地利用の空間をめぐる視点の究明に資料を提出した結果として注意されるであろう。

以上、発掘区それぞれに意義をもつものであった。遺物の出土がまったく認められなかった地域のあり方は今後とも注視されることが求められ、他方、堅穴・溝状遺構の検出は、その地の空間が如何に活用されていたかについての問題を提起したと言えるであろう。

武蔵国分二寺跡の発掘調査の計画的実施は、史跡整備の実施にあたり確実な歴史的資料を提出することになることは明らかである。

すでに実施されている整備にあたり、既往の事前調査の結果が、それぞれにわたって活用されている。昭和 54～60 年度における僧寺跡の調査結果も史跡の整備と活用に参考になればと願っている。

また、事前調査の結果、武蔵国分寺以前の縄文時代の遺跡も発掘された。それは、周知の八幡前遺跡の一部の発掘であった。第 177・215 次調査によって発掘された集石遺構はそれに該当する。縄文時代後期のものである。また、多喜窪遺跡 A 地点の一部が、第 181 次調査として実施され、堅穴住居跡 1 軒が発掘された。縄文時代中期(勝坂・加曾利 E2 式土器)の所産であった。

このように、奈良～平安時代の武蔵国分寺跡及び縄文時代中～後期の集落遺跡の調査結果を取めた記録として「概報」38 の編集・発行が果たされたのである。

(調査団長 坂詰 秀一)

## 参考文献

- 有吉重蔵 1986 「遺瓦からみた武蔵国分寺」『国分寺市史 上巻』国分寺市
- 有吉重蔵・西脇俊郎 1981 『武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 V』武蔵国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 上敷領久・木下さおり 2001 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 25』国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久 2008 『恋ヶ窪遺跡調査報告 V』
- 合田芳正・国武定克・上敷領久 2005 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 30』国分寺市遺跡調査会
- 坂詰秀一編 1984 『八坂前窯跡』雄山閣出版
- 佐原 真 1972 「平瓦桶巻き作り」『考古学雑誌』58-2
- 高田竹山監修 1978 『五體字類』西東書房
- 福田信夫 1986 「市内の遺跡」『国分寺市史 上巻』国分寺市
- 福田信夫 2001 「僧尼寺伽藍内外の様相」『多摩のあゆみ』103 財団法人たましん地域文化財団
- 福田信夫・浅野晴樹・富樫雅彦 1985 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 VIII』武蔵国分寺遺跡調査会
- 福田信夫・上敷領久 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 28』国分寺市遺跡調査会







---

## 出土遺物一覽表

---

156 次調査	石器一覽	204 次調査	歴史時代土器一覽
161 次調査	歴史時代土器一覽	204 次調査	宇瓦一覽
161 次調査	縄文時代土器一覽	204 次調査	女瓦一覽
167 次調査	歴史時代土器一覽	204 次調査	埴一覽
167 次調査	鍔瓦一覽	204 次調査	石器一覽
167 次調査	宇瓦一覽	216 次調査	歴史時代土器一覽
167 次調査	男瓦一覽	216 次調査	鍔瓦一覽
167 次調査	女瓦一覽	216 次調査	宇瓦一覽
167 次調査	鬼瓦一覽	216 次調査	男瓦一覽
167 次調査	埴一覽	216 次調査	女瓦一覽
181 次調査	縄文時代土器一覽	216 次調査	土製品一覽
188 次調査	歴史時代土器一覽	216 次調査	鉄製品一覽
188 次調査	男瓦一覽	216 次調査	石製品一覽
188 次調査	女瓦一覽	227 次調査	縄文時代土器一覽
188 次調査	縄文時代土器一覽	227 次調査	石製品一覽
188 次調査	石器一覽		
198 次調査	歴史時代土器一覽		
198 次調査	女瓦一覽		
198 次調査	埴一覽		
198 次調査	石製品一覽		



出土遺物一覧表

156次調査 石器一覧										
遺物番号	図面図版	種別 器形	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存 状態	石材	備考
AG01	26-1 11-1	打製 石斧	SD152 覆土	16.8	6.6	2.7	360.0	完形	砂岩	片面に自然面を残す。痕形。

161次調査 歴史時代土器一覧							
遺物番号	図面図版	種別 器種	出土位置	口徑 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PK01	26-2 11-2	須恵器 甕	遺構外	— (4.5) (7.0)	底部～口縁部にかけて緩やかに立ち上がる。	ロクロ調整。底部外面～体部下端回転ヘラケズリ。	底部～体部1/3。灰色。硬質。砂粒を含み緻密。東金子窯?
PN01	26-3 11-3	灰輪陶器 長頸壺	遺構外	— (3.9) (9.2)	肉厚な底部から胴部にかけて、やや緩やかに立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切後、高台胎付。	底部～胴部下半1/3。灰色。硬質。砂粒やや多く、黒混含む。底部内面見込みに降灰軸付着。
PT01	26-4 11-4	瓦質土器 鉢	遺構外	— (6.2) (20.0)	底部からほぼ垂直に立ち上がる。	底部外周に篋状の圧痕。胴部外面格子目の圧痕→ヨコナデ。	底部1/6。黒色。軟質。金雲母・砂粒を少量含む。

161次調査 縄文時代土器一覧							
遺物番号	図面図版	種別 器種	出土位置	口徑 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
JE01	26-5 11-5	深鉢	遺構外	— —	楕円形で透孔を持つ把手。	粘土紐によって成形される。丁寧に磨かれており上下左右から透孔を施す。	赤色。焼成は良好。胎土は緻密。磨灰期。残存高5.5cm。
JG01	26-6 11-6	深鉢	遺構外	— (5.5)	薄手で直線的に広がる口縁部。	内外面に丁寧な磨き。平行する2本の刻目を有す隆帯を胎付する。内面口唇に一条の沈線が入る。	暗褐色。焼成は良好。胎土は白色砂粒を多く含む。壺之内Ⅱ式。JG01～03は同一個体。
JG02	26-7 11-7	深鉢	遺構外	— (5.5)	薄手で直線的に広がる口縁部。	内外面に丁寧な磨き。平行する2本の刻目を有す隆帯を胎付する。内面口唇に一条の沈線が入る。	暗褐色。焼成は良好。胎土は白色砂粒を多く含む。壺之内Ⅱ式。
JG03	26-8 11-8	深鉢	遺構外	— (9.7)	薄手で直線的に広がる口縁部。	内外面に丁寧な磨き。平行して2本の横位の沈線を施らせ、その内側に丸の縄文を施す。	暗褐色。焼成は良好。胎土は白色砂粒を多く含む。壺之内Ⅱ式。
JG04	26-9 11-9	深鉢	遺構外	— (9.5)	やや部厚く、口縁から胴部にかけてやや括れる。	口縁上部に刻目のある隆帯が1条廻る。縦位の「8」字状隆帯により口唇より繋がる。胴部は平行して2本の横位の沈線を施らせ、その内側に丸の縄文を施す。内面口唇に一条の沈線が入る。	暗褐色。焼成は良好。胎土は白色砂粒を多く含む。壺之内Ⅱ式。
JG05	26-10 11-10	深鉢	遺構外	— (7.0)	薄手で直線的に広がる口縁部。	口縁上部に刻目のある隆帯が1条廻る。縦位の「8」字状隆帯により口唇より繋がる。胴部は平行して2本の横位の沈線を施らせ、その内側に丸の縄文を施す。内面口唇に一条の沈線が入る。	暗黄褐色。焼成は良好。胎土は褐色の砂粒を多く含む。壺之内Ⅱ式。JG05-06は同一個体。
JG06	26-11 11-11	深鉢	遺構外	— (5.0)	薄手で直線的に広がる口縁部。	口縁上部に刻目のある隆帯が1条廻る。縦位の「8」字状隆帯により口唇より繋がる。内面口唇に一条の沈線が入る。	暗黄褐色。焼成は良好。胎土は褐色の砂粒を多く含む。壺之内Ⅱ式。
JG07	26-12 11-12	深鉢	遺構外	— (1.4) 8.2	大形深鉢の底部。	内外面に炭素吸着により黒色化し、丁寧な磨きを施す。	壺之内Ⅱ式。網代底。

出土遺物一覧表

167 次調査 歴史時代土器一覧							
遺物番号	図面図版	種別器種	出土位置	口径器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PK01	28-6 13-6	須恵器 罎	遺構外	((11.99) 3.4 (6.77))	やや肉厚な胎土で、底部から口縁部にかけて緩やかに湾曲して立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切後、無調整。	口縁部～底部 1/3。暗灰色。硬質。砂粒・角閃石を多く含む。粗い。東金子窯?
PK02	28-7 13-7	須恵器 甕	遺構外	— (3.8) —	—	外面口縁部直下に縞縞波状文を施す。	暗灰色。硬質。緻密な胎土。
PK03	28-8 13-8	須恵器 甕	遺構外	(6.0) — (14.8))	底部から大きく外反して立ち上がる。	胴部に巻き上げ痕あり。底部外面回転ナデ後、高台貼付。	暗灰色。やや軟質。砂粒多く含む。東金子窯。
PS04	28-9 13-9	須恵器 小型瓶	遺構外	— (1.7) —	—	ロクロ調整。底部成形後、頸部貼付。	頸部～胴部上部 1/4。灰白色。硬質。胴部外面～頸部内面に淡緑色の降灰軸付着。緻密な胎土。

167 次調査 鍔瓦一覧															
遺物番号	図面図版	出土位置	直径	内区				外区					全長	備考	
				中房種 形態	蓮子数	弁区径 弁幅	弁数 形態	幅	内縁		外縁				
									幅	文様	幅	高			文様
KA01	29-1 14-1	遺構外	(8.2)	—	—	—	SA	3.2	0.3	a	2.7	—	a	(8.0)	素弁。技法A。砂粒・角礫を多く含む粗い。男瓦部凹面布目。
KA03	29-2 14-2	遺構外	(4.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(8.7)	技法A。砂粒を多く含むが緻密。明灰藍色。
KA04	29-3 14-3	遺構外	(4.7)	—	—	—	SA	—	—	—	—	—	a	(5.0)	素弁。男瓦部凹面布目。砂粒を多く含むが緻密。

167 次調査 宇瓦一覧															
遺物番号	図面図版	出土位置	上弦部幅 下弦部幅 弧深	厚さ	内区		外区				胎区		文様 深さ	全長	備考
					厚さ	文様	上		下		幅	文様			
							厚さ	文様	厚さ	文様					
KB01	28-2 13-2	SK736 覆土	(10.7) (6.3) —	5.9	2.9	KK	0.8	a	2.2	a	—	—	0.8	(13.4)	均整唐草文。技法D。段頸B2。頸部面縄目。女瓦部凹面布目、凸面縄目。角礫多く含む粗い胎土。
KB02	28-3 13-3	SK736 覆土	(9.6) (11.2) —	5.8	3.2	KK	1.1	b	1.5	b	2.5	b	0.6	(6.1)	均整唐草文。八坂前1-1型。曲線頸C2。瓦当面に縄目あり。女瓦部凹面布目、凸面縄目。
KB03	28-4 13-4	SK736 覆土	(14.5) (16.2) —	5.2	3.1	KK	0.7	a	1.8	a	3.5	g	0.6	(8.3)	均整唐草文。技法D。段頸B1。瓦当面に縄目あり。頸部面縄目。女瓦部凹面布目、凸面縄目。角礫含む。やや粗い。
KB04	28-5 13-5	SK736 覆土	(8.5) (9.4) —	4.8	3.3	KK	0.3	a	1.2	a	—	—	0.7	(10.5)	渦巻状均整唐草文。曲線頸C1-b。頸部面～女瓦部凸面縄目、凹面布目。砂粒少々含む緻密。
KB05	29-4 14-4	遺構外	(10.3) (13.9) —	(4.2)	—	G	—	—	—	—	—	—	1.1	(16.0)	三重弧文。技法D。段頸B1。頸部面ヘラケズリ。女瓦部凸面縄目。角礫含む粗い。

出土遺物一覧表

167 次調査 宇瓦一覽															
遺物 番号	図面 図版	出土位置	上弦弧幅 下弦弧幅 弧深	厚さ	内区		外区				筋区		文様 深さ	全長	備考
					厚さ	文様	上		下		幅	文様			
							厚さ	文様	厚さ	文様					
KB06	29-5 14-5	遺構外	(10.7) (10.8) —	4.3	3.4	0	0.9	a	—	—	—	—	0.7	(11.3)	蓮華文。技法D、段頸B1。頸部面～女瓦部凸面襷目、凹面布目。砂粒・角礫を多く含む。
KB07	29-6 14-6	遺構外	(5.0) (5.5) —	5.0	3.0	KK	1.1	a	1.4	a	—	—	—	6.2	渦巻状均整唐草文。技法D、段頸。頸部面襷目。砂粒少なく緻密。
KB08	29-7 14-7	遺構外	(8.8) (10.1) —	6.3	4.5	0	1.6	a	1.3	a	—	a	0.9	(6.9)	特異文。技法C、段頸。女瓦部凹面布目、凸面襷目。灰褐色。緻密な胎土。
KB09	29-8 14-8	遺構外	(5.1) (9.4) —	5.5	4.0	HK	0.7	—	0.8	—	—	—	1.1	(8.2)	偏行唐草文。技法A7、段頸B2。女瓦部凹面布目。軟質。砂粒・白色針状物質含む。南比企窯。
KB10	29-9 14-9	遺構外	(6.0) (6.7) —	4.5	3.0	KK	1.0	a	0.5	a	—	—	—	(6.0)	均整唐草文。技法D、緩い段頸。頸部面襷目。女瓦部凹面布目、凸面襷目。灰色。砂粒を含む。
KB11	29-10 14-10	遺構外	(3.4) (4.8) —	4.8	3.0	0	1.0	a	0.8	a	(1,2)	a	0.5	(2.3)	灰褐色。砂粒を多く含む。粗い。
KB14	29-11 14-11	遺構外	(4.0) (5.0) —	(2.5)	—	G	—	—	—	—	—	—	—	(9.0)	垂弧文。技法D、段頸。頸部面格子目。灰褐色で緻密な胎土。
KB16	29-12 14-12	遺構外	(4.1) (4.8) —	4.9	2.9	KK	—	a	—	—	—	—	0.1	(5.6)	均整唐草文。技法D、段頸。頸部面格子目。女瓦部凹面布目→ナデ。砂粒を少量含む。
KB17	27-4 12-4	SD166 覆土	(8.2) (11.3) —	2.8	—	KK	—	a	—	—	—	a	—	(16.5)	均整唐草文。技法D7、緩い段頸。頸部面～女瓦部凸面襷目、凹面布目。角礫を含む。

167 次調査 男瓦一覽												
遺物 番号	図面 図版	出土位置	狭幅 広幅 全長	厚さ	素材	成・整形の特徴					備考	
						凹面		凸面		端面		
						布目	特徴	叩き	特徴			特徴
KB01	27-5 12-5	SD166 覆土	— — (10.5)	1.9	—	21×27	ヘラ書「蓮部高窪口」あり。	—	ナデ。押印「豊」（豊島郡）あり。	—	—	明灰色。砂粒少量含む。白色針状物質含む。文字部分図版 37-1,2。
KB02	30-1 15-1	遺構外	— — (4.9)	1.9	—	24×24	ヘラ書「蓮部窪」あり。	—	ナデ。	—	—	暗灰色。白色針状物質含む。南比企窯。文字部分図版 37-3。
KB03	30-2 15-2	遺構外	— — (5.8)	1.3	—	18×18	朱墨痕あり。	—	不明ヘラ書あり。幅 4 cm 程の縦ヘラナデ。	—	—	明灰色。砂粒・雲母含む。文字部分図版 29-9。
KB06	30-3 15-3	遺構外	— (8.5) (9.8)	1.9	—	31×24	朱墨痕あり。	—	—	—	—	明灰色。砂粒を多く含む。やや粗い。

出土遺物一覧表

167次調査 女瓦一覧											
遺物番号	図面図版	出土位置	狭楕 広楕 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
					素材	凹面		凸面		横面 特徴	
						布目	特徴	叩き	特徴		
KD02	27-1 12-1	SD165 覆土	— (8.2)	2.6	—	20×17	—	斜格子	押印「多」(多 磨郡)あり。	—	灰褐色。軟質な胎土。 焼成良好。一枚作り。 文字部分図版 37-2。
KD03	27-2 12-2	SD165 覆土	— (7.3) (15.8)	2.2	—	27×34	—	罫目 L11	朱墨痕あり。	広・側端面ナ デ。	灰褐色。硬質。焼成良 好。一枚作り。
KD04	27-6 12-6	SD166 覆土	— (10.6)	2.0	—	18×20	押印「播中」 (播羅郡那珂 郡)あり。	罫目 L9	—	—	赤褐色。やや軟質。白 色針状物質含む。南比 企堂。一枚作り。文字 部分図版 37-4。
KD06	27-7 12-7	SD166 覆土	(15.1) (6.3)	2.9	粘土板	18×24	—	斜格子	押型「花」(花 原郡)。	狭・側端面ナ デ。	灰褐色。砂粒・角礫含 み。やや粗い。文字部 分図版 37-10。
KD10	30-4 15-4	遺構外	— (3.7)	1.8	—	21×24	—	正格子	不明へラ書あ り。	—	赤褐色。砂粒を含むが 微塵。一枚作り。文字 部分図版 37-5。
KD11	30-5 15-5	遺構外	— (9.8)	2.1	—	22×23	押印「草瓦」 (埼玉郡草原 郡)あり。	罫目 L9	—	—	明灰色。砂粒少量・白 色針状物質含む。南比 企堂。焼成良好。硬質。 文字部分図版 37-6。
KD12	27-3 12-3	SD165 覆土	(5.4) (14.7)	2.0	粘土板	21×22	押印「前」(埼 玉郡)あり。	罫目 L11	—	—	灰褐色。砂粒・橙色ス コリア少量含む。やや 軟質。焼成良好。一枚 作り。文字部分図版 37-7。
KD15	30-6 15-6	遺構外	— (8.0)	2.6	—	18×18	へラ書「木田」 (在原郡木田 郡)あり。	罫目 L7	—	—	灰白色。砂粒多く、粗 い。焼成良好。一枚作 り。文字部分図版 37- 9。
KD16	30-7 15-7	遺構外	— (10.6)	2.4	—	22×18	へラ書「河」 (那珂郡もし くは播羅郡那 珂郡)あり。	罫目 L12	—	—	青灰色。砂粒・角礫含 み。やや粗い。焼成良 好。硬質。一枚作り。 文字部分図版 37-8。
KD17	30-8 15-8	遺構外	— (13.0)	2.4	粘土板	19×25	押印「比」(比 企郡)あり。	罫目 L9	罫目叩き→へラ ケズリ。	—	灰褐色。砂粒・角礫多 く含む。焼成良好。や や硬質。一枚作り。文 字部分図版 38-1。
KD18	30-9 15-9	遺構外	(6.5) (8.6)	2.6	—	25×24	一部正格子叩 きあり。	正格子	幅 2.8cm 西方の 正格子叩き。	—	灰褐色。砂粒・雲母・ 白色針状物質含む。南 比企堂。焼成良好。一 枚作り。
KD19	30-10 15-10	遺構外	— (9.0)	2.6	粘土板	—	工具圧痕あり。	斜格子	ナデ→押型「花 原」(在原郡)。	—	灰白色。砂粒少量含 み。やや軟質。焼成良 好。文字部分図版 38- 2。

167次調査 鬼瓦一覧									
遺物番号	図面図版	出土位置	長辺 短辺 厚み	素材	成・整形の特徴			備考	
					上面	下面	側面		
EG01	30-11 15-11	遺構外	(13.6) (10.5) 3.3	—	布目。	罫叩き 19×19。	へラケズリ。	獸面文。灰黄白色→明灰色。やや軟質。粗砂粒 少量混入。	

出土遺物一覧表

167 次調査 埴一覽								
遺物番号	図面図版	出土位置	長辺短辺厚み	素材	成・整形の特徴			備考
					上面	下面	側面	
K003	28-1 13-1	SD166 覆土	(9.1) (14.1) (4.6)	粘土板	ヘラケズリ。	ヘラケズリ。	ヘラケズリ。	茶褐色。砂粒・白色針状物質少量含む。やや軟質。焼成良好。南比企窯。
K010	30-12 15-12	遺構外	(10.7) (8.7) (5.9)	粘土板	ヘラケズリ。	—	—	明灰色。砂粒・白色針状物質少量含む。やや軟質。焼成良好。南比企窯。

181 次調査 縄文時代土器一覽							
遺物番号	図面図版	種別器種	出土位置	口徑器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
JE01	31-1 16-1	深鉢	SI312J 覆土	— (6.2)	— 欠損部が多く、全容は不明。	隆帯と比較で区画し、横位のLR調文を施文する。	褐色。焼成はやや良好。胎土に砂粒を多く含む。磨板Ⅱ式。
JF01	31-2 16-2	深鉢	SI312J 覆土	(11.1) (12.0)	— 波状口縁で僅かに屈曲する口縁部からやや膨らむ頸部に至り、底部にかけて窄まる。	半截竹管状工具による条線で地文を委出した後、3本の弧線が施される。波頂部から垂下する2本の沈線を表出する。	暗褐色。焼成やや良好。胎土に砂粒を多く含む。胴部1/2残存。連弧文土器。
JF02	31-3 16-3	深鉢	SI312J 覆土	— (10.0)	— 括れ部直下の胴部上半部が肩状に張り出す。	筒指状の条線文。口縁部に粗雑な連弧文。口唇部には沈線と列点文を施す。内面は丁寧なケズリ。	黄灰色。焼成はやや良好。胎土は緻密。口縁部から胴部まで1/4残存。連弧文土器。
JF03	31-4 16-4	深鉢	SI312J 覆土	— (6.0)	— キャリバー形を呈すると考えられる。	口縁部は隆帯表出の渦巻文による区画が認められ、区画内にはRの調文を施文する。内面は丁寧なケズリ。	暗茶色。焼成はやや良好。胎土は砂粒を多く含む。口縁部1/3残存。加曾利E2式。
JF04	31-5 16-5	深鉢	SI312J 覆土	— (15.3)	— 大形で胴部上半でやや膨らむ。	条線を地文とした上に、貼付隆帯による渦巻状の意匠を表出する。内面は丁寧なミガキ。	黄褐色。焼成は良好。胎土は緻密。胴部の一部残存。加曾利E2式。
JF05	31-6 16-6	深鉢	SI312J 覆土	— (10.3) (7.4)	— 胴部下半でやや膨らむ。	筒指状の条線文。2本の横位の沈線を施す。内面は黒色の炭素吸着。	赤褐色。焼成は良好。胎土は砂質で粗い。胴部から底部にかけて1/3残存。連弧文土器。
JF06	31-7 16-7	深鉢	SI312J 覆土	— (9.4) (6.9)	— 胴部から括れることなく底部にかけて窄まる。	粗い条線を地文とする。粗製土器。	浅黄褐色。焼成はやや良好。胎土は粗い。胴部から底部にかけて1/3残存。加曾利E2式。
JF07	31-8 16-8	深鉢	SI312J 覆土	— (3.3) (9.8)	— 欠損部が多く、全容は不明。	内面は丁寧なミガキ。	浅黄褐色。焼成はやや良好。胎土は粗い。底部1/2残存。加曾利E2式。

188 次調査 歴史時代土器一覽							
遺物番号	図面図版	種別器種	出土位置	口徑器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PH01	32-5 17-5	土師器 甕	SI316 カマド内	((17.8)) (5.1)	— コの字状口縁部。	口縁部内外面ヨコナゲ。頸部外面～胴部上面ヨコヘラケズリ→指頭圧痕。	口縁部1/6。赤褐色。砂粒・雲母を含み、やや粗い。焼成良好。武蔵型。
PH02	32-6 17-6	土師器 甕	SI316 覆土	((19.3)) (6.0)	— 頸部～胴部の屈曲が弱く、緩いコの字状口縁部を呈する。	口縁部内外面～頸部外面ヨコナゲ・指頭圧痕。胴部外面ヨコヘラケズリ。	口縁部1/5。暗赤褐色。砂粒・雲母少量含む。焼成良好。武蔵型。
PK01	32-7 17-7	乳患器 坏	SI316 カマド内	((12.0)) 3.6 (15.7)	— 胴部は緩く湾曲して立ち上がる。	口コ調整。底部回転糸切後、無調整。	口縁～底部1/4。明灰色。砂粒・石英を少量含む。焼成良好。東金子窯。
PK02	32-8 17-8	乳患器 埴	SI316 覆土	13.5 5.2 5.6	— 薄手で、胴部は湾曲しながら立ち上がる。	口コ調整。底部回転糸切後、無調整。	2破片接合(完形)。暗灰褐色。砂粒・石英を含む。焼成良好。体部外面墨書(判読不明)。南多摩窯。文字部分図版30-3。

出土遺物一覧表

188次調査 歴史時代土器一覧							
遺物番号	図面図版	種別器種	出土位置	口径器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PK03	32-1 17-1	須恵器 杯	SI314 覆土	— (2.5) (7.0)	胴部はやや湾曲気味に立ち上る。	ロク口調整。底部回転糸切後、無調整。	底部1/3。青灰色。砂粒少量含む。焼成良好。東金子窯。
PL01	32-9 17-9	土師器 台付甕	SI316 カマド内	— 3.4 9.6	—	外面回転ナデ→指頭圧痕。内面ヘラナデ→回転ナデ。	脚台部のみ残存。赤褐色。砂粒・雲母含む。焼成良好。武蔵型。
PL02	32-2 17-2	土師質土器 杯	SI314 床面下	— (1.4) (5.0)	—	ロク口調整。底部回転糸切後、無調整。	底部1/2。淡褐色。きめの細かい軟質な胎土。内面見込み煤付着。

188次調査 男瓦一覧											
遺物番号	図面図版	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴				備考		
					素材	凹面		凸面		端面 特徴	
						布目	特徴	叩き			特徴
EC01	33-1 18-1	SI316 カマド内	— (11.0) (24.5)	1.3	粘土 横紐	18×21	—	調目 L8	調目叩き→ヨコヘラケズリ。	側端面ヘラケズリ。広端面に調目あり。	無段。赤褐色。砂粒・白色針状物質含む。南比企窯。
EC02	33-2 18-2	SI316 カマド内	— (21.2)	2.1	粘土 横紐	34×22	朱墨痕あり。	—	ヨコヘラケズリ。	側端面ヘラケズリ。	無段。灰褐色。砂粒・石英少量含むが緻密。
EC03	34-1 19-1	SI316 石袖	— (16.4) (30.4)	2.0	粘土 横紐	18×16	—	調目 L9	調目叩き→ヨコヘラケズリ。	広・側端面ヘラケズリ。	無段。青灰色。角礫・石英を含む。

188次調査 女瓦一覧											
遺物番号	図面図版	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴				備考		
					素材	凹面		凸面		端面 特徴	
						布目	特徴	叩き			特徴
ED01	34-2 19-2	SI316 カマド内	23.6 27.2 36.7	1.4	—	21×27	広・側端縁面取り。	調目 L10	—	広・狭・側端面ナデ。	青灰色。砂粒・石英含む。硬質。焼成良好。
ED02	35-1 20-1	SI316 カマド内	24.7 (21.6) 37.3	2.8	粘土 横紐	29×33	—	調目 L9	—	広・狭・側端面ナデ。	褐色。砂粒含む。やや粗い。焼成良好。
ED03	35-2 20-2	SI316 カマド内	(13.5) — (23.5)	2.2	粘土 横紐	—	ヨコヘラケズリ。	斜格子	幅4cmの斜格子叩き。	広・側端面ヘラケズリ。	薄褐色。砂粒・石英多量含む。粗い。焼成良好。
ED04	35-3 20-3	SI316 カマド内	— (26.3)	2.5	—	17×23	—	調目 L8	側端縁ナデ。	側端面ナデ。	一枚作り。淡褐色。砂粒少量含む。軟質。焼成良好。
ED05	36-1 21-1	SI316 カマド内	(20.7) — (27.6)	1.8	—	24×30	横骨文字「七」あり。朱墨書「寺」？あり。狭・側端縁面取り。	調目 L7	狭・側端縁ナデ。	狭・側端面ナデ。	一枚作り。淡褐色。砂粒・角礫少量含む。焼成良好。文字部分深版38-4。
ED06	36-2 21-2	SI316 カマド内	(16.1) (21.5) 38.1	3.0	粘土 横紐	16×10	側・端縁面取り。	調目 L10	幅3.8cmの調目叩き。広・側端縁ナデ。	狭・広端面ナデ。	一枚作り。灰褐色。砂粒少量含む。白色針状物質含む。緻密。焼成良好。南比企窯。
ED07	37-1 22-1	SI316 カマド内	(15.3) — (17.6)	2.4	粘土 横紐	17×22	広・側端縁面取り。	斜格子	押型「花」（花原郡）。	広・狭・側端面ヘラケズリ。	一枚作り。淡褐色。砂粒・角礫少量含む。焼成良好。文字部分深版38-5。



出土遺物一覧表

188次調査 女瓦一覽											
遺物番号	図面図版	出土位置	狭楕広楕全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
					素材	凹面		凸面		横面	
						布目	特徴	叩き	特徴		
KD08	32-3 17-3	S1314 覆土	— (16.5)	2.9	粘土板	15×24	広・狭・側端縁へラケズリ。	正格子	幅 8.7×7.3cm の正格子明き。	側端面へラケズリ。	灰褐色。砂粒・石英・白色針状物質含む。南比企産。
KD09	32-4 17-4	S1314 覆土	(9.6) (10.5) (17.6)	2.7	—	16×17	側端縁へラケズリ。	斜格子	押型「窪」(窪原部)。	側端面へラケズリ。	灰褐色。砂粒多く含む。粗い。焼成良好。文字部分図版 38-6。

188次調査 縄文時代土器一覽							
遺物番号	図面図版	種別器種	出土位置	口徑器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
JE01	37-5 22-5	深鉢	遺構外	— —	深鉢のみみずく形把手。	透かしを入れ、左半部には割目を入れる。	黄褐色。焼成は不良。胎土は粗く砂粒を多く含む。口縁部 1/4 残存。勝坂期。残存高 8.0 cm。
JE02	37-6 22-6	深鉢	遺構外	— (7.4)	平状口縁に透かし孔のある突起を付す。	全体に丁寧なミガキ。	黒灰色。焼成は良好。胎土は緻密。勝坂期。
JE03	37-7 22-7	深鉢	遺構外	— (4.4)	口縁がやや膨らむ。頸部が著しく括れる。	陸帯を格子状に貼り付ける。	黄褐色。焼成はやや良好。胎土は 2～3mm 大の小石を少量含む。口縁部 1/4 残存。勝坂中期。
JE04	37-8 22-8	深鉢	遺構外	— (4.0)	欠損部が多く全容は不明。	R の捺文を地文とし、横位の沈線と波状の沈線を廻らす。	暗褐色。焼成は良好。白色砂粒を多く含む。胴部片。勝坂期。

188次調査 石器一覽										
遺物番号	図面図版	種別形態	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
AG01	37-2 22-2	打製石斧	S1317J 覆土	(11.1)	5.3	2.3	167.5	基部欠損	緑泥片岩	刃部先端に磨滅痕あり。
AG02	37-3 22-3	打製石斧	S1317J 覆土	(9.0)	4.3	2.5	106.8	刃部欠損	砂岩	短冊形。
AL01	37-4 22-4	磨石	S1317J 床面下	8.9	7.2	4.6	390	完形	花崗岩	側面に敲打痕。

198次調査 歴史時代土器一覽							
遺物番号	図面図版	種別器種	出土位置	口徑器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PH01	38-1 23-1	土師器 杯	S1322 覆土	(11.1) (4.0)	口縁部直下に沈線状の窪みが深る。体部はほぼ直線気味に立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。体部外面不定方向のへラケズリ。内面へラミガキ一色処理。	口縁部 1/8。茶褐色。砂粒少量含む。焼成良好。
PK01	38-2 23-2	土師質土器 高台付埴	S1322 覆土	— (3.5) (7.8)	全体的に薄い器内で、足高の高台がつく。	ロクロ調整。底部回転ナデ→高台貼付。	底部 1/2。茶褐色。砂粒・雲母少量含む。焼成良好。
PL01	38-3 23-3	土師質土器 杯	S1322 カマド 焼土内	— (1.9) 5.6	やや肉厚の底部を有する。	ロクロ調整。底部回転糸切後、無調整。	底部片。淡褐色。砂粒・雲母少量含む。焼成良好。
PL02	38-4 23-4	土師質土器 杯	S1322 カマド内	(12.6) (4.7)	やや肉厚の器内で、湾曲気味に立ち上がる。	ロクロ調整。	口縁部～体部 1/8。淡褐色。きめの細かい胎土で、緻密。焼成良好。

出土遺物一覧表

198 次調査 歴史時代土器一覽							
遺物番号	図面図版	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PL03	38-5 23-5	土師質土器 杯	SI322 覆土	— (1.4) (5.0)	見込み中央部がやや盛り上がる。	口ロ調整。底部外面回転未切後、無調整。	底部1/2。橙褐色。砂粒・雲母多く、粗い。焼成良好。
PL04	38-6 23-6	土師質土器 埴	SI322 覆土	((14.8)) (4.3) —	やや肉厚の器内で、滑気味に立ち上がる	口ロ調整。	口縁部～体部1/3。淡褐色。きめの細かい胎土で緻密。内面煤付着。
PL05	38-7 23-7	土師質土器 高台付埴	SI322 覆土	18.0 9.7 22.0	肉厚な器内で、口縁部～体部はやや滑気味に立ち上がる。高台は高く、直線状を呈する。	口ロ調整。底部外面回転未切後、無調整。	口縁部～高台部1/4。橙褐色。砂粒少量含む。焼成良好。高台高3.0cm。

198 次調査 女瓦一覽											
遺物番号	図面図版	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴				備考		
					素材	凹面		凸面		端面 特徴	
布目	特徴	叩き	特徴								
KD01	38-8 23-8	SI322 カマド内	(13.6) — (25.5)	2.3	粘土板	24×24	不明ヘラ書あり。	網目 L9	—	狭・側端面ヘラケズリ。	灰白色。砂粒・石英少量含む緻密。硬質。焼成良好。文字部分図版 39-10。
KD02	38-9 23-9	SI322 カマド内	— (8.4) (15.9)	2.0	粘土 横紐	16×19	無調整	網目 L9	側・端縁ナデ。	狭・側端面ナデ。	一枚作り。灰褐色。砂粒・石英含む。粗い。焼成良好。
KD03	38-10 23-10	SI322 覆土	(12.5) (14.1) (8.7)	2.6	粘土板	—	狭・側端縁面取り。	斜格子	押型「在原」(在原郡)。	狭・側端面ヘラケズリ。	一枚作り。灰褐色。砂粒・角礫含む。緻密。硬質。焼成良好。文字部分図版 39-11。

198 次調査 埴一覽								
遺物番号	図面図版	出土位置	長さ 短辺 厚み	素材	成・整形の特徴			備考
					上面	下面	側面	
KH01	38-11 23-11	SI322 覆土	(8.7) 17.2 5.8	粘土板	ヘラケズリ。	ヘラケズリ。	ヘラケズリ。	淡褐色。砂粒・石英少量含む。軟質。焼成良好。

198 次調査 石製品一覽							
遺物番号	図面図版	種別	出土位置	寸法			備考
GL01	38-12 23-12	砥石	SI322 覆土	最大長 (5.7)	最大幅 3.8	最大厚 3.8	流紋岩質凝灰岩。明茶褐色。天地左右4面ともに紙面あり。左右とも研ぎ減りが顕著。
GL02	38-13 23-13	砥石	SI322 覆土	最大長 (3.8)	最大幅 3.5	最大厚 1.4	流紋岩質凝灰岩。灰褐色。天地左右4面ともに紙面あり。天側に線状痕複数あり。

204 次調査 歴史時代土器一覽							
遺物番号	図面図版	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PN01	39-1 24-1	灰釉陶器 長頸壺	遺構外	— (2.2) (8.0)	逆三角形の高台を有する。	底部外面回転ヘラケズリ→高台貼付。見込みおよび胴部外面に淡緑色の蔦状輪付着。	底部1/4。灰褐色。砂粒含む。緻密。焼成良好。

出土遺物一覧表

204 次調査 宇瓦一覽														
遺物番号	図面図版	出土位置	上弦幅 下弦幅 弧深	厚さ	内区		外区				脇区		全長	備考
					厚さ	文様	上		下		幅	文様		
							厚さ	文様	厚さ	文様				
KB01	39-2 24-2	遺構外	(1.6) (1.0) —	—	4.1	KK	0.5	b	0.8	—	0.4	—	(15.7)	均整唐草文。平城宮系。曲線型。灰褐色。砂粒少量含む。女瓦部凹面へラケズリ、凸面格子目。
KB02	39-3 24-3	遺構外	(4.7) (3.0) —	—	3.2	KK	0.7	—	0.7	—	0.3	—	(9.0)	均整唐草文。技法A。段頸B1。赤褐色。砂粒少量含む。緻密。頸部面～女瓦部凸面へラケズリ、凹面布目。
KB03	39-4 24-4	遺構外	(4.7) (5.9) —	4.4	2.9	KK	0.4	—	1.2	—	0.4	—	(12.4)	均整唐草文。技法A。曲線型。灰褐色。砂粒少量含む。緻密。頸部面～女瓦部凸面へラケズリ、凹面布目。
KB04	39-5 24-5	遺構外	(6.0) (6.6) —	5.0	—	J	—	—	—	—	—	—	(13.5)	調目文。曲線型。灰褐色。砂粒含む。粗い。頸部面～女瓦部凸面調目、凹面布目。
KB05	39-6 24-6	遺構外	(4.9) (9.4) —	—	3.6	HK	1.1	a	0.5	a	0.2	a	(8.6)	偏行唐草文。八坂前V型。技法D。曲線型。灰褐色。砂粒・石英含む。女瓦部凹面布目、凸面調目。
KB06	39-7 24-7	遺構外	(3.8) (6.2) —	5.0	—	—	—	—	—	—	0.2	—	(6.7)	偏行唐草文。曲線型。灰褐色。砂粒・白色針状物質含む。やや硬質。頸部面横ナデ。

204 次調査 女瓦一覽												
遺物番号	図面図版	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	素材	成・整形の特徴					備考	
						凹面		凸面		端面		
						布目	特徴	叩き	特徴			特徴
KB01	40-1 25-1	遺構外	— (11.0)	1.9	粘土板	12×12	へラ書「口部木口」あり。	調目L9	—	—	茶褐色。砂粒少量含む。軟質。焼成良好。文字部分図版38-7。	
KB02	40-2 25-2	遺構外	— (16.3)	2.0	粘土板	16×14	不明へラ書あり。広・側端縁面取り。	調目L6	側端縁面取り。	広・側端面へラケズリ。	灰白色。砂粒・楳スコリア少量含む。軟質。焼成良好。文字部分図版38-8。	
KB03	40-3 25-3	遺構外	— (10.7) (19.6)	2.7	粘土 横紐	26×23	広・側端縁面取り。	斜平行	—	広・側端面へラケズリ。	一枚作り。灰褐色。砂粒・角礫含む。やや粗い。焼成良好。	
KB04	40-4 25-4	遺構外	— (16.0)	3.3	粘土 横紐	—	広端縁幅広いへラケズリ。	斜格子	幅4.5cmの斜格子叩き。	広・側端面へラケズリ。	一枚作り。淡褐色。砂粒・石英・楳スコリア含む。粗い。焼成良好。	
KB05	40-5 25-5	遺構外	— (12.2)	1.8	—	17×17	へラ書「家(人間郡大家郷か)」あり。	調目L7	—	—	灰褐色。砂粒含むが緻密。焼成良好。文字部分図版38-9。	
KB06	40-6 25-6	遺構外	— (15.1) (15.3)	2.5	—	21×30	へラ書「菟草郷若口」あり。側端縁面取り。	調目L9	—	広・側端面へラケズリ。	一枚作り。赤褐色。砂粒少量含む。やや粗い。焼成良好。二次焼成痕あり。文字部分図版38-10。	

204 次調査 埴一覽												
遺物番号	図面図版	出土位置	長辺 短辺 厚み	素材	成・整形の特徴			備考				
					上面	下面	側面					
KB01	41-1 26-1	遺構外	(19.8) 17.7 7.0	粘土板	へラケズリ。	へラケズリ。	へラケズリ。	淡茶褐色。砂粒・白色針状物質含む。軟質。南北企業。				
KB02	41-2 26-2	遺構外	(17.0) (13.5) 6.0	粘土板	へラケズリ	へラケズリ	へラケズリ	赤褐色。砂粒・石英・白色針状物質含む。軟質。南北企業。				

出土遺物一覧表

204 次調査 石器一覧										
遺物番号	図面図版	種別形態	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
AL01	41-3 26-3	磨石	遺構外	(11.1)	(7.6)	2.9	395.0	1/4	砂岩	両面に磨面あり。

216 次調査 歴史時代土器一覧									
遺物番号	図面図版	種別	出土位置	口徑 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考		
PH01	49-1 34-1	土師器 甕	S1333 床面直上	(12.0) (4.8) —	やや肉厚の口縁部で、崩れたコの字状を呈する。	口縁部内外面ナデ。頸部外面ナデ→指頭圧痕。胴部外面ヨコヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	口縁部1/2。赤褐色。砂粒・雲母少量含む。焼成良好。武蔵型。		
PH02	49-9 34-9	土師器 甕	S1334 床面直上	(11.8) (6.3) —	口縁部はコの字状を呈し、頸部の肉厚は厚い。	口縁部内外面ナデ。頸部ヘラケズリ→ナデ。胴部外面ヨコヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	口縁部1/12。赤褐色。砂粒少量含む。焼成良好。外面煤付着。武蔵型。		
PH03	49-10 34-10	土師器 甕	S1334 床面 焼土内	(18.7) (5.6) —	口縁部はコの字状を呈する。	口縁部内外面ナデ。頸部ナデ→指頭圧痕。胴部外面ヨコヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ→指頭圧痕。	口縁部1/4。赤褐色。砂粒・石英少量含む。焼成良好。武蔵型。		
PH04	49-11 34-11	土師器 甕	S1334 床面直上	— (8.3) 3.8	小さな底部から緩やかに立ち上がる。	外面磨耗。胴部下斜め方向のヘラケズリ。内面不定方向ヘラナデ。	胴部下部～底部。茶褐色。砂粒・石英含む。粗い。焼成良好。武蔵型。		
PH05	42-1 27-1	土師器 甕	S1331 覆土	(25.3) (5.0) —	口縁部は緩く「く」の字状に外反する。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコヘラケズリ。	口縁部片。赤褐色。砂粒・雲母含む。粗い。焼成良好。武蔵型。		
PH06	42-2 27-2	土師器 坏	S1331 覆土	(11.1) 5.0 (7.3)	薄手の器内で、体部は内湾気味、口縁部は直立して立ち上がる。	口縁部～体部外面ヨコナデ→ヨコヘラミガキ。内面・見込みヨコナデ→放射状暗文。底部外面ヘラケズリ→ヘラミガキ。	口縁部～底部2/3。淡褐色。底部外面に墨書(判読不明)。甲斐型坏。甲斐VI期(8世紀第IV西半期)。文字部分図版39-1。		
PK01	49-2 34-2	須恵器 坏	S1333 覆土	(12.0) 3.8 5.0	体部下半は湾曲気味に立ち上がる。	口コ調整。底部外面回転糸切→無調整。	口縁部～底部の一部欠損。灰白色。砂粒少量含む。焼成良好。体部外面墨書(判読不明)。南多摩窯G25号型式。文字部分図版39-2。		
PK02	49-12 34-12	須恵器 坏	S1334 覆土	(15.2) 5.7 (6.2)	体部はやや丸みを帯び、口縁部は外反する。	口コ調整。底部外面回転糸切→無調整。	口縁部～底部1/3。灰褐色。砂粒・石英少量含む。内面見込み周囲に煤付着。東金子窯。		
PK03	49-13 34-13	須恵器 坏	S1334内 P-1 覆土	(12.8) 4.0 5.7	体部はやや直線気味、口縁部は外反。底部中央の器内が極度に薄い。	口コ調整。底部外面回転糸切→無調整。	口縁部～底部2/3。暗灰色。砂粒・石英多く含む。粗い。焼成良好。東金子窯。		
PK04	49-3 34-3	須恵器 坏	S1333 覆土	(15.0) (4.8) —	体部は丸みを帯び、口縁部は外反する。	口コ調整。	口縁部1/3。灰白色。砂粒含む。緻密で軟質。焼成良好。南多摩窯。		
PK05	50-4 35-4	須恵器 長頸壺	S1334 覆土	— (15.5) 9.2	胴部はやや直線気味に立ち上がり、肩部の裏りは弱い。	回転ナデ。胴部下回転ヘラケズリ。底部回転ナデ→高台貼付。	口縁～頸部欠損。灰褐色。砂粒多く含むが緻密。底部に濃緑色の降沢煤付着。東金子窯。		
PK06	49-14 34-14	須恵器 甕	S1334 床面直上	(32.0) (11.1) —	口縁部は直線状に外上方へ立ち上がる。	回転ナデ→口縁部下半回転ヘラケズリ。	口縁部片。赤褐色。砂粒・石英含む。緻密。		
PK07	42-3 27-3	須恵器 坏	S1331 覆土	12.7 3.5 —	内底部周囲に沈殿が認められる。底部外周の器内は厚い。体部は直線状に外上方へ立ち上がる。	底部外面回転糸切→外周回転ヘラケズリ。	口縁部～底部1/2。灰褐色。砂粒・白色針状物質含む。底部外面に「王」墨書。南比企窯IV期(8世紀第IV西半期)。文字部分図版39-3。		
PK08	42-4 27-4	須恵器 坏	S1331 覆土	11.7 3.4 7.9	肉厚で直線気味に立ち上がる。	底部外面回転糸切→無調整。	口縁部～底部。青灰色。砂粒少量含む。緻密。焼成良好。東金子窯。八坂前4(9世紀第II西半期)。		

出土物一覧表

216次調査 歴史時代土器一覽							
遺物番号	図面図版	種別器種	出土位置	口径器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
PK09	42-5 27-5	須恵器 坏	SI331 覆土	12.8 3.7 8.0	底部中央の器内厚い。体部下半はやや丸みを帯びて立ち上がる。	ロクロ調整。底部静止糸切→外周回転ヘラズリ。	口縁部～底部。茶褐色。砂粒・白色針状物質を含む。粗い。焼成良好。南比企窯田期。
PK10	42-6 27-6	須恵器 坏	SI331 覆土	12.4 3.5 6.6	口縁部直線状に外上方へ立ち上がる。	ロクロ調整。底部外面回転糸切→無調整。ヘラ書きあり。	口縁部～底部1/4欠損。明灰色。砂粒・白色針状物質含む。粗い。焼成良好。南比企窯田期(9世紀中葉)。
PK11	42-7 27-7	須恵器 坏	SI331 覆土	((13.1)) 3.2 8.0	口縁部は直線状に外上方へ立ち上がる。	ロクロ調整。底部外面回転ヘラズリ→ヘラ書き。	1/4欠損。青灰色(下部は茶褐色)。精良な胎土で緻密。焼成良好。東金子窯(前内出1号窯)。
PK12	42-8 27-8	須恵器 坏	SI331 覆土	((12.8)) 3.7 6.1	胴部から口縁部にかけて直線状に立ち上がる。	ロクロ調整。底部外面全面回転ヘラズリ。	口縁部～底部。明灰色。砂粒・白色針状物質含む。焼成良好。南比企窯田期後半(8世紀第Ⅲ四半期)。
PK13	42-9 27-9	須恵器 蓋	SI331 焼土内	— (2.0)	擬定球状の縮み。	体部内外面回転ナデ。体部上半→天井部回転ヘラズリ→擦み貼付。	天井部。青灰色。砂粒少量含む。緻密。焼成良好。東金子窯。
PK14	42-10 27-10	須恵器 蓋	SI331 覆土	((15.8)) (2.6) —	—	体部内外面回転ナデ。	体部1/4。青灰色。砂粒・白色針状物質少量含む。南比企窯。
PL01	42-11 27-11	須恵器 坏	SI331 覆土	((12.9)) 3.6 5.2	体部下半は湾曲気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ調整。底部外面回転糸切→無調整。	口縁部～底部。橙褐色。砂粒多く。粗い。焼成普通。口縁の一部に煤付着。南多摩窯G25号窯式。
PL02	50-1 35-1	須恵器 高台付埴	SI334 覆土	— (5.2) 6.8	腰部は丸味を有し、高台はややつぶれ気味。	ロクロ調整。底部外面回転糸切→無調整→高台貼付。	底部～体部状半3/4。淡褐色。砂粒・雲母・石英多く含む。焼成良好。体部外面無釉。
PL03	50-3 35-3	土師質土器 坏	SI334 覆土	— (2.5) 5.8	体部は直線状に外上方へ立ち上がる。	ロクロ調整。底部外面回転糸切→無調整。	底部片。茶褐色。緻密だが軟質。焼成良好。
PL04	49-4 34-4	須恵器 坏	SI333 覆土	— (2.8) (5.4)	底部中央はやや盛り上がり、腰部の立ち上がりは丸味を帯びる。	ロクロ調整。底部外面回転糸切→無調整。	底部～体部2/3。淡褐色。砂粒・雲母微量含む。焼成良好。
PL05	50-2 35-2	土師質土器 坏	SI334 覆土	— (1.1) (6.0)	—	ロクロ調整。底部外面回転糸切→無調整。	底部1/2。茶褐色。砂粒少量含む。緻密。焼成良好。
PS02	49-5 34-5	灰釉陶器 皿	SI333 覆土	— (2.3) (9.0)	やや傾れた三日月高台。	ロクロ調整。体部内外面にハケ塗り。見込は無釉。	底部片。表地灰白色。砂粒少量含む。焼成良好。黒質90号窯式。

216次調査 鏡瓦一覽															
遺物番号	図面図版	出土位置	直径	内区				外区			全長	備考			
				中房径 形態	蓮子数	弁区径 弁幅	弁数 形態	幅	内縁				外縁		
									幅	文様			幅	高	文様
KA01	50-5 35-5	SI334 覆土	19.3	5.5	1+4	14.0 .3.8	6	上2.3 下3.0	0.75	—	上1.65 下2.25	1.1	—	40.5	素弁七葉。瓦当面裏面に罫目。青灰色。砂粒少量。八坂前Ⅲ-1型。

出土遺物一覧表

216次調査 宇瓦一覧														
遺物番号	図面図版	出土位置	上弦弧幅 下弦弧幅 弧長	厚さ	内区		外区				脇区		全長	備考
					厚さ	文様	上		下		幅	文様		
							厚さ	文様	厚さ	文様				
KB01	43-1 28-1	S1331 覆土	(2.8) (5.5) —	5.5	—	HK	1.1	a	—	—	—	—	6.0	偏行唐草文。段縁。砂粒・白色針状物質含む。南比金窯。
KB02	43-2 28-2	S1331 覆土	(10.1) — —	2.9	2.0	HK	0.9	a	—	—	—	—	(8.3)	偏行唐草文。技法D。段縁。砂粒含む緻密。白色針状物質含む。南比金窯。

216次調査 男瓦一覧														
遺物番号	図面図版	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考			
					素材	凹面		凸面		端面				
						布目	特徴	叩き	特徴	特徴		特徴		
KC01	43-3 28-3	S1331 覆土	(5.0) (14.5) 3.8	1.8	粘土 横紋	24×24	広・側端縁面 取り。	—	ナデ。	—	—	—	—	赤褐色。砂粒・白色針状物質含む。南比金窯。
KC02	43-4 28-4	S1331 覆土	(1.1) — (29.4)	1.9	—	26×21	側端縁ヘラケ ズリ。	—	ナデ。	—	—	—	—	有段桶巻作り。灰褐色。砂粒・石英含む。
KC03	44-1 29-1	S1331 覆土	(4.9) — 20.2	2.0	—	20×20	側端縁ヘラケ ズリ。	—	ヘラケズリ。	—	—	—	—	有段桶巻作り。赤褐色。砂粒・石英含む。
KC04	44-2 29-2	S1331 覆土	(6.8) — (12.5)	1.2	—	14×13	側端縁ヘラケ ズリ。	—	ヘラケズリ。	—	—	—	—	有段桶巻作り。赤褐色。砂粒・石英含む。

216次調査 女瓦一覧														
遺物番号	図面図版	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考			
					素材	凹面		凸面		端面				
						布目	特徴	叩き	特徴	特徴		特徴		
KD01	44-3 29-3	S1331 覆土	25.4 (13.2) 39.2	2.0	粘土板	22×21	側端縁目面取 り。	調目 L11	調目叩き一一部 ナデ。	—	—	—	—	一枚作り。灰褐色。砂粒少量含む。硬質。焼成良好。
KD02	45-1 30-1	S1332 覆土	25.6 (26.1) 35.7	2.4	粘土板	26×21	狭・側端縁面 取り。	調目 L11	—	—	—	—	—	一枚作り。灰褐色。砂粒少量含む。硬質。焼成良好。
KD03	45-2 30-2	S1331 覆土	(20.0) (11.0) 36.1	2.2	粘土板	31×27	側端縁面取 り。	調目 L8	—	—	—	—	—	一枚作り。灰褐色。砂粒少量含む。軟質。焼成良好。脱落し。
KD04	46-1 31-1	S1331 床面直上	(14.6) 28.1 36.2	2.2	粘土板	30×28	狭・側端縁面 取り。	調目 L10	幅4cm(L14)。	—	—	—	—	淡褐色。砂粒少量含む。軟質。焼成良好。
KD05	46-2 31-2	S1331 床面直上	(3.4) — (19.3)	1.4	粘土板	21×18	側端縁面取 り。工具圧痕 あり。	調目 L9 長格子	調目叩き一押型 「大」(埼玉郡大 田郷)。印幅7.3 cm。	—	—	—	—	青灰色。硬質。白色針状物質含む。南比金窯。文字部分図版39-4。
KD06	46-3 31-3	S1331 床面直上	(—) (18.5) (11.9)	1.8	粘土板	19×19	側・端縁面取 り。	調目 L9 長格子	調目叩き一押型 「大」(埼玉郡大 田郷)。印幅7.3 cm。	—	—	—	—	青灰色。硬質。白色針状物質含む。南比金窯。文字部分図版39-5。
KD07	47-1 32-1	S1331 床面直上	(5.3) — (18.1)	1.4	—	19×21	側端縁面取 り。	調目 L11 長格子	調目叩き一押型 「大」(埼玉郡大 田郷)。	—	—	—	—	青灰色。硬質。白色針状物質含む。南比金窯。文字部分図版39-6。
KD08	47-2 32-2	S1331 床面直上	(—) (10.4)	1.7	—	18×22	側端縁ナデ。	正格子	押型「父」(秩父 郡)。	—	—	—	—	淡褐色。砂粒少量含む。軟質。白色針状物質含む。南比金窯。文字部分図版39-12。

出土遺物一覧表

216 次調査 女瓦一覽												
遺物番号	図面図版	出土位置	狭幅 広幅 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考	
					素材	凹面		凸面		端面		
						布目	特徴	叩き	特徴	特徴		特徴
KD09	47-3 32-3	S1331 覆土	— — (2.9)	1.9	—	21×21	横脊文字「多」 (多磨郡)あり。	正格子	—	—	暗灰色。砂粒多く含む。焼成良好。文字部分図版 39-7。	
KD10	47-4 32-4	S1331 覆土	(17.2) — (27.5)	1.9	粘土板	—	狭・側端縁面取り。	—	—	—	一枚作り。灰褐色。砂粒・白色針状物質含む。南比企業。焼成良好。	
KD11	47-5 32-5	S1331 覆土	(10.8) — (9.0)	2.3	—	—	狭端縁面取り。	正格子	—	—	灰褐色。砂粒・角礫・白色針状物質含む。硬質。南比企業。	
KD12	47-6 32-6	S1331 覆土	(11.1) — (12.0)	1.5	粘土板	—	布目痕なし。	正格子	幅 6.0cm の正格子叩き。	狭端面ナゲ・ヘラ。	灰白色。砂粒・雲母少量含む。硬質。焼成良好。	
KD13	47-7 32-7	S1331 覆土	(18.0) — (14.0)	2.2	—	—	端縁面取り。	長格子	ナゲ → 1.5 × 1.5cm の目の粗い長格子叩き。	端面ナゲ。	一枚作り。白灰色。きめの細かい粘土で軟質。焼成良好。	
KD14	49-6 34-6	S1333 覆土	(10.0) — (10.3)	2.0	粘土板	—	側・端縁面取り。	平行	幅 2.5cm (7条) の平行叩き。	側・端面ヘラケズリ。	明灰色。砂粒・白色針状物質含む。南比企業。	
KD15	47-8 32-8	S1331 覆土	(10.4) — (11.8)	2.7	粘土板	—	端縁面取り。	正格子	ナゲ → 正格子叩き。	端面ヘラケズリ。	灰白色。やや軟質。焼成良好。	
KD16	47-9 32-9	S1331 覆土	(13.6) — (1.5)	1.8	—	—	端縁面取り。	正格子	ナゲ → 正格子叩き。	端面ヘラケズリ。	灰褐色。砂粒・石英・白色針状物質含む。南比企業。	
KD17	47-10 32-10	S1331 覆土	(8.8) — (7.1)	1.8	—	—	—	長格子	—	端面ヘラケズリ。	灰褐色。砂粒・石英を含む。焼成良好。	
KD18	48-1 33-1	S1331 覆土	(11.5) — (8.4)	2.1	粘土板	—	不明指書あり。	正格子	—	側端面ヘラケズリ。	灰褐色。砂粒・白色針状物質含む。南比企業。文字部分図版 39-8。	
KD19	48-2 33-2	S1331 覆土	(19.8) — (7.5)	2.0	—	—	側端縁面取り。	正格子	—	端面ヘラケズリ。	灰白色。砂粒少量含む。軟質。焼成良好。	
KD20	48-3 33-3	S1331 覆土	(9.4) — (8.2)	2.4	—	—	端縁面取り。	正格子	—	端面ヘラケズリ。	一枚作り。灰褐色。砂粒少量含む。緻密で硬質。	
KD21	48-4 33-4	S1331 覆土	(9.8) — (8.8)	2.2	粘土板	—	端縁面取り。	斜格子	ナゲ → 斜格子叩き。	端面ヘラケズリ。	一枚作り。暗灰色。砂粒含む。硬質。	
KD22	48-5 33-5	S1331 覆土	(11.2) — (8.4)	1.8	粘土板	—	—	格子	—	端面ヘラケズリ。	一枚作り。暗灰色。砂粒少量含む。軟質。白色針状物質含む。南比企業。	
KD23	48-6 33-6	S1331 覆土	(13.8) — (9.8)	2.9	粘土板	—	—	格子	—	—	一枚作り。淡褐色。砂粒・スコリア含む。軟質。	
KD24	48-7 33-7	S1331 覆土	(9.9) — (14.8)	2.4	粘土板	—	ヘラケズリ。	斜格子	—	—	赤褐色。砂粒多く、粗い。	
KD25	48-9 33-9	S1331 覆土	(12.0) — (13.1)	2.0	—	—	ナゲ。	斜格子	—	—	灰褐色。砂粒多く、粗い。焼成良好。	
KD26	48-8 33-8	S1331 覆土	(11.5) — (4.2)	1.4	—	—	—	斜格子	ナゲ → 斜格子叩き。	—	暗灰色。砂粒多く、軟質。白色針状物質含む。南比企業。焼成良好。	

## 216 次調査 土製品一覧

遺物番号	図面図版	種別	出土位置	寸法	備考
TH01	50-6 35-6	土鉢	SI334 覆土	最大長 4.3 最大幅 2.0 最大厚 2.2	完形。灰白色。胎土は緻密。
TH02	49-7 34-7	土鉢	SI333 床面直上	最大長 4.6 最大幅 2.3 最大厚 2.4	完形。灰白色。胎土は緻密。
TK01	49-8 34-8	羽口	SI333 覆土	最大長 (4.0) 最大幅 (3.2) 最大厚 (2.1)	端部片。淡褐色。胎土は砂粒含み、粗い。

## 216 次調査 鉄製品一覧

遺物番号	図面図版	種別	出土位置	寸法	備考
M001	48-10 33-10	釘	SI331 覆土	最大長 (12.0) 最大幅 0.9 最大厚 0.7	頭幅 0.7cm、断面方形。
MZ01	48-11 33-11	不明鉄製品	SI331 覆土	最大長 (11.3) 最大幅 (6.7) 最大厚 (2.1)	板状製品

## 216 次調査 石製品一覧

遺物番号	図面図版	種別 形態	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存 状態	石材	備考
AL01	48-12 33-12	磨石	SI333 覆土	(16.2)	(14.4)	3.5	1275.0	1/3 残存	閃緑岩	両面に磨痕。側面に打ち欠き が認められる。

## 227 次調査 縄文時代土器一覧

遺物番号	図面図版	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
JE01	51-1 36-1	深鉢	遺構外	((14.4) (4.9) —	口唇部は平坦で、頭部が僅かに 括れる。	ヒダ状圧痕が顕著。	暗赤褐色。焼成はやや良好。 胎土は砂粒を多く含む。口縁 部 1/3 残存。磨痕期。
JE02	51-2 36-2	深鉢	遺構外	— (4.8) —	口唇部が僅かに外反する。頭部 に肩を有す。	口唇部に連続する圧痕。押し引き と波状の沈線を表出する。	黄褐色。焼成は良好。砂粒を 多く含む。扉内 1 式。
JE03	51-3 36-3	深鉢	遺構外	— (4.3) —	欠損部が多く、全容は不明。	刻目を幾何文状に施す。	暗褐色。焼成は良好。胎土は 砂粒を多く含む。口縁部片。 扉内 1 式。
JF01	51-4 36-4	深鉢	遺構外	— (5.5) —	欠損部が多く、全容は不明。	RL の縄文を施す。	暗褐色。焼成はやや良好。胎 土は砂粒を多く含む。胴部片。 加曾利 EA。



227 次調査 石製品一覧

遺物 番号	図面 図版	種別 形態	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存 状態	石材	備考
AG01	51-5 36-5	打製石斧	遺構外	(11.3)	4.4	2.3	118.5	基部 欠損	凝灰岩	左右ほぼ対象。
AG02	51-6 36-6	打製石斧	遺構外	12.9	4.5	1.7	94.3	完形	ホルン フェルス	片側に大きく湾曲する。
AL01	51-7 36-7	磨石	遺構外	15.7	5.2	2.9	375.0	完形	砂岩	棒状石器。

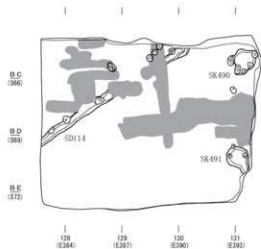


# 図 面

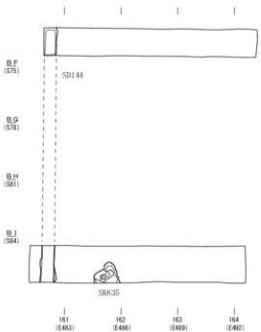
図面 1	第 100・113・132・138・142・146 次調査 遺構配置図	図面 26	第 156・161 次調査出土遺物
図面 2	第 148・151・153・156・157 次調査 遺構配置図	図面 27	第 167 次調査出土遺物 (1)
図面 3	第 161・167・169・177・179 次調査 遺構配置図	図面 28	第 167 次調査出土遺物 (2)
図面 4	第 181・183・188・192・196 次調査 遺構配置図	図面 29	第 167 次調査出土遺物 (3)
図面 5	第 197・198・199・203・204・209 次調査 遺構配置図	図面 30	第 167 次調査出土遺物 (4)
図面 6	第 212・214・215・216 次調査 遺構配置図	図面 31	第 181 次調査出土遺物
図面 7	第 224・225・227・228・229 次調査 遺構配置図	図面 32	第 188 次調査出土遺物 (1)
図面 8	第 233・234・236・240・243 次調査 遺構配置図	図面 33	第 188 次調査出土遺物 (2)
図面 9	第 100 次調査 SD114 溝・SK490・491 土坑 第 113 次調査 SD131 溝 第 132 次調査 SD131 溝実測図	図面 34	第 188 次調査出土遺物 (3)
図面 10	第 138 次調査 SD144 溝 SK635 土坑 第 142 次調査 S1285 竪穴住居 第 146 次調査 SK663 土坑 第 148 次調査 S1292 竪穴住居実測図	図面 35	第 188 次調査出土遺物 (4)
図面 11	第 151 次調査 SD152 溝 第 156 次調査 SD152 溝実測図	図面 36	第 188 次調査出土遺物 (5)
図面 12	第 157 次調査 S1298A 竪穴住居 SK705A・B 土坑実測図	図面 37	第 188 次調査出土遺物 (6)
図面 13	第 157 次調査 S1298B 竪穴住居実測図	図面 38	第 190 次調査出土遺物
図面 14	第 167 次調査 SD153・154・157・165・166 溝 SK736 土坑 第 177 次調査 SS26A・B 集石土坑実測図	図面 39	第 204 次調査出土遺物 (1)
図面 15	第 179 次調査 不明落ち込み 第 181 次調査 S1312J 竪穴住居 SK765J 土坑 第 183 次調査 SK722 土坑実測図	図面 40	第 204 次調査出土遺物 (2)
図面 16	第 188 次調査 S1314・315・316 竪穴住居実測図	図面 41	第 204 次調査出土遺物 (3)
図面 17	第 188 次調査 S1316 竪穴住居カマド S1245J・246J 竪穴住居実測図	図面 42	第 216 次調査出土遺物 (1)
図面 18	第 188 次調査 S1317J・318J 竪穴住居 第 192 次調査 SK795・796・799 実測図	図面 43	第 216 次調査出土遺物 (2)
図面 19	第 192 次調査 SB74 竪立柱建物 第 198 次調査 S1322A・B 竪穴住居実測図	図面 44	第 216 次調査出土遺物 (3)
図面 20	第 198 次調査 SK777 土坑 第 204 次調査 SB77 竪立柱建物 第 215 次調査 SD190 SK859 土坑 SS30 集石土坑実測図	図面 45	第 216 次調査出土遺物 (4)
図面 21	第 216 次調査 S1331 竪穴住居 SK861(S1331 構築土)SK866 土坑実測図	図面 46	第 216 次調査出土遺物 (5)
図面 22	第 216 次調査 SB84 竪立柱建物 S1333・334 竪穴住居 SD193 溝実測図	図面 47	第 216 次調査出土遺物 (6)
図面 23	第 224 次調査 SD195 溝 SK869・870・871 土坑 第 225 次調査 SK868 土坑 第 228 次調査 SK872 土坑実測図	図面 48	第 216 次調査出土遺物 (7)
図面 24	第 229 次調査 SD196 溝 第 233 次調査 SD198 溝実測図	図面 49	第 216 次調査出土遺物 (8)
図面 25	第 236 次調査 S1339・340 竪穴住居 第 243 次調査 SB88 竪立柱建物 SK875J 土坑実測図	図面 50	第 216 次調査出土遺物 (9)
		図面 51	第 227 次調査出土遺物



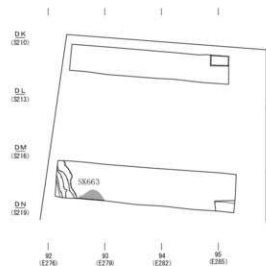
図面1 第100・113・132・138・142・146次調査 遺構配置図



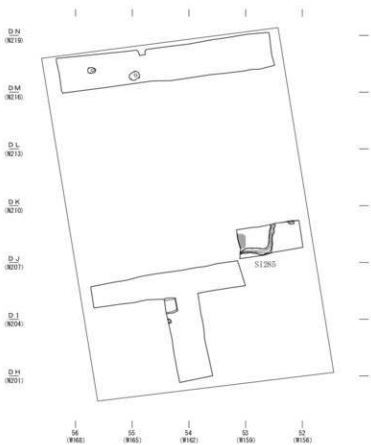
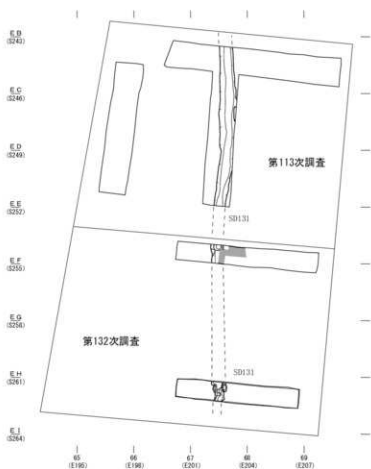
第100次調査



第138次調査



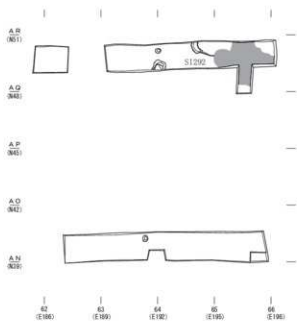
第146次調査



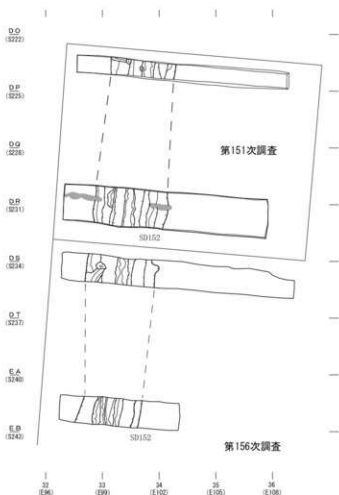
第142次調査



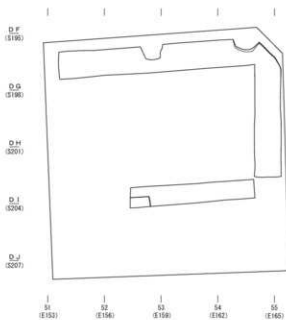
図面2 第148・151・153・156・157次調査 遺構配置図



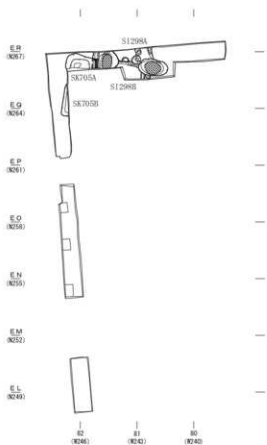
第148次調査



第156次調査



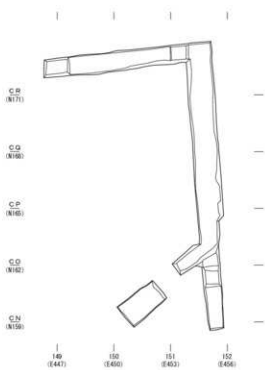
第153次調査



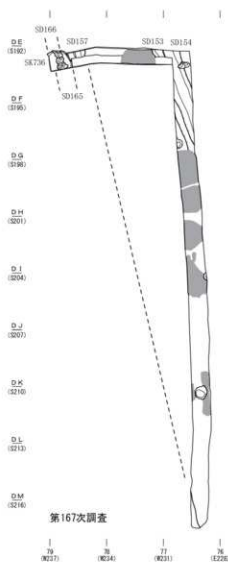
第157次調査



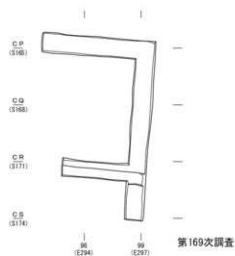
図面3 第161・167・169・177・179次調査 遺構配置図



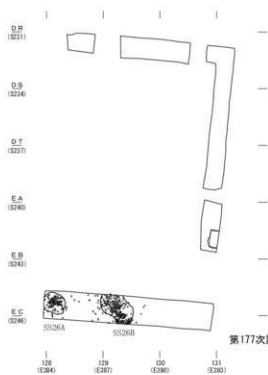
第161次調査



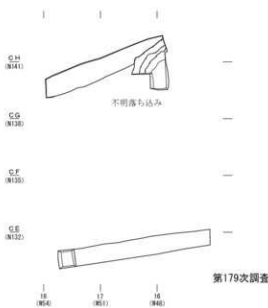
第167次調査



第169次調査



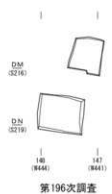
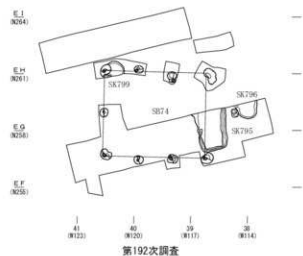
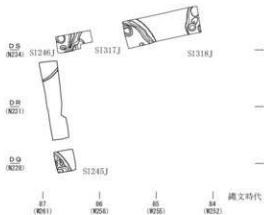
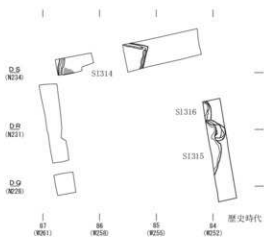
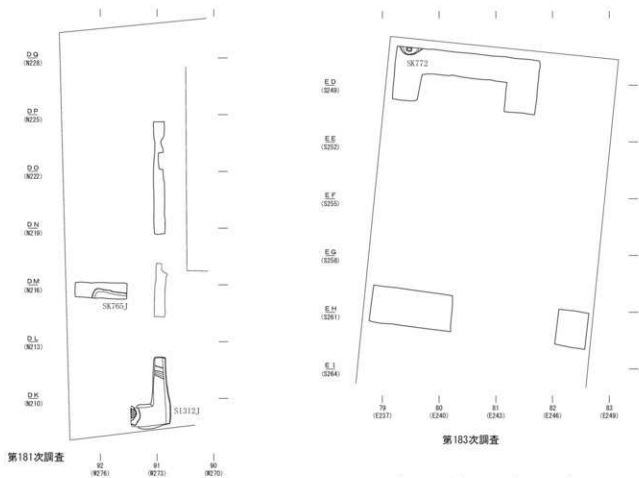
第177次調査



第179次調査

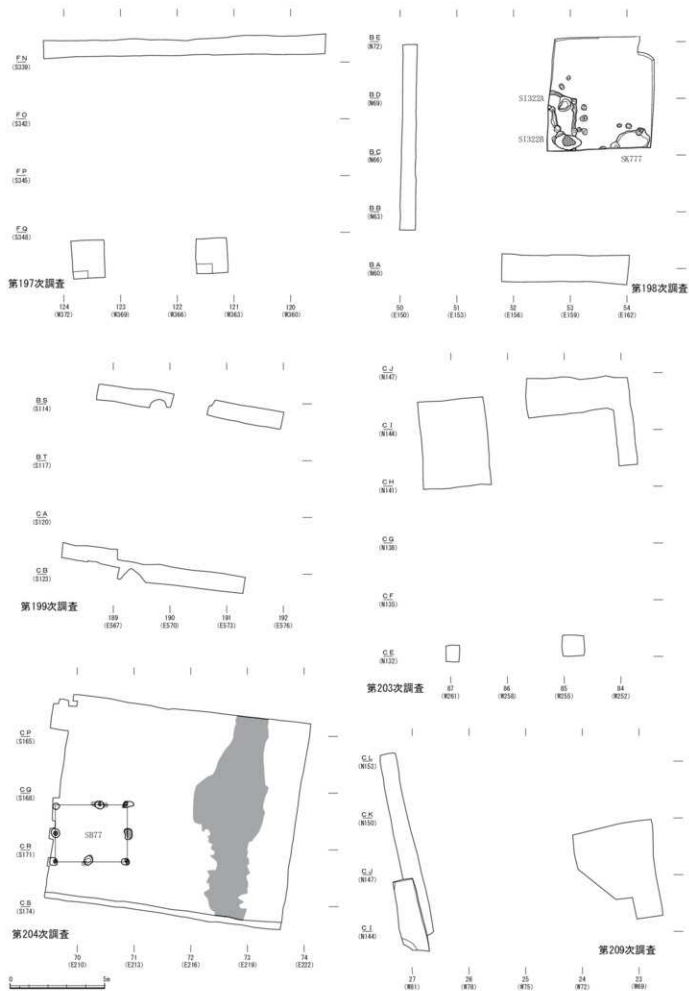


図面4 第181・183・188・192・196次調査 遺構配置図

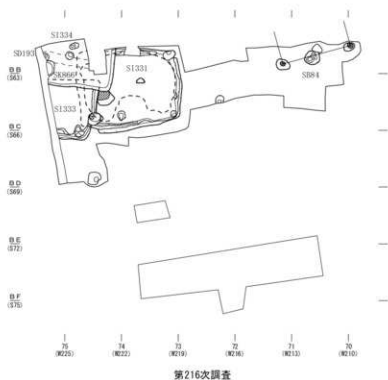
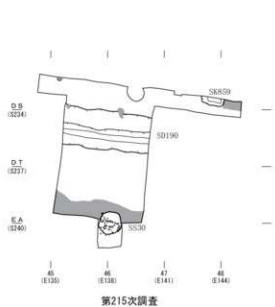
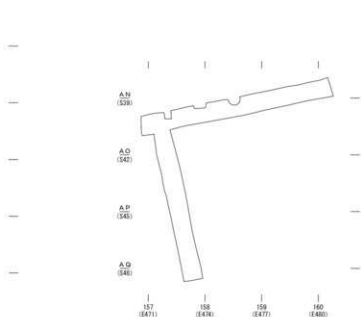
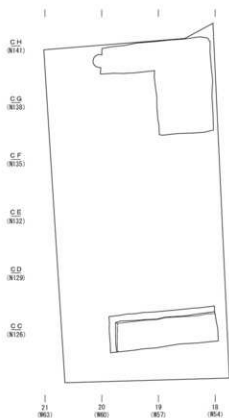




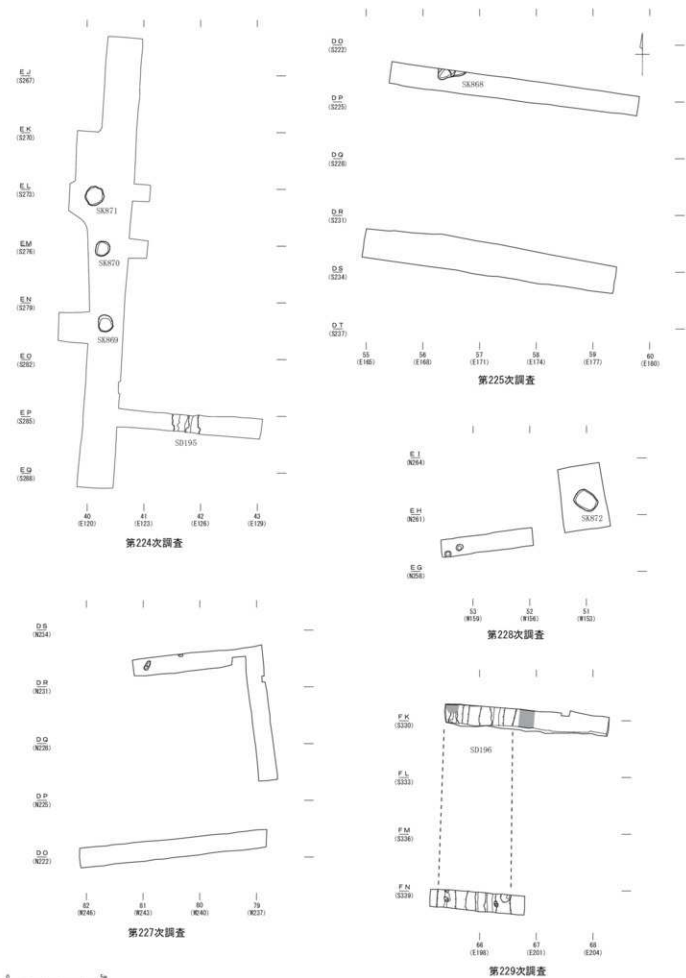
図面5 第197・198・199・203・204・209次調査 遺構配置図



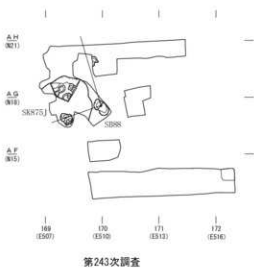
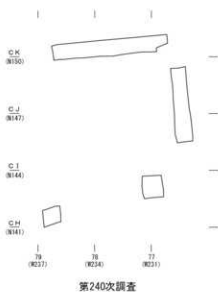
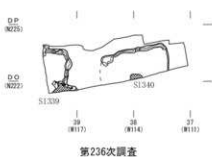
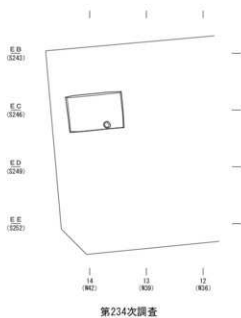
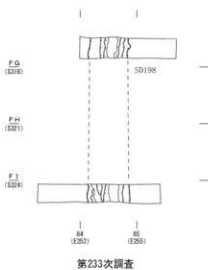
図面6 第212・214・215・216次調査 遺構配置図

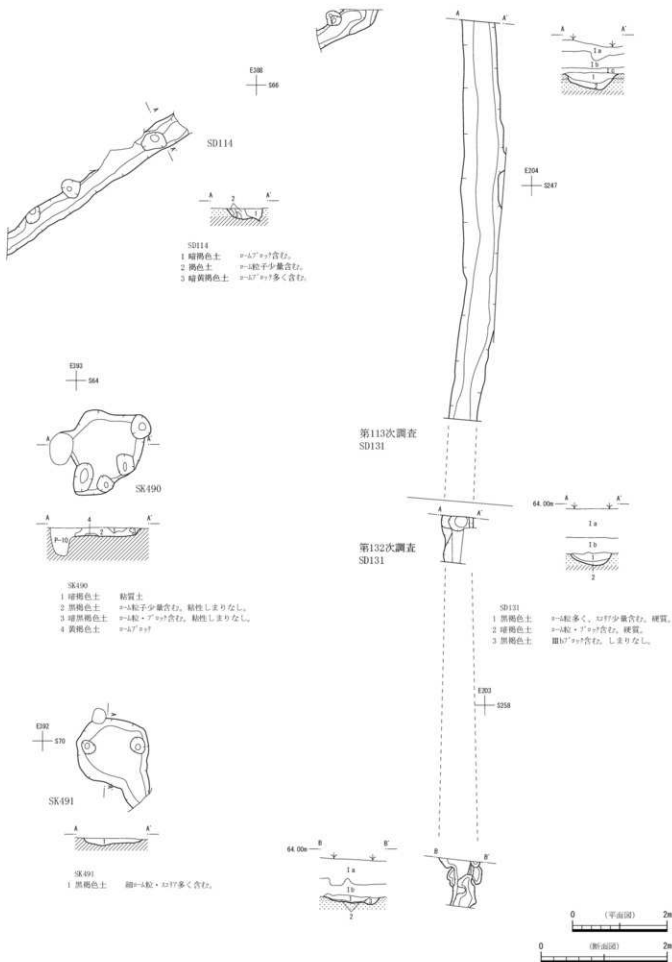


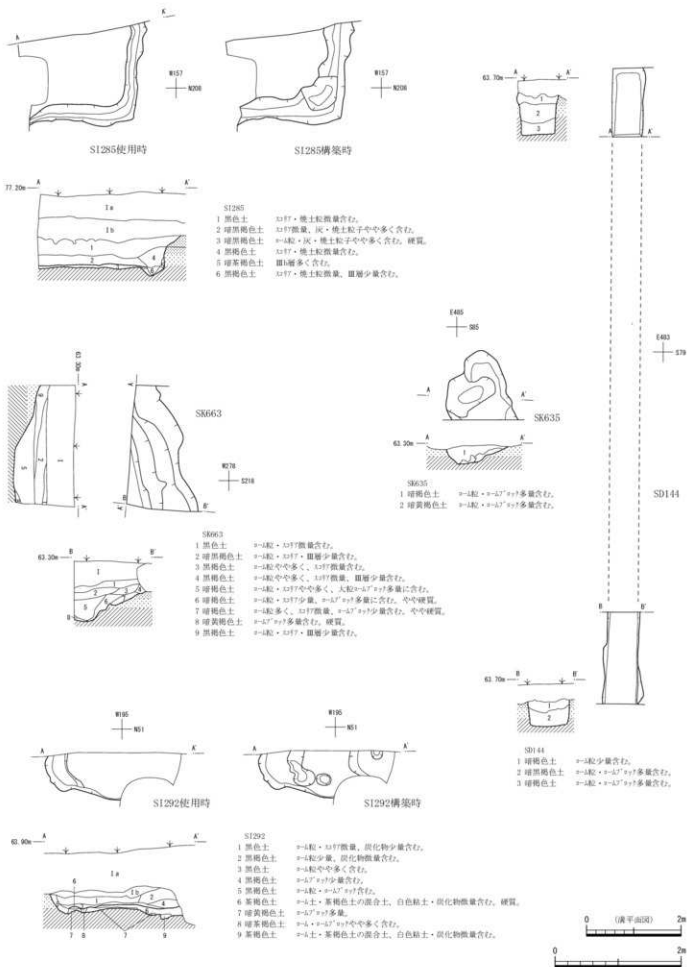
図面7 第224・225・227・228・229次調査 遺構配置図

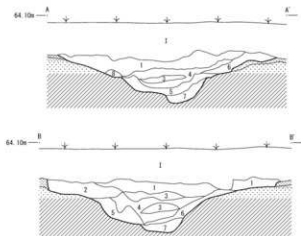
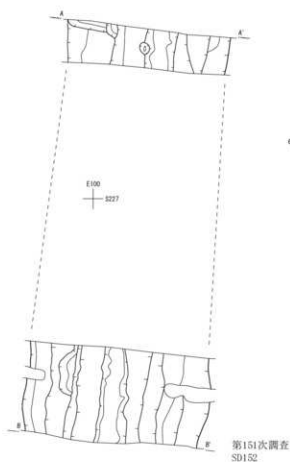


図面8 第233・234・236・240・243次調査 遺構配置図

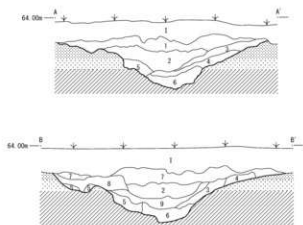




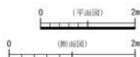
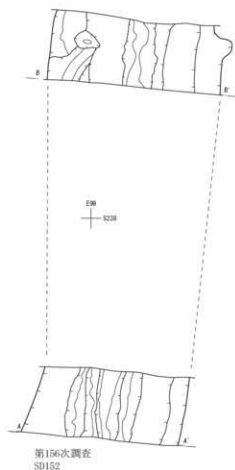


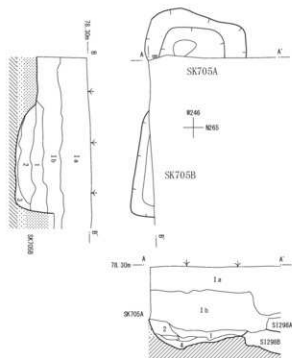


- SD152
- 1 暗褐色土 細砂・4粒多量含む。
  - 2 暗褐色土 細砂・4粒少量含む。
  - 3 暗黒褐色土 大粒砂・4粒含む。
  - 4 暗黒褐色土 大粒砂・4粒少量含む。
  - 5 暗黄褐色土 中粒砂・中・大砂・中・大砂多量含む。
  - 6 暗黄褐色土 中・大砂多量含む。
  - 7 暗黄褐色土 中・大砂・中・大砂多量含む。
  - 8 黄褐色土 中・大砂・中・大砂多量含む。



- SD152
- 1 暗褐色土 中・大粒・中・大粒の混合土
  - 2 暗褐色土 中・大粒・中・大粒の中や多く含む。
  - 3 暗黄褐色土 細砂・4粒多量含む。
  - 4 暗黄褐色土 細砂・4粒・大粒・4粒含む。
  - 5 黄褐色土 中・大砂・中・大砂多量含む。
  - 6 黄褐色土 中・大砂・中・大砂の中や多く含む。
  - 7 暗褐色土 中・大粒・中・大粒多量含む。
  - 8 暗褐色土 中・大粒・中・大粒の中や多く含む。
  - 9 暗黄褐色土 細砂・4粒多量含む。



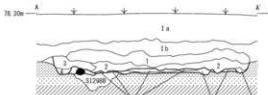
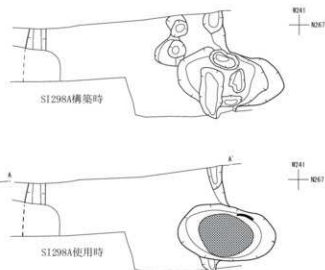


SK705A

- 1 黒褐色土 ⇒I-II型少量含む。
- 2 黒色土 ⇒I-II型・III型微量含む。やや硬質。
- 3 暗褐色土 ⇒I-II型やや多く、IV型少量含む。
- 4 黒褐色土 ⇒I-II型・III型微量、IV型やや多く含む。

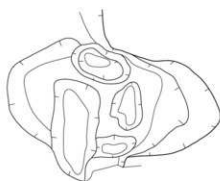
SK705B

- 1 暗褐色土 ⇒I-II型少量、III型微量含む。
- 2 黒褐色土 ⇒I-II型微量含む。
- 3 暗褐色土 ⇒I-II型やや多く、III型微量含む。



SI298A

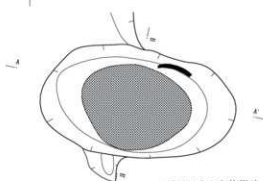
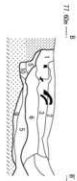
- 1 暗褐色土 ⇒I-II型少量含む。
- 2 黒褐色土 ⇒I-II型微量含む。
- 3 黒色土 ⇒I-II型微量含む。
- 4 暗褐色土 ⇒I-II型やや多く、III型微量含む。
- 5 暗褐色土 ⇒I-II型・III型微量含む。硬質。
- 6 暗褐色土 ⇒I-II型・III型微量含む。やや硬質。



SI298Aカマド構築時

SI298A(1)

- 1 暗黄褐色土 黄色粘土多く、粘土粒少量含む。
- 2 暗褐色土 粘土粒・焼土粒微量含む。
- 3 黒褐色土 粘土粒・焼土粒やや多く、炭化物少量含む。
- 4 黒褐色土 粘土粒・焼土粒少量含む。
- 5 暗褐色土 ⇒I-II型やや多く、粘土粒・焼土粒微量含む。やや硬い。
- 6 暗赤褐色土 焼土多量、灰色粘土微量含む。
- 7 暗褐色土 粘土粒・焼土粒やや多く含む。やや硬い。
- 8 暗赤褐色土 焼土少量、灰色粘土微量含む。
- 9 暗茶褐色土 ⇒I-II型・IV型やや多く含む。
- 10 暗赤褐色土 焼土多く、粘土粒微量含む。

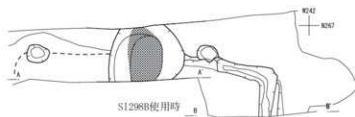


SI298Aカマド使用時

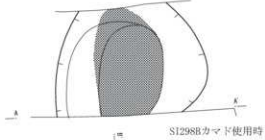
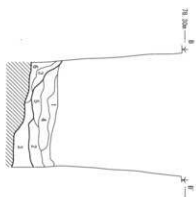
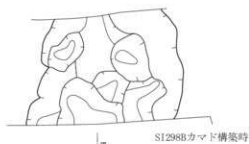
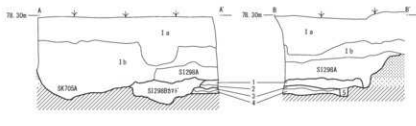




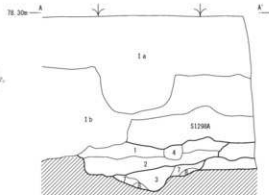
図面13 第157次調査 S1298B竪穴住居実測図



- S1298B  
 1 黒褐色土 砂・灰塵量含む。  
 2 黒褐色土 粘土粒微量含む。  
 3 暗褐色土 砂・土多く含む。硬質。  
 4 暗褐色土 砂・土多量含む。中々硬質。  
 5 黒褐色土 砂・灰や多く。砂・灰・土を含む。

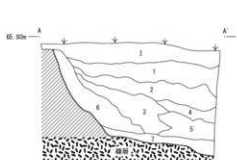


- S1298B(イ)  
 1 黒褐色土 粘土粒・塵土粒・炭化物少量含む。  
 2 暗赤褐色土 焼土多量。粘土粒・炭化物少量含む。  
 3 暗赤褐色土 焼土多量。粘土・炭化物微量含む。  
 4 暗白色灰土 焼土粒やや多く含む。  
 5 暗赤褐色土 黒色土やや多く含む。  
 6 灰白色粘土 焼土粒少量含む。  
 7 暗褐色土 焼土粒微量含む。  
 8 黒褐色土 砂・灰、砂・灰・土多く含む。



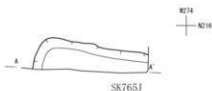
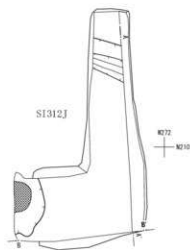
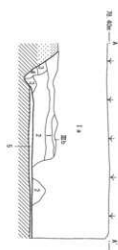


図面15 第179次調査 不明落ち込み 第181次調査 S1312J竪穴住居 SK765J土坑 第183次調査 SK772土坑実測図

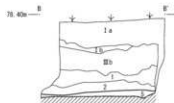


不明落ち込み

- 1 埴褐色土 ㊦-㊧配・㊦-㊧?多量含む。黒層?少量含む。
- 2 埴黒褐色土 ㊦-㊧配・黒層?多量含む。しまりなし。
- 3 埴褐色土 黒層?多量含む。
- 4 埴茶褐色土 黒?多量含む。
- 5 埴褐色土 黒層?多く含む。
- 6 埴褐色土 ㊦-㊧配子多量含む。
- 7 埴褐色土 ㊦-㊧配・㊦-㊧?多く含む。



- SK765J  
1 埴黒褐色土 黒層?多量含む。



- SK772  
1 埴褐色土 ㊦-㊧配多量含む。  
2 埴黒褐色土 ㊦-㊧配少量含む。  
3 埴褐色土 黒層?多量含む。



S1298J炉使用時

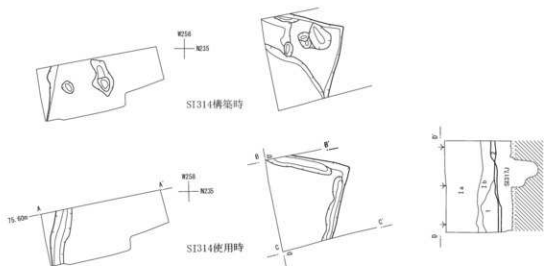
S1298J炉構築時

S1312J炉

- 1 埴茶褐色土 ㊦-㊧配・㊦?や㊦?多く含む。
- 2 黒褐色土 ㊦-㊧配・㊦?や炭化物多く含む。
- 3 埴黒褐色土 ㊦-㊧配・㊦?や㊦?多く、黒層?少量含む。
- 4 埴黄褐色土 ㊦-㊧?多量含む。
- 5 埴黄褐色土 ㊦-㊧?多量含む。硬質。
- 6 埴黒褐色土 焼土粒多量含む。
- 7 赤褐色土 焼土。
- 8 黄褐色土 焼けた㊦-㊧土。

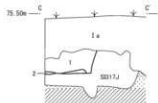
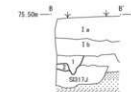
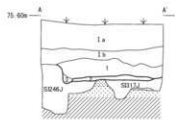


図面16 第188次調査 S1314・315・316竪穴住居実測図



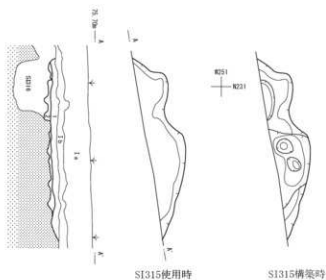
S1314構築時

S1314使用時



S1314

- 1 埴黒褐色土 粘土粒子・焼土粒子多量に含む。
- 2 埴茶褐色土 黒層?が多く、粘土粒子少量含む。硬質。
- 3 埴茶褐色土 黒層?が多く含む。

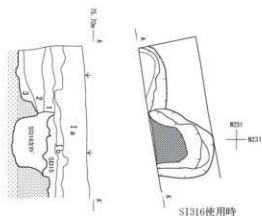


S1315使用時

S1315構築時

S1315

- 1 黒褐色土 赤・黒粒子・ロリ散量。黒層?が少量含む。
- 2 埴黒褐色土 黒層?が多く含む。しまり良い。

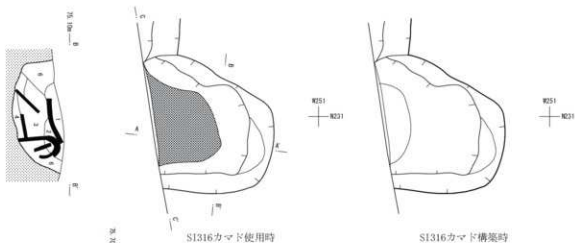


S1316使用時

S1316

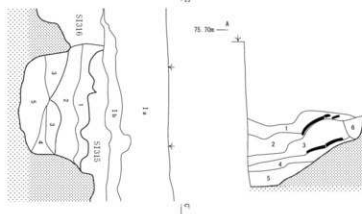
- 1 埴黒褐色土 焼土・灰白色粘土少量含む。
- 2 埴黒褐色土 焼土少量・灰白色粘土割合や多く含む。
- 3 埴黒褐色土 焼土・灰白色粘土やや多く含む。





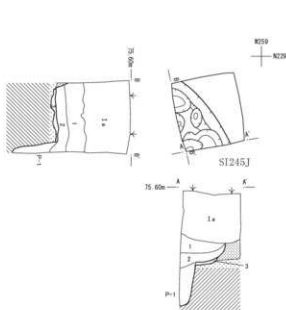
S1316カマド使用時

S1316カマド構築時



S1316(7)↑

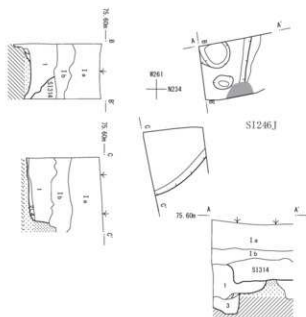
- 1 埴灰白褐色土 灰白色粘土粒子多く、焼土粒少量含む。
- 2 埴灰褐色土 灰白色粘土粒子・焼土粒少量含む。
- 3 灰白色土 灰白色粘土粒子多量、焼土粒少量含む。
- 4 埴赤褐色土 焼土粒子多量に含む。
- 5 赤褐色土 焼土
- 6 黒褐色土 粘土粒・焼土粒散見、黒煙アツク含む。



S1245J

S1245J

- 1 埴赤褐色土 a=4粒・x377散量含む。
- 2 埴赤褐色土 a=4粒少量、x377散量含む。
- 3 赤褐色土 a=4粒・a=1土やa多量含む、やぐ破瓦。



S1246J

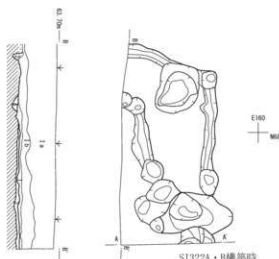
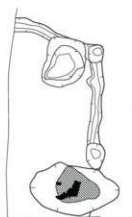
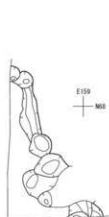
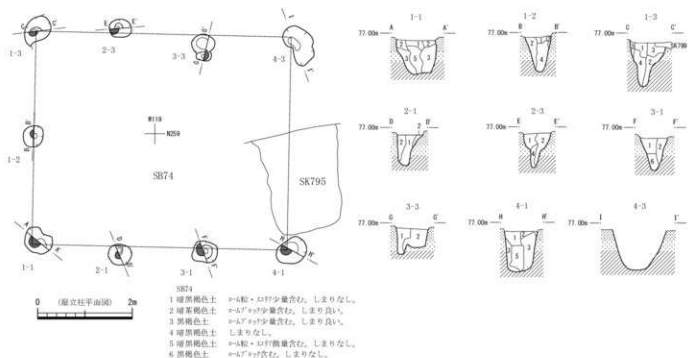
S1246J

- 1 埴赤褐色土 a=4粒・x377多量含む。
- 2 埴赤褐色土 a=4粒・a=1土やa多量含む。
- 3 埴赤褐色土 a=4粒・x377多量含む。
- 4 赤褐色土 a=4粒・ロームアツク多量含む、やぐ破瓦。

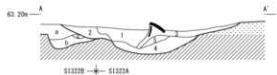
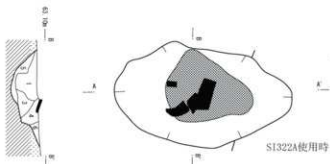




図面19 第192次調査 SB74掘立柱建物 第198次調査 SI322A・B竪穴住居実測図



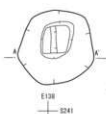
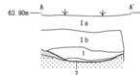
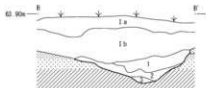
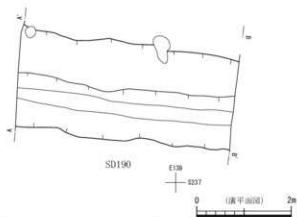
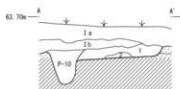
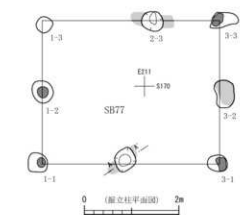
- SI322A  
 1 埴原褐色土 a-A粒多量、a-F・焼土・灰白色粘土粒子少量含む。硬質。  
 2 埴原褐色土 a-A粒・a-L'やF'多く含む。  
 SI322B  
 3 黄褐色土 a-A土。硬質。  
 4 埴原褐色土 a-A'やF'多量含む。  
 5 埴原褐色土 a-A粒少量含む。



- SI322Aカマド  
 1 埴原褐色土 a-A粒・a-F・焼土粒含む。  
 2 埴原黄褐色土 粘土・a-F'やF'多量含む。  
 3 埴原褐色土 焼土・粘土・a-A'やF'含む。  
 4 埴原褐色土 熱をうけたa-A土。  
 5 灰褐色土 粘土  
 SI322Bカマド  
 a 埴原褐色土 灰白色粘土粒子少量含む。やや硬質。  
 b 埴原褐色土 熱をうけたa-A土。  
 c 赤褐色土 焼土。

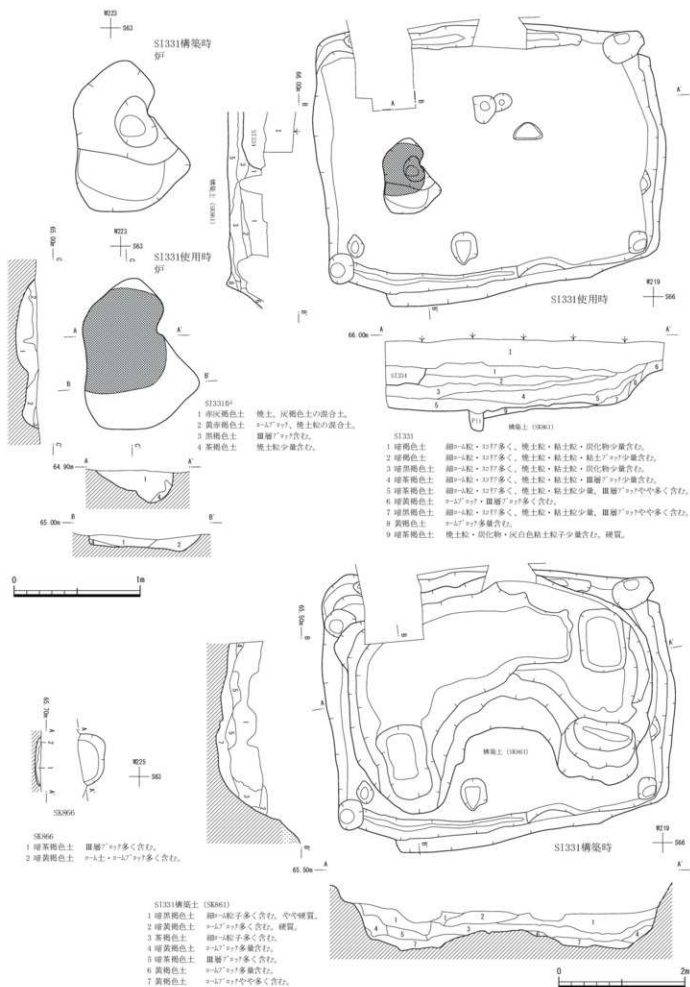


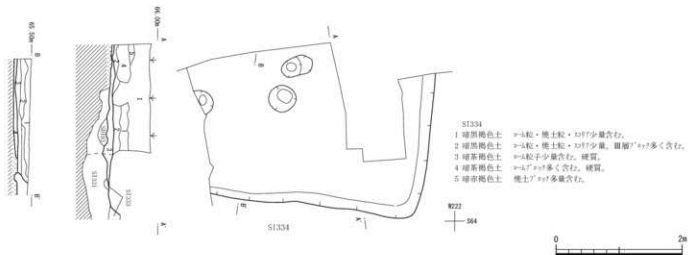
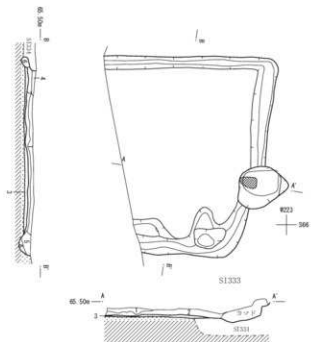
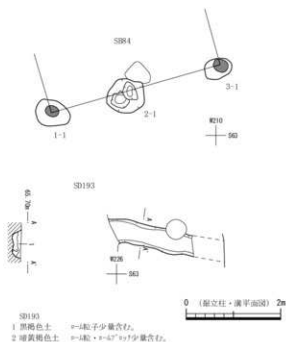
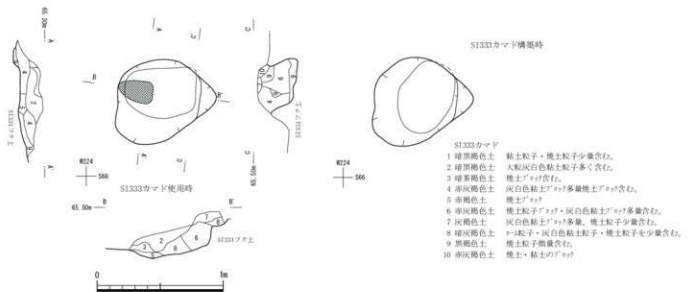
図面20 第198次調査 SK777土坑 第204次調査 SB77掘立柱建物 第215次調査 SD190 SK859土坑  
SS30集石土坑実測図

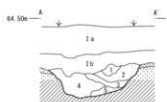
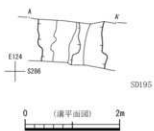




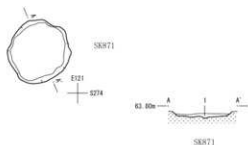
図面21 第216次調査 SI331竪穴住居 SK861(SI331構築土) SK866土坑実測図



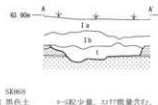
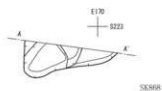




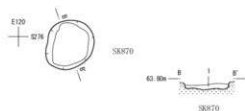
- SD195
- 1 暗黒褐色土 黒色土
  - 2 暗黒褐色土 ㊦-4粒・㊦7少量含む。
  - 3 暗黒褐色土 ㊦-4粒子多し、㊦-5?㊦?含む。
  - 4 暗黄褐色土 ㊦-5?㊦?多量含む。
  - 5 黄褐色土 ㊦-5?㊦?



- SK871
- 1 黒褐色土 ㊦-4粒少量、㊦7微量含む。



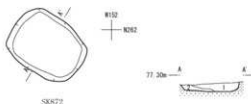
- SK868
- 1 黒色土 ㊦-4粒少量、㊦7微量含む。



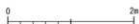
- SK870
- 1 黒褐色土 ㊦-4粒少量、㊦7微量含む。

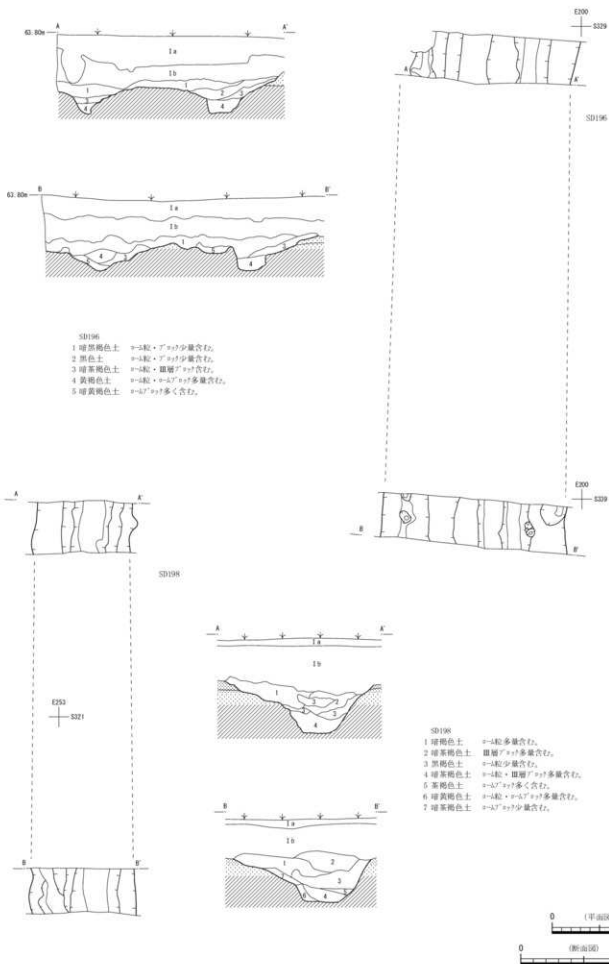


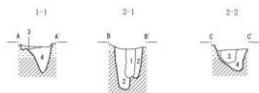
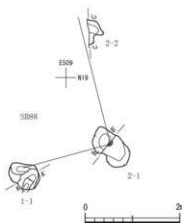
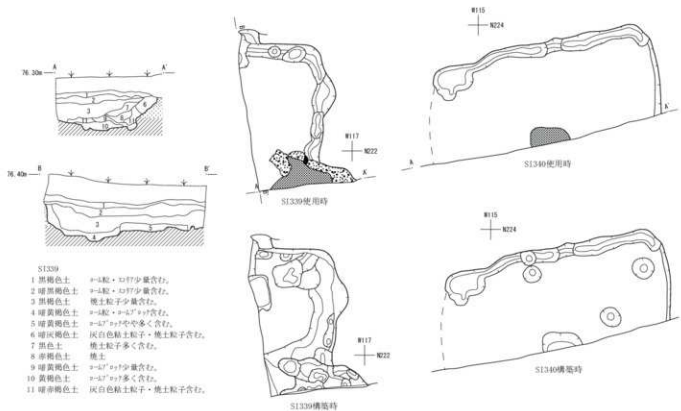
- SK869
- 1 黒褐色土 ㊦-4粒少量、㊦7微量含む。



- SK872
- 1 黒褐色土 ㊦-4粒子少量含む。
  - 2 黒褐色土 ㊦-4粒子少量、黒褐色㊦?多く含む。

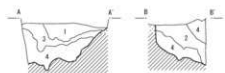
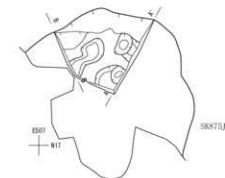
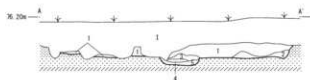






SB88

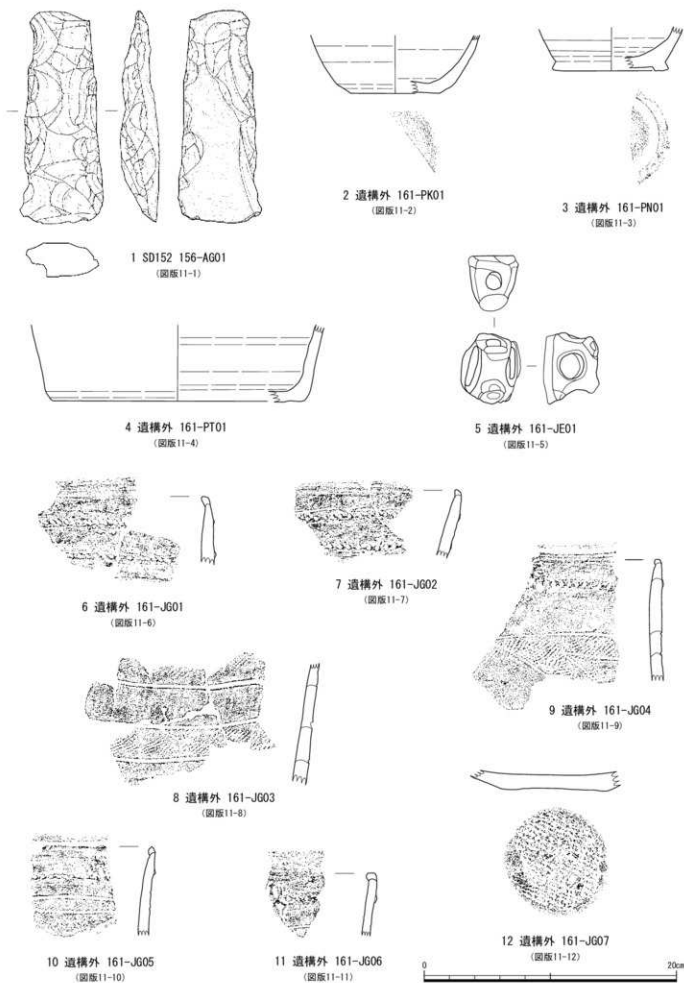
- 1 暗黄褐色土 大粒a-b粒含む。粘性しまりやや良い。  
 2 暗黄褐色土 a-b?a?多量含む。粘性しまり良い。  
 3 暗黄褐色土 暗褐色?a?多く含む。粘性しまり良い。  
 4 暗黄褐色土 a-b?a?多量含む。粘性しまり良い。

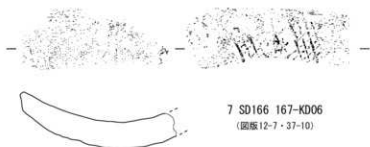
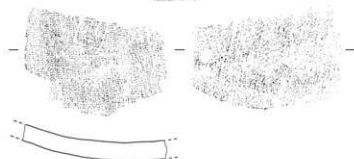
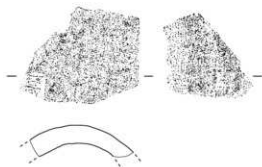
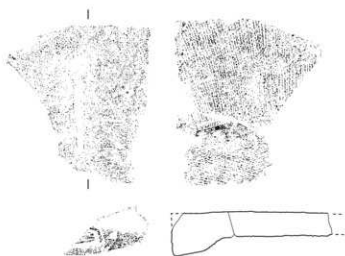
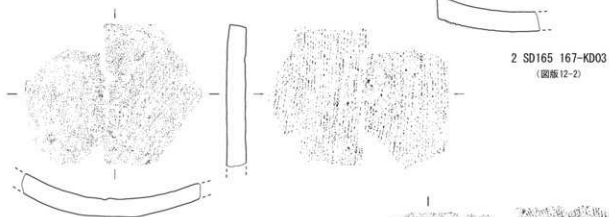
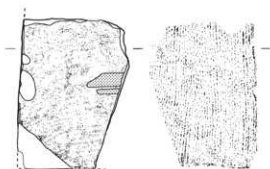
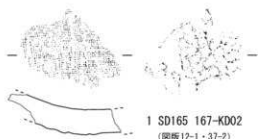


SK875J

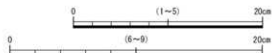
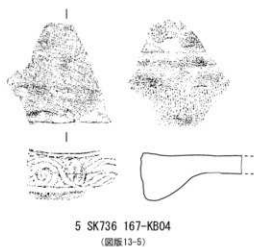
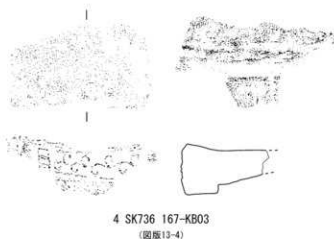
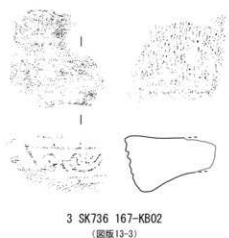
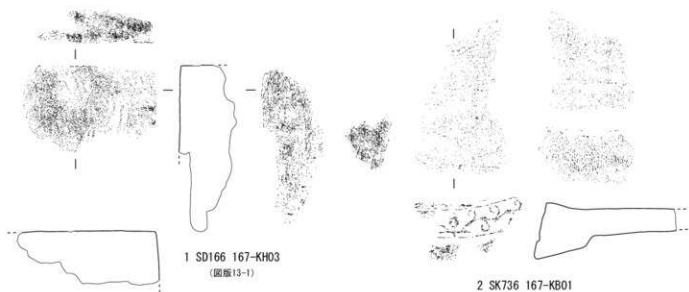
- 1 暗黄褐色土 a-b粒・a-b?少量含む。  
 2 黒褐色土 a-b粒含む。  
 3 暗黄褐色土 a-b粒・a-b?a?多く含む。a-b?少量含む。  
 4 黄褐色土 a-b?a?多量含む。





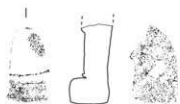


図面28 第167次調査出土遺物 (2)

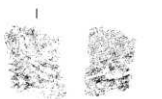




図面29 第167次調査出土遺物 (3)



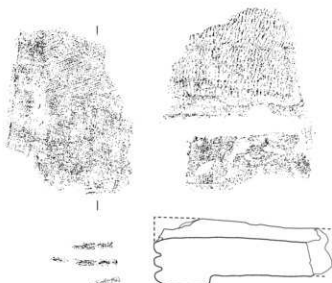
1 遺構外 167-KA01  
(図版14-1)



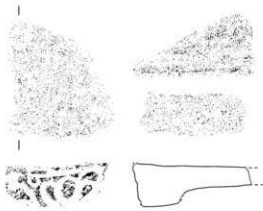
2 遺構外 167-KA03  
(図版14-2)



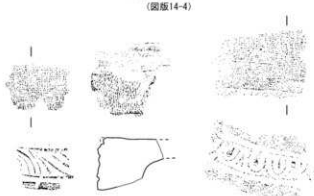
3 遺構外 167-KA04  
(図版14-3)



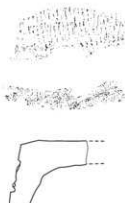
4 遺構外 167-KB05  
(図版14-4)



5 遺構外 167-KB06  
(図版14-5)



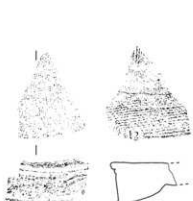
6 遺構外 167-KB07  
(図版14-6)



7 遺構外 167-KB08  
(図版14-7)



8 遺構外 167-KB09  
(図版14-8)



9 遺構外 167-KB10  
(図版14-9)



10 遺構外 167-KB11  
(図版14-10)



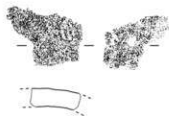
11 遺構外 167-KB14  
(図版14-11)



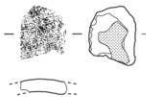
12 遺構外 167-KB16  
(図版14-12)



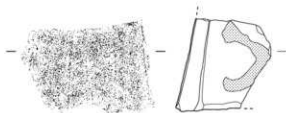
図面30 第167次調査出土遺物 (4)



1 遺構外 167-KC02  
(図版15-1・37-3)



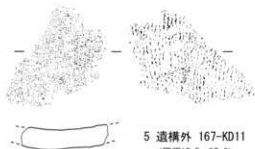
2 遺構外 167-KC03  
(図版15-2・39-9)



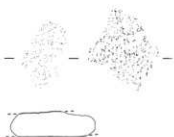
3 遺構外 167-KC06  
(図版15-3)



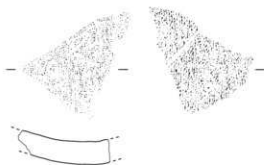
4 遺構外 167-KD10  
(図版15-4・37-5)



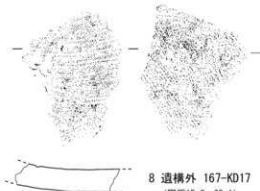
5 遺構外 167-KD11  
(図版15-5・37-6)



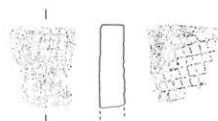
6 遺構外 167-KD15  
(図版15-6・37-9)



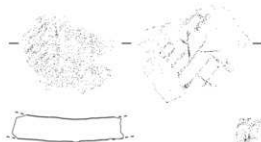
7 遺構外 167-KD16  
(図版15-7・37-8)



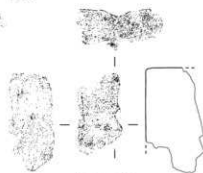
8 遺構外 167-KD17  
(図版15-8・38-1)



9 遺構外 167-KD18  
(図版15-9)



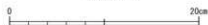
10 遺構外 167-KD19  
(図版15-10・38-2)



12 遺構外 167-KH10  
(図版15-12)

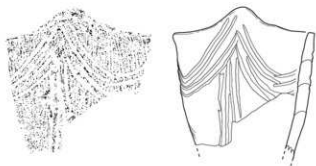


11 遺構外 167-KG01  
(図版15-11)

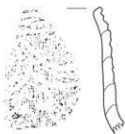




1 S1312J 181-JE01  
(図版16-1)



2 S1312J 181-JF01  
(図版16-2)



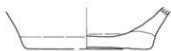
3 S1312J 181-JF02  
(図版16-3)



5 S1312J 181-JF04  
(図版16-5)



4 S1312J 181-JF03  
(図版16-4)



8 S1312J 181-JF07  
(図版16-8)



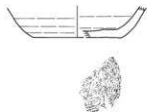
7 S1312J 181-JF06  
(図版16-7)



6 S1312J 181-JF05  
(図版16-6)



図面32 第188次調査出土遺物(1)



1 S1314 188-PK03  
(図版17-1)



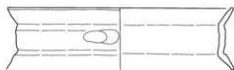
2 S1314 188-PL02  
(図版17-2)



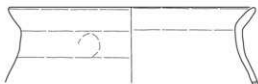
4 S1314 188-KD09  
(図版17-4・38-6)



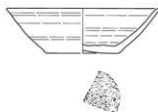
3 S1314 188-KD08  
(図版17-3)



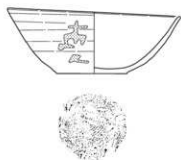
5 S1316 188-PH01  
(図版17-5)



6 S1316 188-PH02  
(図版17-6)



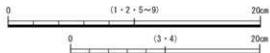
7 S1316 188-PK01  
(図版17-7)

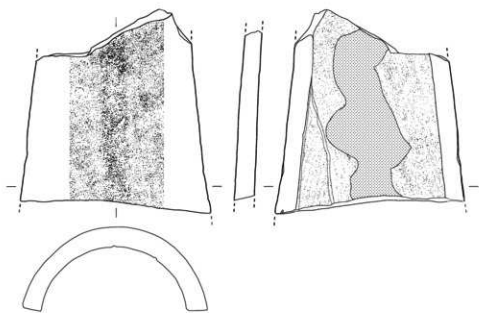
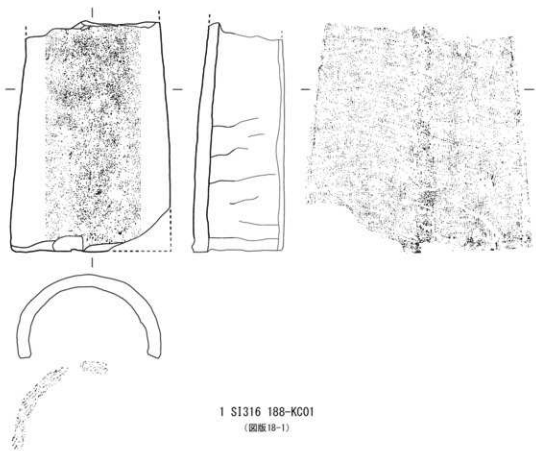


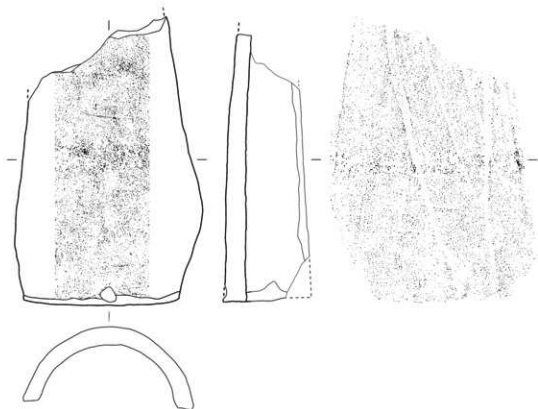
8 S1316 188-PK02  
(図版17-8・38-3)



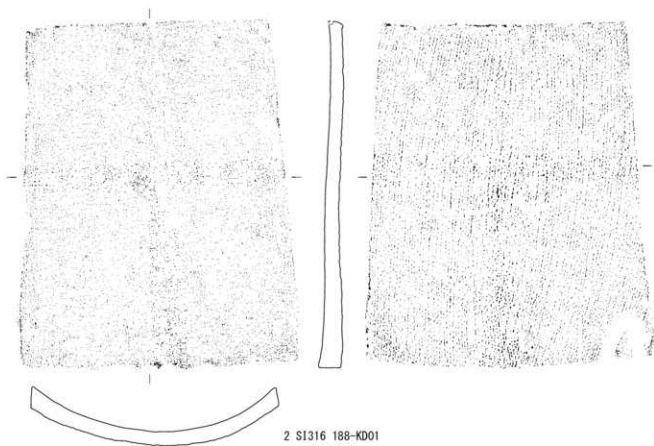
9 S1316 188-PL01  
(図版17-9)





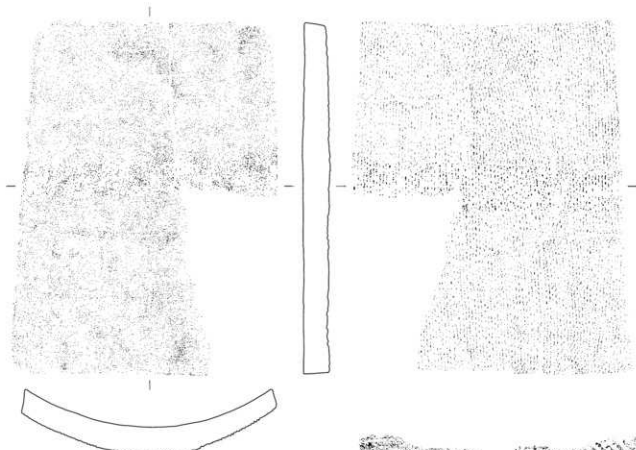


1 SI316 188-KC03  
(図版19-1)

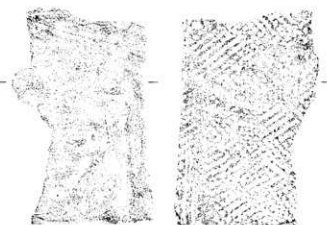


2 SI316 188-KD01  
(図版19-2)

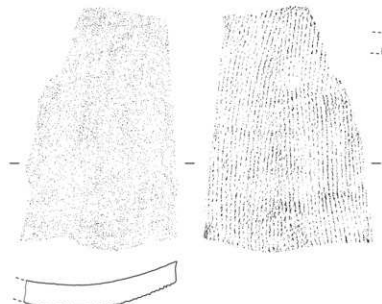




1 S1316 188-KD02  
(図版20-1)

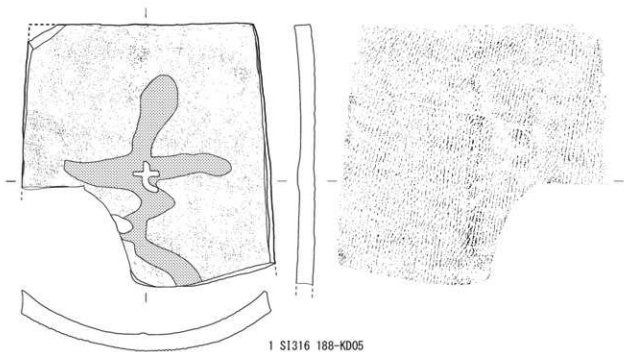


2 S1316 188-KD03  
(図版20-2)

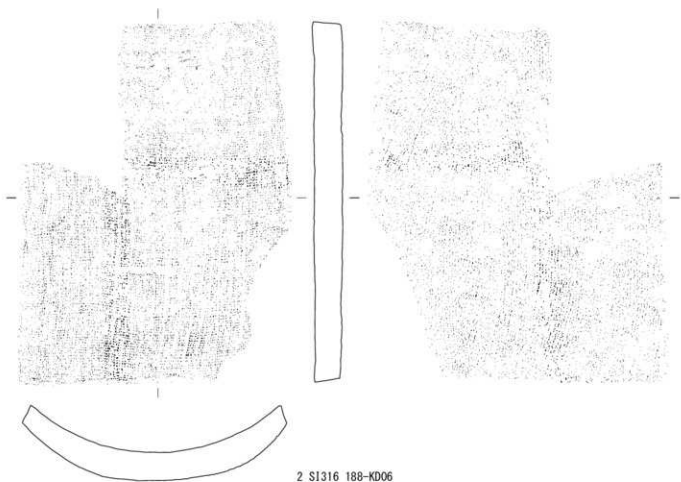


3 S1316 188-KD04  
(図版20-3)





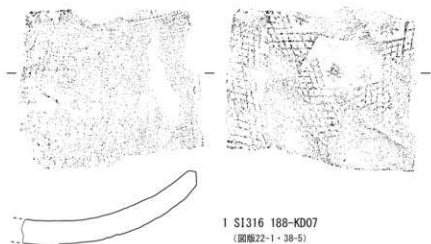
1 SI316 188-KD05  
(図版21-1・38-4)



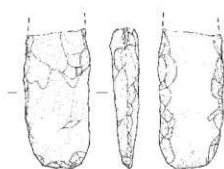
2 SI316 188-KD06  
(図版21-2)



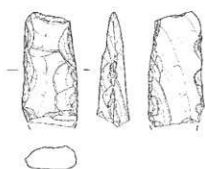




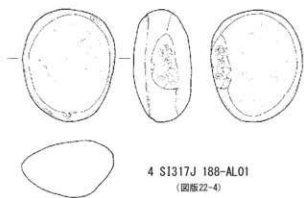
1 S1316 188-KD07  
(図版22-1・38-5)



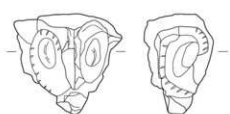
2 S1317J 188-AG01  
(図版22-2)



3 S1317J 188-AG02  
(図版22-3)



4 S1317J 188-AL01  
(図版22-4)



5 遺構外 188-JE01  
(図版22-5)



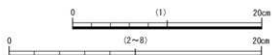
6 遺構外 188-JE02  
(図版22-6)



7 遺構外 188-JE03  
(図版22-7)



8 遺構外 188-JE04  
(図版22-8)



図面38 第198次調査出土遺物



1 S1322 198-PH01  
(図版23-1)



2 S1322 198-PK01  
(図版23-2)



3 S1322 198-PL01  
(図版23-3)



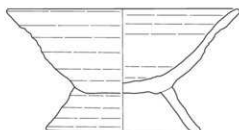
4 S1322 198-PL02  
(図版23-4)



5 S1322 198-PL03  
(図版23-5)



6 S1322 198-PL04  
(図版23-6)



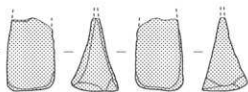
7 S1322 198-PL05  
(図版23-7)



8 S1322 198-KD01  
(図版23-8・39-10)



9 S1322 198-KD02  
(図版23-9)



12 S1322 198-GL01  
(図版23-12)



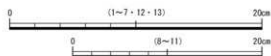
10 S1322 198-KD03  
(図版23-10・39-11)

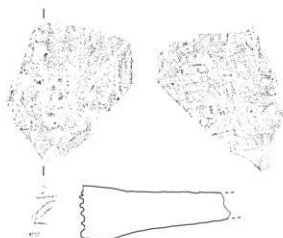


13 S1322 198-GL02  
(図版23-13)



11 S1322 198-KH01  
(図版23-11)

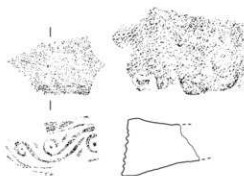




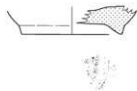
2 遺構外 204-KB01  
(図版24-2)



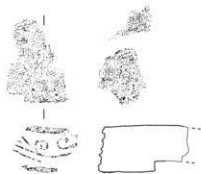
5 遺構外 204-KB04  
(図版24-5)



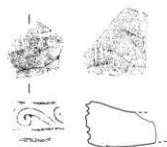
6 遺構外 204-KB05  
(図版24-6)



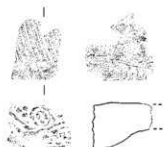
1 遺構外 204-PN01  
(図版24-1)



3 遺構外 204-KB02  
(図版24-3)

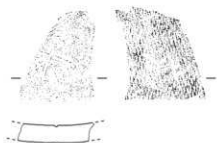


4 遺構外 204-KB03  
(図版24-4)

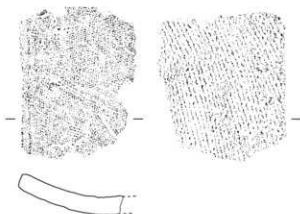


7 遺構外 204-KB06  
(図版24-7)

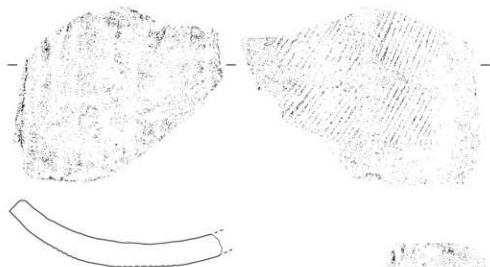




1 遺構外 204-KD01  
(図版25-1・38-7)



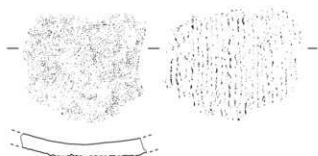
2 遺構外 204-KD02  
(図版25-2・38-8)



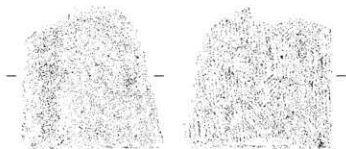
3 遺構外 204-KD03  
(図版25-3)



4 遺構外 204-KD04  
(図版25-4)

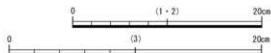
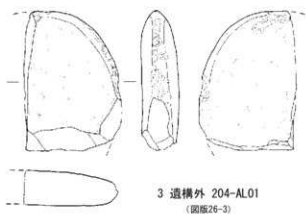
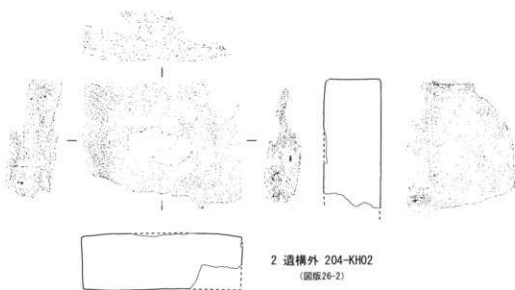
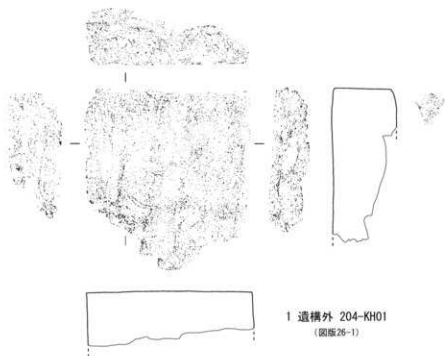


5 遺構外 204-KD05  
(図版25-5・38-9)



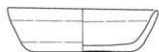
6 遺構外 204-KD06  
(図版25-6・38-10)



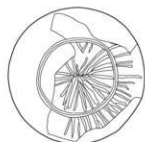




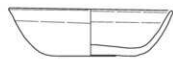
1 S1331 216-PH05  
(図版27-1)



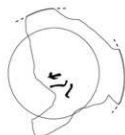
4 S1331 216-PK08  
(図版27-4)



3 S1331 216-PK07  
(図版27-3・39-3)



5 S1331 216-PK09  
(図版27-5)



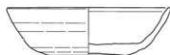
2 S1331 216-PH06  
(図版27-2・39-1)



6 S1331 216-PK10  
(図版27-6)



7 S1331 216-PK11  
(図版27-7)



8 S1331 216-PK12  
(図版27-8)



10 S1331 216-PK14  
(図版27-10)

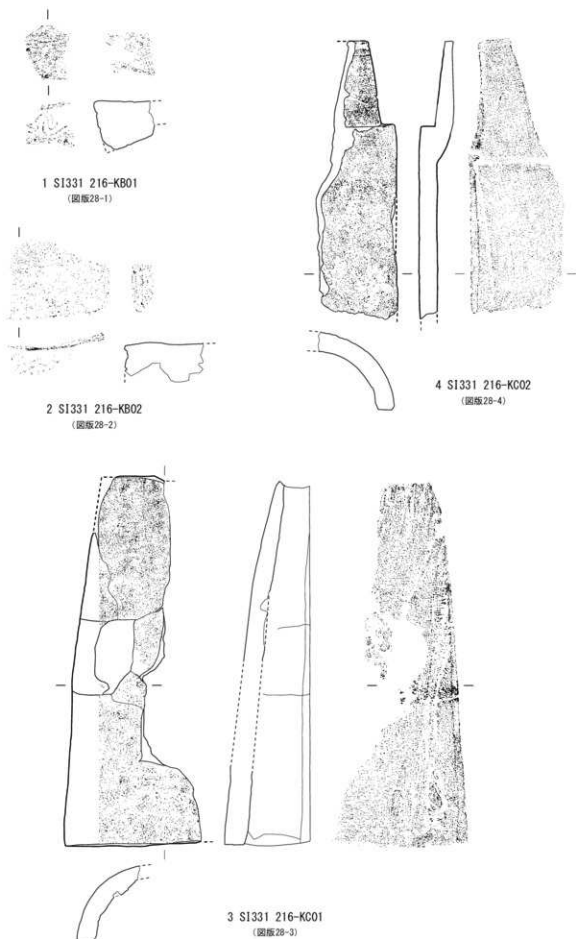


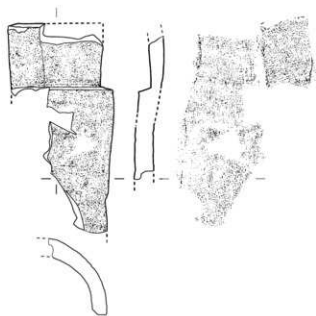
11 S1331 216-PL01  
(図版27-11)



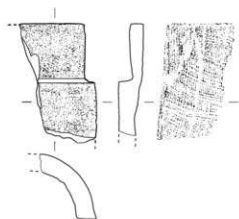
9 S1331 216-PK13  
(図版27-9)



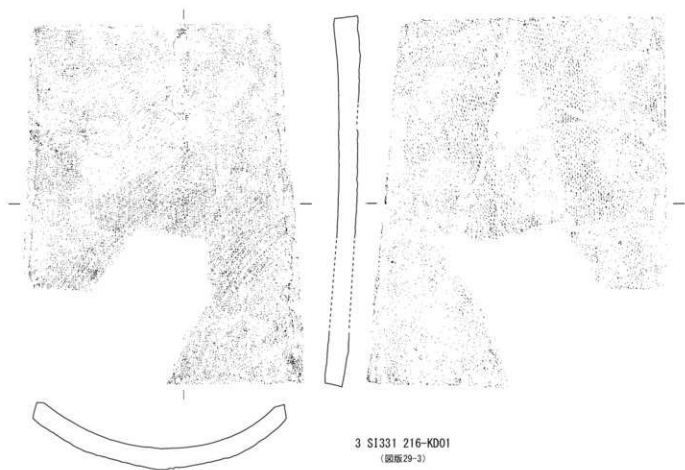




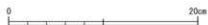
1 SI331 216-KC03  
(図版29-1)



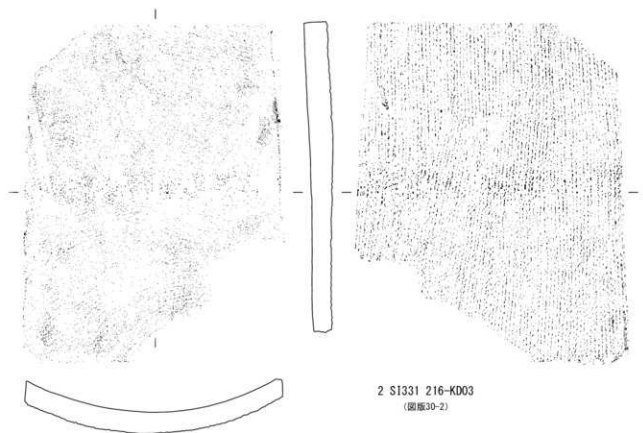
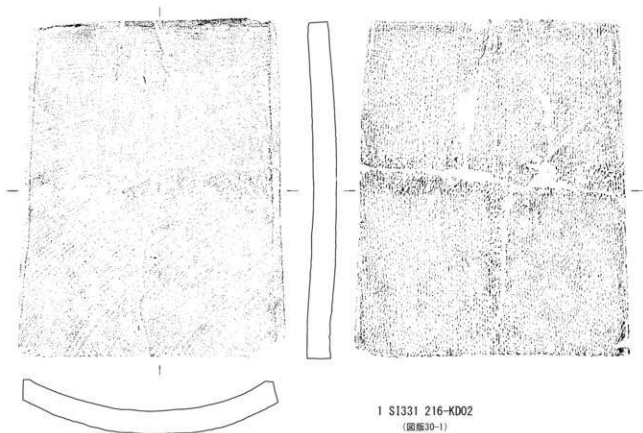
2 SI331 216-KC04  
(図版29-2)

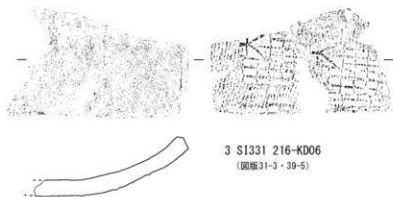
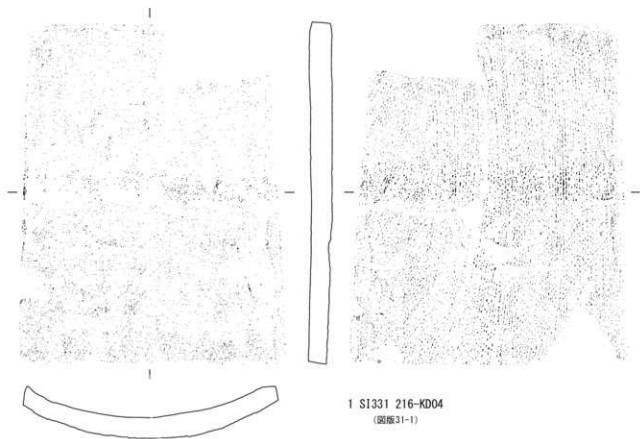


3 SI331 216-KD01  
(図版29-3)

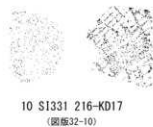
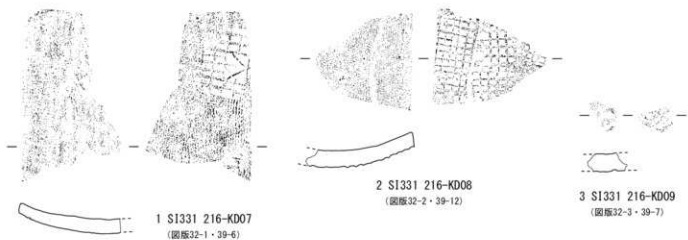








図面47 第216次調査出土遺物(6)



図面48 第216次調査出土遺物(7)



1 S1331 216-KD18  
(図版33-1・39-8)



2 S1331 216-KD19  
(図版33-2)



3 S1331 216-KD20  
(図版33-3)



4 S1331 216-KD21  
(図版33-4)

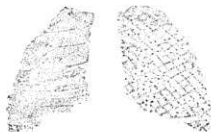


8 S1331 216-KD26  
(図版33-8)



6 S1331 216-KD23  
(図版33-6)

5 S1331 216-KD22  
(図版33-5)



7 S1331 216-KD24  
(図版33-7)



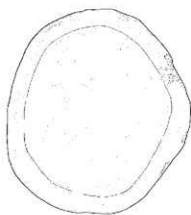
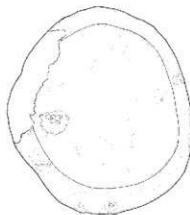
10 S1331 216-MM01  
(図版33-10)



9 S1331 216-KD25  
(図版33-9)



11 S1331 216-MZ01  
(図版33-11)



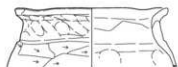
12 S1331 216-AL01  
(図版33-12)

0 (1-9) 20cm

0 (10-11) 5cm

0 (12) 20cm

図面49 第216次調査出土遺物(8)



1 S1333 216-PH01  
(図版34-1)



2 S1333 216-PK01  
(図版34-2・39-2)



3 S1333 216-PK04  
(図版34-3)



4 S1333 216-PL04  
(図版34-4)



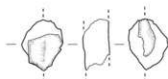
5 S1333 216-PN02  
(図版34-5)



6 S1333 216-KD14  
(図版34-6)



7 S1333 216-TH02  
(図版34-7)



8 S1333 216-TK01  
(図版34-8)



9 S1334 216-PH02  
(図版34-9)



10 S1334 216-PH03  
(図版34-10)



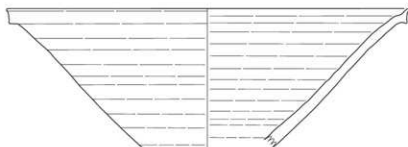
11 S1334 216-PH04  
(図版34-11)



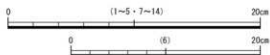
12 S1334 216-PK02  
(図版34-12)



13 S1334 216-PK03  
(図版34-13)

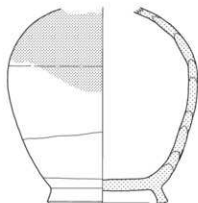


14 S1334 216-PK06  
(図版34-14)





1 S1334 216-PL02  
(図版35-1)



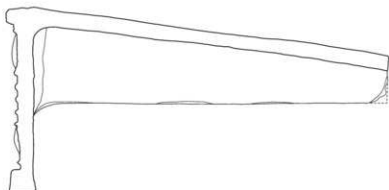
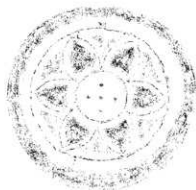
4 S1334 216-PK05  
(図版35-4)



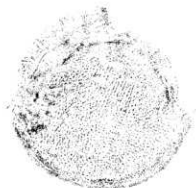
2 S1334 216-PL05  
(図版35-2)



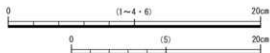
3 S1334 216-PL03  
(図版35-3)



5 S1334 216-KA01  
(図版35-5)



6 S1334 216-TH01  
(図版35-6)





1 遺構外 227-JE01  
(図版36-1)



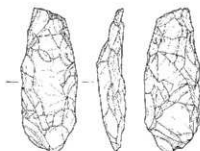
2 遺構外 227-JE02  
(図版36-2)



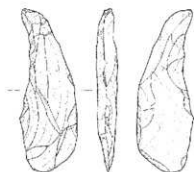
3 遺構外 227-JE03  
(図版36-3)



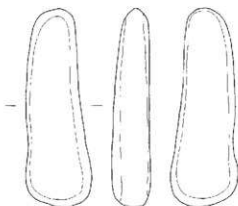
4 遺構外 227-JF01  
(図版36-4)



5 遺構外 227-AG01  
(図版36-5)



6 遺構外 227-AG02  
(図版36-6)



7 遺構外 227-AL01  
(図版36-7)







---

# 図版

---

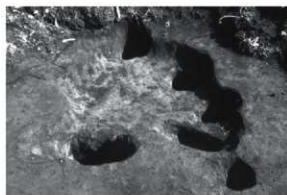
図版1	第100・113・132・138次調査
図版2	第142・146・148・151・153・156・157次調査
図版3	第157・161・167次調査
図版4	第169・177・179・181・183・188次調査
図版5	第188・192次調査
図版6	第192・196・197・198・199次調査
図版7	第203・204・209・212・214・215次調査
図版8	第216次調査
図版9	第216・224・225・227・228・229・233次調査
図版10	第234・236・240・243次調査
図版11	第156・161次調査出土遺物
図版12	第167次調査出土遺物(1)
図版13	第167次調査出土遺物(2)
図版14	第167次調査出土遺物(3)
図版15	第167次調査出土遺物(4)
図版16	第181次調査出土遺物
図版17	第188次調査出土遺物(1)
図版18	第188次調査出土遺物(2)
図版19	第188次調査出土遺物(3)
図版20	第188次調査出土遺物(4)
図版21	第188次調査出土遺物(5)
図版22	第188次調査出土遺物(6)

図版23	第198次調査出土遺物
図版24	第204次調査出土遺物(1)
図版25	第204次調査出土遺物(2)
図版26	第204次調査出土遺物(3)
図版27	第216次調査出土遺物(1)
図版28	第216次調査出土遺物(2)
図版29	第216次調査出土遺物(3)
図版30	第216次調査出土遺物(4)
図版31	第216次調査出土遺物(5)
図版32	第216次調査出土遺物(6)
図版33	第216次調査出土遺物(7)
図版34	第216次調査出土遺物(8)
図版35	第216次調査出土遺物(9)
図版36	第227次調査出土遺物
図版37	文字・記号集成(1)
図版38	文字・記号集成(2)
図版39	文字・記号集成(3)





1 第100次調査 SD114溝完掘全景 (北から)



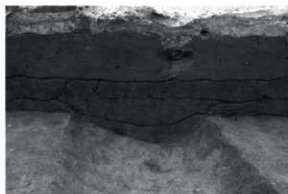
2 第100次調査 SK490土坑完掘全景 (西から)



3 第100次調査 SK491土坑完掘全景 (西から)



4 第113次調査 SD131溝プラン全景 (南から)



5 第113次調査 SD131溝北壁断面 (南から)



6 第132次調査 SD131溝完掘全景 (東から)



7 第138次調査 SD144溝完掘全景 (南から)



8 第138次調査 SK635土坑断面 (北から)



1 第142次調査 SI285竪穴住居構築時全景  
(南から)



2 第146次調査 SK663土坑完掘全景(北から)



3 第148次調査 SI292竪穴住居使用時全景  
(東から)



4 第148次調査 SI292竪穴住居構築時全景  
(東から)



5 第151次調査 SD152溝南壁断面(北から)



6 第153次調査 全景(西から)



7 第156次調査 SD152溝完掘全景(北から)



8 第157次調査 SI298A竪穴住居カマド断面  
(北から)



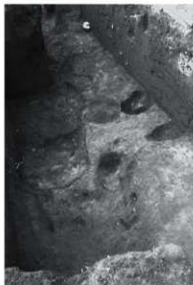
1 第157次調査 SI298B竪穴住居カマド断面  
(西から)



2 第157次調査 SI298B竪穴住居使用時全景  
(東から)



3 第157次調査 SI298A竪穴住居  
構築時・SK705A土坑全景  
(西から)



4 第157次調査 SI298B竪穴住居  
構築時全景 (東から)



5 第161次調査 全景 (南から)



6 第167次調査 SD157・165・166溝断面 (南から)



7 第167次調査 SD153・154溝断面 (北から)



1 第169次調査 全景(南から)



2 第177次調査 SS26集石全景(東から)



3 第179次調査 不明落ち込み東壁断面(西から)



4 第181次調査 SI312J堅穴住居使用時全景(南から)



5 第181次調査 SK765J土坑完掘全景(東から)



6 第183次調査 SK772土坑断面(南から)



7 第188次調査 SI246J・317J堅穴住居全景(西から)



1 第188次調査 SI314竪穴住居構築時全景 (南から)



2 第188次調査 SI315・316竪穴住居構築時全景 (南から)



3 第188次調査 SI316竪穴住居カマド断面 (北から)



4 第188次調査 SI318]竪穴住居構築時全景 (南から)



5 第192次調査 SB74掘立柱建物全景 (東から)



6 第192次調査 SB74掘立柱建物1-1断面 (北から)



7 第192次調査 SB74掘立柱建物1-3  
・SK799土坑完掘全景 (北から)



8 第192次調査 SK795土坑断面 (南から)



1 第192次調査 SK796土坑断面 (東から)



2 第196次調査 全景 (東から)



3 第197次調査 西側全景 (西から)



4 第198次調査 SI322A・B堅穴住居使用時全景 (西から)



5 第198次調査 SI322堅穴住居カマド断面 (北から)



6 第198次調査 SK777土坑断面 (北から)



7 第199次調査 全景 (西から)





1 第203次調査 全景(南から)



2 第204次調査 SB77掘立柱建物全景(東から)



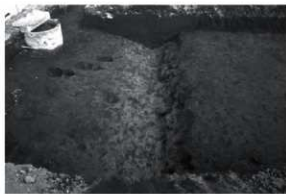
3 第209次調査 全景(北から)



4 第212次調査 全景(西から)



5 第214次調査 全景(南から)



6 第215次調査 SD190溝完掘全景(西から)



7 第215次調査 SK859土坑完掘全景(南から)



8 第215次調査 SS30集石土坑断面(北から)



1 第216次調査 SB84掘立柱建物全景 (東から)



2 第216次調査 SI331竪穴住居使用時全景 (東から)



3 第216次調査 SI331竪穴住居構築時全景 (南から)



4 第216次調査 SI331竪穴住居炉址断面 (南から)



5 第216次調査 SI333竪穴住居使用時全景 (西から)



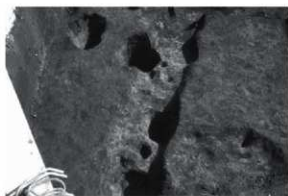
6 第216次調査 SI333竪穴住居構築時全景 (西から)



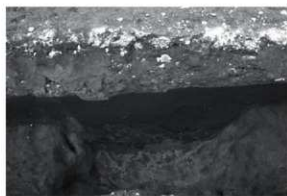
7 第216次調査 SI333竪穴住居カマド断面 (西から)



8 第216次調査 SI334竪穴住居使用時全景 (西から)



1 第216次調査 SD193溝全景 (西から)



2 第224次調査 SD195溝断面 (南から)



3 第224次調査 SK869・870・871土坑全景 (南から)



4 第225次調査 SK868土坑全景 (西から)



5 第227次調査 全景 (西から)



6 第228次調査 SK872土坑全景 (南から)



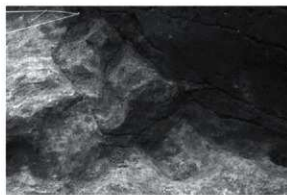
7 第229次調査 SD196溝全景 (南から)



8 第233次調査 SD198溝断面 (南から)



1 第234次調査 調査区全景 (北から)



2 第236次調査 SI339竪穴住居カマド断面 (西から)



3 第236次調査 SI339竪穴住居使用時全景 (西から)



4 第236次調査 SI339竪穴住居構築時全景 (西から)



5 第236次調査 SI340竪穴住居炉址断面 (北から)



6 第240次調査 全景 (西から)



7 第243次調査 SB88掘立柱建物1-2断面 (北から)



8 第243次調査 SK875J土坑断面 (北から)



1 SD152 156-A01  
(図面26-1)



2 遺構外 161-PK01  
(図面26-2)



3 遺構外 161-PN01  
(図面26-3)



4 遺構外 161-PT01  
(図面26-4)



5 遺構外 161-JE01  
(図面26-5)



6 遺構外 161-JG01  
(図面26-6)



7 遺構外 161-JG02  
(図面26-7)



9 遺構外 161-JG04  
(図面26-9)



8 遺構外 161-JG03  
(図面26-8)



10 遺構外 161-JG05  
(図面26-10)



11 遺構外 161-JG06  
(図面26-11)



12 遺構外 161-JG07  
(図面26-12)



1 SD165 167-KD02  
(図面27-1・図版37-2)



2 SD165 167-KD03  
(図面27-2)



3 SD165 167-KD12  
(図面27-3・図版37-7)



4 SD166 167-KB17  
(図面27-4)



5 SD166 167-KC01  
(図面27-5・図版37-1,2)



6 SD166 167-KD04  
(図面27-6・図版37-4)



7 SD166 167-KD06  
(図面27-7・図版37-10)



1 SD166 167-KH03  
(図面28-1)



2 SK736 167-KB01  
(図面28-2)



3 SK736 167-KB02  
(図面28-3)



4 SK736 167-KB03  
(図面28-4)



5 SK736 167-KB04  
(図面28-5)



6 遺構外 167-PK01  
(図面28-6)



8 遺構外 167-PK03  
(図面28-8)



7 遺構外 167-PK02  
(図面28-7)



9 遺構外 167-PK04  
(図面28-9)



1 遺構外 167-KA01  
(図面29-1)



2 遺構外 167-KA03  
(図面29-2)



3 遺構外 167-KA04  
(図面29-3)



4 遺構外 167-KB05  
(図面29-4)



5 遺構外 167-KB06  
(図面29-5)



6 遺構外 167-KB07  
(図面29-6)



8 遺構外 167-KB09  
(図面29-8)



11 遺構外 167-KB14  
(図面29-11)



10 遺構外 167-KB11  
(図面29-10)



9 遺構外 167-KB10  
(図面29-9)



12 遺構外 167-KB16  
(図面29-12)



7 遺構外 167-KB08  
(図面29-7)







1 遺構外 167-KC02  
(図面30-1・図版37-3)



2 遺構外 167-KC03  
(図面30-2・図版39-9)



3 遺構外 167-KC06  
(図面30-3)



4 遺構外 167-KD10  
(図面30-4・図版37-5)



5 遺構外 167-KD11  
(図面30-5・図版37-6)



6 遺構外 167-KD15  
(図面30-6・図版37-9)



7 遺構外 167-KD16  
(図面30-7・図版37-8)



8 遺構外 167-KD17  
(図面30-8・図版38-1)



9 遺構外 167-KD18  
(図面30-9)



10 遺構外 167-KD19  
(図面30-10・図版38-2)



11 遺構外 167-KG01  
(図面30-11)



12 遺構外 167-KH10  
(図面30-12)



1 SI312J 181-JE01  
(図面31-1)



2 SI312J 181-JF01  
(図面31-2)



3 SI312J 181-JF02  
(図面31-3)



5 SI312J 181-JF04  
(図面31-5)



4 SI312J 181-JF03  
(図面31-4)



8 SI312J 181-JF07  
(図面31-8)



7 SI312J 181-JF06  
(図面31-7)



6 SI312J 181-JF05  
(図面31-6)



1 SI314 188-PK03  
(図面32-1)



2 SI314 188-PL02  
(図面32-2)



4 SI314 188-KD09  
(図面32-4・図版38-6)



3 SI314 188-KD08  
(図面32-3)



5 SI316 188-PH01  
(図面32-5)



6 SI316 188-PH02  
(図面32-6)



8 SI316 188-PK02  
(図面32-8・図版38-3)



7 SI316 188-PK01  
(図面32-7)



9 SI316 188-PL01  
(図面32-9)



1 SI316 188-KC01  
(図面33-1)



2 SI316 188-KC02  
(図面33-2)



1 SI316 188-KC03  
(図面34-1)



2 SI316 188-KD01  
(図面34-2)



1 SI316 188-KD02  
(図版35-1)



2 SI316 188-KD03  
(図版35-2)



3 SI316 188-KD04  
(図版35-3)



1 SI316 188-KD05  
(図面36-1・図版38-4)



2 SI316 188-KD06  
(図面36-2)



1 SI316 188-KD07  
(図面37-1・図版38-5)



2 SI317J 188-AG01  
(図面37-2)



3 SI317J 188-AG02  
(図面37-3)



4 SI317J 188-AL01  
(図面37-4)



5 遺構外 188-JE01  
(図面37-5)



6 遺構外 188-JE02  
(図面37-6)



7 遺構外 188-JE03  
(図面37-7)



8 遺構外 188-JE04  
(図面37-8)





1 SI322 198-PH01  
(図面38-1)



2 SI322 198-PK01  
(図面38-2)



3 SI322 198-PL01  
(図面38-3)



4 SI322 198-PL02  
(図面38-4)



5 SI322 198-PL03  
(図面38-5)



6 SI322 198-PL04  
(図面38-6)



8 SI322 198-KD01  
(図面38-8・図版39-10)



7 SI322 198-PL05  
(図面38-7)



10 SI322 198-KD03  
(図面38-10・図版39-11)



13 SI322 198-GL02  
(図面38-13)



11 SI322 198-KH01  
(図面38-11)



12 SI322 198-GL01  
(図面38-12)



9 SI322 198-KD02  
(図面38-9)



2 遺構外 204-KB01  
(図面39-2)



5 遺構外 204-KB04  
(図面39-5)



6 遺構外 204-KB05  
(図面39-6)



1 遺構外 204-PN01  
(図面39-1)



3 遺構外 204-KB02  
(図面39-3)



4 遺構外 204-KB03  
(図面39-4)



7 遺構外 204-KB06  
(図面39-7)





1 遺構外 204-KD01  
(図面40-1・図版38-7)



2 遺構外 204-KD02  
(図面40-2・図版38-8)



3 遺構外 204-KD03  
(図面40-3)



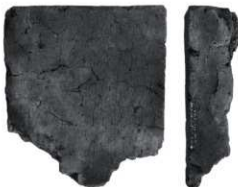
4 遺構外 204-KD04  
(図面40-4)



5 遺構外 204-KD05  
(図面40-5・図版38-9)



6 遺構外 204-KD06  
(図面40-6・図版38-10)



1 遺構外 204-KH01  
(図面41-1)



2 遺構外 204-KH02  
(図面41-2)



3 遺構外 204-AL01  
(図面41-3)



1 SI331 216-PH05  
(図面42-1)



2 SI331 216-PH06  
(図面42-2・図版39-1)



8 SI331 216-PK12  
(図面42-8)



9 SI331 216-PK13  
(図面42-9)



3 SI331 216-PK07  
(図面42-3・図版39-3)



5 SI331 216-PK09  
(図面42-5)



7 SI331 216-PK11  
(図面42-7)



10 SI331 216-PK14  
(図面42-10)



4 SI331 216-PK08  
(図面42-4)



6 SI331 216-PK10  
(図面42-6)



11 SI331 216-PL01  
(図面42-11)



1 SI331 216-KB01  
(図面43-1)



2 SI331 216-KB02  
(図面43-2)



4 SI331 216-KC02  
(図面43-4)



3 SI331 216-KC01  
(図面43-3)



1 SI331 216-KC03  
(図面44-1)



2 SI331 216-KC04  
(図面44-2)



3 SI331 216-KD01  
(図面44-3)



1 SI331 216-KD02  
(図面45-1)



2 SI331 216-KD03  
(図面45-2)





1 SI331 216-KD04  
(図面46-1)



2 SI331 216-KD05  
(図面46-2・図版39-4)



3 SI331 216-KD06  
(図面46-3・図版39-5)



1 SI331 216-KD07  
(図面47-1・図版39-6)



2 SI331 216-KD08  
(図面47-2・図版39-12)



3 SI331 216-KD09  
(図面47-3・図版39-7)



4 SI331 216-KD10  
(図面47-4)



5 SI331 216-KD11  
(図面47-5)



6 SI331 216-KD12  
(図面47-6)



7 SI331 216-KD13  
(図面47-7)



8 SI331 216-KD15  
(図面47-8)



9 SI331 216-KD16  
(図面47-9)



10 SI331 216-KD17  
(図面47-10)



1 SI331 216-KD18  
(図面48-1・図版39-8)



2 SI331 216-KD19  
(図面48-2)



3 SI331 216-KD20  
(図面48-3)



4 SI331 216-KD21  
(図面48-4)



5 SI331 216-KD22  
(図面48-5)



8 SI331 216-KD26  
(図面48-8)



6 SI331 216-KD23  
(図面48-6)



7 SI331 216-KD24  
(図面48-7)



9 SI331 216-KD25  
(図面48-9)



10 SI331 216-MM01  
(図面48-10)



12 SI331 216-AL01  
(図面48-12)



11 SI331 216-MZ01  
(図面48-11)



1 SI333 216-PH01  
(図面49-1)



2 SI333 216-PK01  
(図面49-2)



3 SI333 216-PK04  
(図面49-3)



4 SI333 216-PL04  
(図面49-4)



2 SI333 216-PK01  
(図面49-2)



6 SI333 216-KD14  
(図面49-6)



5 SI333 216-PN02  
(図面49-5)



8 SI333 216-TK01  
(図面49-8)



9 SI334 216-PH02  
(図面49-9)



7 SI333 216-TH02  
(図面49-7)



12 SI334 216-PK02  
(図面49-12)



11 SI334 216-PH04  
(図面49-11)



10 SI334 216-PH03  
(図面49-10)



14 SI334 216-PK06  
(図面49-14)



13 SI334 216-PK03  
(図面49-13)



1 SI334 216-PL02  
(図面50-1)



2 SI334 216-PL05  
(図面50-2)



3 SI334 216-PL03  
(図面50-3)



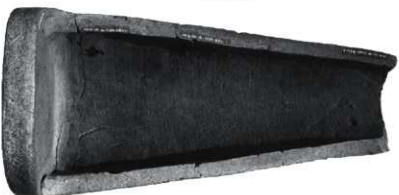
6 SI334 216-TH01  
(図面50-6)



4 SI334 216-PK05  
(図面50-4)



5 SI334 216-KA01  
(図面50-5)





1 遺構外 227-JE01  
(図面51-1)



2 遺構外 227-JE02  
(図面51-2)



3 遺構外 227-JE03  
(図面51-3)



4 遺構外 227-JF01  
(図面51-4)



5 遺構外 227-AG01  
(図面51-5)



6 遺構外 227-AG02  
(図面51-6)



7 遺構外 227-AL01  
(図面51-7)



1-1「運部直猪口」ヘラ書  
SD166 167-KC01 凹面  
(図面27-5・図版12-5)



1-2「豊」押印  
SD166 167-KC01 凸面  
(図面27-5・図版12-5)



4「播中」押印  
SD166 167-KD04 凹面  
(図面27-6・図版12-6)



2「多」押印  
SD165 167-KD02 凸面  
(図面27-1・図版12-1)



3「運部<sup>同</sup>」ヘラ書  
遺構外 167-KC02 凹面  
(図面30-1・図版15-1)



5 不明 ヘラ書  
遺構外 167-KD10 凸面  
(図面30-4・図版15-4)



6「草瓦」押印  
遺構外 167-KD11 凹面  
(図面30-5・図版15-5)



7「前」押印  
SD165 167-KD12 凹面  
(図面27-3・12-3)



8「珂」ヘラ書  
遺構外 167-KD16 凹面  
(図面30-7・図版15-7)



9「木<sup>同</sup>」ヘラ書  
遺構外 167-KD15 凹面  
(図面30-6・図版15-6)



10「在」押型  
SD166 167-KD06 凸面  
(図面27-7・図版12-7)



1 「比」押印  
遺構外 167-KD17 凹面  
(図面30-8・図版15-8)



2 「任原」押型  
遺構外 167-KD19 凸面  
(図面30-10・図版15-10)



3 不明 墨書  
SI316 188-PK02 体部外面  
(図面32-8・図版17-8)



4 「七」模骨文字  
SI316 188-KD05 凹面  
(図面36-1・図版21-1)



5 「任」押型  
SI316 188-KD07 凸面  
(図面37-1・図版22-1)



6 「任」押型  
SI314 188-KD09 凸面  
(図面32-4・図版17-4)



7 「□部木□」ヘラ書  
遺構外 204-KD01 凹面  
(図面40-1・図版25-1)



8 不明 ヘラ書  
遺構外 204-KD02 凹面  
(図面40-2・図版25-2)



9 「家」ヘラ書  
遺構外 204-KD05 凹面  
(図面40-5・図版25-5)



10 「荒墓郷若□」ヘラ書  
遺構外 204-KD06 凹面  
(図面40-6・図版25-6)

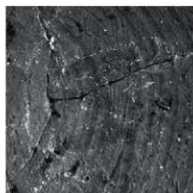




1 不明 墨書  
SI331 216-PH06 底部外面  
(図面42-2・図版27-2)



2 不明 墨書  
SI333 216-PK01 体部外面  
(図面49-2・図版34-2)



3 「王」墨書  
SI331 216-PK07 底部外面  
(図面42-3・図版27-3)



4 「大」押型  
SI331 216-KD05 凸面  
(図面46-2・図版31-2)



5 「大」押型  
SI331 216-KD06 凸面  
(図面46-3・図版31-3)



6 「大」押型  
SI331 216-KD07 凸面  
(図面47-1・図版32-1)



7 「多」模骨文字  
SI331 216-KD09 凹面  
(図面47-3・図版32-3)



8 不明 指書  
SI331 216-KD18 凹面  
(図面48-1・図版33-1)



9 不明 ヘラ書  
遺構外 167-KC03 凸面  
(図面30-2・図版16-2)

▼ 工具印痕



10 不明 ヘラ書  
SI322 198-KD01 凹面  
(図面38-8・図版23-8)



11 「在原」押型  
SI322 198-KD03 凸面  
(図面38-10・図版23-10)



12 「父」押型  
SI331 216-KD08 凸面  
(図面47-2・図版32-2)

## 報告書抄録

ふりがな	むさしこくぶんじあとはつくつちょうさがいはう 38
書名	武蔵国分寺跡発掘調査概報 38
副書名	昭和 54 ～ 60 年度 僧寺寺院地内等の調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	坂詰秀一 上敷領久 増井有真 依田亮一
編集機関	国分寺市教育委員会 国分寺市遺跡調査会
所在地	〒 185-0023 東京都国分寺市西元町 1-13-10 (国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課)
発行機関	国分寺市教育委員会
発行年月日	2013 年 3 月 31 日
規格 / 部数	A4 判横組 1 段 42 文字× 32 行 168 頁 (うち図版 39 頁) / 300 部

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
東京都 国分寺市 西元町 東元町	13-214	10-19	35° 41′ 6″	139° 28′ 1″	1979. 09. 20	1,344 m <sup>2</sup>	個人住宅建設等に 伴う緊急調査	
			～	～	～			
			35° 41′ 48″	139° 29′ 3″	1985. 11. 29			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
武蔵国分寺跡	寺院跡 集落跡	奈良・平安時代	掘立柱建物 竪穴住居 土坑 小穴 溝	土師器・須恵器・土師質土器・ 灰釉陶器・中近世陶器・鍔瓦・ 宇瓦・男瓦・女瓦・鬼瓦・埴・ 土鍾・羽口・砥石・釘・不明 鉄製品	
		縄文時代 (中期～後期)	竪穴住居 集石 土坑 小穴	縄文土器・打製石斧・磨石	

資料の保存先 資料の問合せ先	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課 〒 185-0023 東京都国分寺市西元町 1-13-10 (武蔵国分寺跡資料館内) TEL. 042-300-0073 FAX. 042-300-0091 E-mail: bunkaza@city.kokubunji.tokyo.jp
-------------------	---



## 武蔵国分寺跡発掘調査概報 38

—昭和 54 ～ 60 年度 僧寺寺院地内等の調査—

---

発行日	平成 25 (2013) 年 3 月 31 日
編 集	国分寺市教育委員会 国分寺市遺跡調査会
発 行	国分寺市教育委員会 〒 185-0023 東京都国分寺市西元町 1-13-10 (武蔵国分寺跡資料館内 ふるさと文化財課)
印 刷	鞆プリントショップ国分寺

---